

授業科目名	ActiveEnglish I (調理・製菓、栄養)				
担当教員名	J・ガーヴィー・寺島 恵・西村俊子・木下 謙・西紋茂樹・薮井恵美子・角村幸奈・吉江 正				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	Linc English Food Science Semester 1 を活用して、演習形式で英語を学習します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ActiveEnglish I (調理・製菓、栄養) では、レストランや給食によく使用する「果物」「野菜」「魚」「肉類」「調味料」などの食材、「調理器具」や「調理操作」の英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取る練習をします。また、習得した単語を使った短い会話文の聞き取り、簡単な質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまで練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイピングにより返答する練習もします。本授業では、リスニング、スピーキング、ライティングの3技能を中心に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

調理や給食現場におけるの対話を想定した本学のオリジナル英語教材を活用して、「果物」「野菜」「魚」「肉類」「調味料」などの食材、「調理器具」や「調理操作」などの必要な英語表現を習得します。

目標：

e-ランニング (Linc English) を自主的に活用して、ネイティブな発音と速さの実用的な英語表現を習得します。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内演習	20%	授業12回毎に演習問題の基礎的理解について20満点で評価する。
小テスト	20%	授業12回毎に授業内容の理解度について確認テスト10点で評価し、合計20満点で評価する。
中間テスト	10%	授業8回目に毎回の学習課題(自学自習)の成果を確かめるためにリスニングテストを実施する。
コースフォーラム	20%	授業12回毎にクラスフォーラム内では教員とのオーラルでの会話練習(スピーキング)の積極的参加とレッスンカテゴリごとに動画ビデオを見て、教員からの質問に対してレポート(ライティング)提出にて評価する。
プレゼンテーション	10%	授業15回目にグループごとに専門トピックのプレゼンテーションを評価基準シートに準じて総合的に評価する。
期末テスト	20%	全12レッスンの総合演習問題(60問出題)に対して20満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English 中にある、Food Science Semester 1 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>Linc Englishを使いこなしましょう。</p> <p>授業教材のLinc English のアプリケーションを自分のスマートフォンにインストールし、次週から使いこなせるように、Bronze I を練習します。授業の進め方、試験の課題、成績集計の方法などを説明します。</p>	<p>①コースフォーラムに自己紹介文を練習入力して（投稿）提出する。②L1の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第2回	<p>Lesson 1 食材の果物を英語で扱えるようになります。</p> <p>①Bronze I のAssesment Test (Pre-Toeic評価テスト)を実施します。 ②レストランや給食の食材によく使われる果物の取り扱いをネイティブの発音とスピードの英語で出来るようになります。</p>	<p>①Bronze I -L1`L2のListening演習問題をすること。②コースフォーラムにL1のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L2の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第3回	<p>Lesson 2 食材の野菜を英語で扱えるようになります。</p> <p>①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②レストランや給食の食材によく使われる野菜の取り扱いをネイティブの発音とスピードの英語で出来るようになります。</p>	<p>①Bronze I -L3`L4のListening演習問題をすること。②コースフォーラムにL2のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L3の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>Lesson 3 食材の野菜の切り方を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②レストランや給食によく使われる野菜や果物を切る方法（みじん切り、輪切りなど）をネイティブな発音の英語で表現できるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L5`L6のListening演習問題をすること。②コースフォーラムにL3のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L4の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>Lesson 4 色々な調理器具を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②業務用のコンロ、パレットナイフ、寸胴鍋など調理器具をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L7`L8のListening演習問題をすること。②コースフォーラムにL4のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L5の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>Lesson 5 良く使う魚や貝を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②サバ、シジミ、アジなど日常的によく使う魚や貝類をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L9`L10のListening演習問題をすること。②コースフォーラムにL5のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L6の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>Lesson 6 魚の下処理の方法を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②うるこの処理、洗浄、薄切りなど魚の下処理の方法をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L11`L12のListening演習問題をすること。</p> <p>1時間</p>
第8回	<p>英語の聞く力を試してみましょう！</p> <p>①自学自習の成果を確かめるためにBronze I のリスニングテストを実施します。 ②Lesson1`6の復習オーラル問題を実施します。</p>	<p>①コースフォーラムにL6のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L7の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第9回	<p>Lesson 7 12か月の行事食の特徴を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②正月料理、ひな祭り、端午の節句などの行事食をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL7のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L8の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第10回	<p>Lesson 8 畜産食品を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 7の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②鶏肉、豚肉、牛肉、ソーセージなどの食材をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL8のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L9の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第11回	<p>Lesson 9 みそ、しょうゆ、砂糖などの調味料を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②みそ、しょうゆ、砂糖などの調味料をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL9のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L10の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第12回	<p>Lesson 10 食材を調味する方法を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②塩や胡椒をふる、衣をつけるなどの調味方法の基本操作をネイティブな発音の英語で説明できるようにします。</p>	<p>①コースフォーラムにL10のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L11の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>

第13回	<p>Lesson 1 1 きのご類やナッツ類の食材を英語で説明できるようになりましょう。</p> <p>①Lesson 1 0 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②きのご類やナッツ類を食材を数と一緒にネイティブな発音の英語で説明できるようになりましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL11のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L12の予習をしておくこと。</p>	1時間
第14回	<p>Lesson 1 2 色々な調理操作を説明できるようになりましょう。</p> <p>①Lesson 1 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ゆでる、焼く、蒸す、盛り付けるなどの基本的な調理操作をネイティブな発音の英語で説明になりましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL12のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②レシピ紹介の準備をしておくこと。</p>	1時間
第15回	<p>レシピ紹介（プレゼンテーション）</p> <p>①Lesson 1 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②得意または好きなものを一品選び、英語でレシピを紹介します。</p>	<p>Food Science Semester 1 Lesson 1～1 2 の総合復習（期末テスト）の準備をすること。</p>	1時間

授業科目名	ActiveEnglish I (生活デザイン)				
担当教員名	J・ガーヴィー・寺島 恵				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	Linc English Life Design Course Semester 1 を活用して、演習形式で英語学習します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ActiveEnglish I (生活デザイン) では、ファッションに興味のある皆さんが、ファッションアイテム、デザイン、縫製の用具や基本操作、生地の性質や特徴など、基本的な表現をネイティブな発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した単語を使った短い会話文の聞き取り、簡単な質問に対してネイティブな発音とスピードで回答するまで練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイピングにより返答する練習もします。本授業では、リスニング、スピーキング、ライティングの3技能を中心に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッション関係現場におけるの対話を想定した本学のオリジナル英語教材を活用して、ファッションアイテム、デザイン、縫製の用具や基本操作、生地の性質や特徴など、基本的な英語表現を習得します。

目標：

e-ラーニング (Linc English) を自主的に活用して、ネイティブな発音と速さの実用的な英語表現を習得します。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内演習	20%	: 授業12回毎に演習問題の基礎的理解について20満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業12回毎に授業内容の理解度について確認テスト10点で評価し、合計20満点で評価する。
中間テスト	10%	: 授業8回目に毎回の宿題課題 (自学自習) の成果を確かめるためにリスニングテストを実施する。
コースフォーラム	20%	: 授業12回毎にコースフォーラム内では教員とのオーラルでの会話練習 (スピーキング) の積極的参加とレッスンカテゴリごとに動画ビデオを見て、教員からの質問に対してレポート (ライティング) を提出にて評価する。
プレゼンテーション	10%	: 授業15回目にグループごとに専門トピックのプレゼンテーションを評価基準シートに準じて総合的に評価する。
期末	20%	: 全12レッスンの総合演習問題 (60問出題) に対して20満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『参考文献を購入する必要はありません。Linc English 中にある、Life Design Course Semester 1 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>Linc English を使いこなそう。</p> <p>授業教材のLinc English のアプリケーションを自分のスマートフォンにインストールし、次週から使いこなせるようにBronze Iを練習します。授業の進め方、試験の課題、成績集計の方法などを説明します。</p>	<p>①コースフォーラムに自己紹介を練習入力して(投稿)提出する。②L1の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第2回	<p>Lesson 1 基本的な洋裁道具とファッションアイテムを英語で表現しよう。</p> <p>①Bronze I Assessment Test (PreToeic評価テスト)を実施します。 ②洋裁に必須の基本的道具(糸、ミシンなど)の名称やトップやボトムの基本的な名称を英語で伝えることができるように、ネイティブの発音をマスターしましょう。</p>	<p>①Bronze I -L1~L2のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL1のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L2の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第3回	<p>Lesson 2 色の表現力を高めて、ファッションセンスをアピールしましょう。</p> <p>①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②基本的な色の名称だけでなく、細やかな色の違いを英語で表現できるように、配色などの専門的な表現方法を覚えましょう。</p>	<p>①Bronze I -L3~L4のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL2のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L3の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>Lesson 3 おしゃれの方法を英語で伝えよう。</p> <p>①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ネイルやヘアメイク、フェイスメイクなどカタカナ英語ではなく、ネイティブの発音をマスターしましょう。</p>	<p>①Bronze I -L5~L6のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL3のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L4の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>Lesson 4 ファッションアイテムの英語表現をどんどん増やして伝えよう。</p> <p>①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②靴やボトムの英語表現を増やして、キャップ、ハイヒールなどファッションコーディネート英語表現を豊かにしましょう。</p>	<p>①Bronze I -L7~L8のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL4のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L5の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>Lesson 5 繊維の種類とその特徴を英語で表現する専門的な英語力を高めよう。</p> <p>①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②糸や織物の種類の英語表現を学び、布地を選べるファッションコーディネーターする準備をしましょう。</p>	<p>①Bronze I -L9~L10のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL5のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L6の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>Lesson 6 織物の原材料(糸)の違いを説明しよう。</p> <p>①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②織物の原材料である糸の特徴(絹、綿、羊毛)を英語で表現する専門的な英語力を身につけましょう。</p>	<p>①Bronze I -L11~L12のListening演習問題をする。②L7の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第8回	<p>英語の聞く力を試してみましょう。</p> <p>①自学自習の成果を確かめるためにBronze I のリスニングテストを実施します。 ②Lesson 1~6 の復習オーラル問題を実施します。</p>	<p>①コースフォーラムにL6のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L7の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第9回	<p>Lesson 7 ファッションコーディネートの小物を英語で表現しましょう。</p> <p>①Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②コサージュ、ストラップ、マフラーなどの小間物をネイティブな英語で伝えられるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL7のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L8の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第10回	<p>Lesson 8 ファッショングッズの縫製技術について英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②アイロン、前開、ボタン、スカートの切替ラインなど、縫製に必要な用語をネイティブな英語で伝えられるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL8のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L9の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第11回	<p>Lesson 9 洋服の取扱注意を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②洋服についている英語のラベルを読んで、服の取り扱い説明書を説明できるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL9のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L10の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第12回	<p>Lesson 10 色々な上着を英語で説明できるようになります。</p> <p>①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ダブルコート、スタジアムコート、ジャケットなどの上着の特徴をネイティブな英語で伝えられるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL10のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L11の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第13回	<p>Lesson 11 販売のファッションコーディネートの様子を英語で説明できるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL11のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L12の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>

	<p>①Lesson 1 0 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。</p> <p>②販売するためにトータルファッションをコーディネートしている様子をネイティブな英語で説明できるようになります。</p>		
第14回	<p>Lesson 12 繊維の測定や実験器具を英語で説明できるようになりましょう</p> <p>①Lesson11の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。</p> <p>②繊維の厚みやしなやかさを測定するための実験器具や操作を英語で説明できるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL12のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②好きなファッションアイテム紹介の準備をしておくこと。</p>	1時間
第15回	<p>Life Design Course Lesson 1～12の総合復習（テストと振り返り）</p> <p>①Lesson 1 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。</p> <p>②好きなファッションアイテムを一品選び、英語で紹介します。</p>	<p>Life Design Course Lesson 1～12の総合復習（期末テスト）の準備をしておくこと。</p>	1時間

授業科目名	Active English I (幼児教育)				
担当教員名	麻島徳子・西紋茂樹・藪井恵美子・久保祐美子・木下 謙・寺島 恵・西村俊子・J・ガーヴィー・山口和夫・角村幸奈・吉江 正				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	Linc English Early Childhood Education Semester 1を活用して、演習形式で英語学習します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ActiveEnglish I (幼児教育) では、保育園や幼稚園の子どもたちに日常英語を教えらるる先生をイメージして学習を進めます。「あいさつ」「遊び道具」「楽器」「動物」などの表現をネイティブ発音とスピードで聞き取る練習をします。また、習得した単語を使った短い会話文の聞き取り、簡単な質問に対してネイティブな発音とスピードで回答するまで練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイピングにより返答する練習もします。本授業では、リスニング、スピーキング、ライティングの3技能を中心に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

幼稚園や保育園において幼児との対話場面を想定した本学のオリジナル英語教材を活用して、「あいさつ」「色」「遊具」「歌遊び」「食べ物」「動物」などの幼児教育の現場に必要な英語表現を習得します。

目標：

e-ランニング (Linc English) を自主的に活用して、ネイティブな発音と速さの英語を聞き取る力を養います。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内演習	20%	: 授業12回毎に演習問題の基礎的理解について20満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業12回毎に授業内容の理解度について確認テスト10点で評価し、合計20満点で評価する。
中間テスト	10%	: 授業8回目に毎回の宿題課題 (自学自習) の成果を確かめるためにリスニングテストを実施する。
コースフォーラム	20%	: 授業12回毎にクラスフォーラム内では教員とのオーラルでの会話練習 (スピーキング) の積極的参加とレッスンカテゴリごとに動画ビデオを見て、教員からの質問に対してレポート (ライティング) を提出により評価する。
プレゼンテーション	10%	: 授業15回目にグループごとに英語表現 (歌や振り) の発表を評価基準シートに準じて総合的に評価する。
期末テスト	20%	: 全12レッスンの総合演習問題 (60問出題) に対して20満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English 中にある、Early Childhood Education Semester 1 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>Linc Englishを使いこなしましょう。</p> <p>授業教材のLinc English のアプリケーションを自分のスマートフォンにインストールし、次週から使いこなせるように、Bronze I を練習します。授業の進め方、試験の課題、成績集計の方法などを説明します。</p>	<p>①コースフォーラムに自己紹介を練習入力して（投稿）提出する。②L1の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第2回	<p>Lesson 1 子どもたちに英語のあいさつを教えましょう。</p> <p>①Bronze I のAssesment Test (Pre ToEIC評価テスト)を実施します。 ②おはようございます。ご飯を頂きます。さようなら。おやすみなさい。子どもたちとの毎日の挨拶をネイティブな発音とスピードで教えられるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L1`L2のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL1のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L2の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第3回	<p>Lesson 2 子どもたちに、色や時刻の英語表現を教えましょう。</p> <p>①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②子どもたちが好きな果物やクレヨンを使って色の名称、時計を使って簡単な時刻をネイティブな発音の英語で教えられる力をつけましょう。</p>	<p>①Bronze I -L3`L4のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL2のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L3の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>Lesson 3 あたま、かた、ひざ・・・ボディータッチゲームを英語でやりましょう。</p> <p>①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②あたま、かた、ひざなど体の部分の英語名称をしっかりと覚えて、子どもたちにボディータッチゲームをさせられるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L5`L6のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL3のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L4の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>Lesson 4 おはじき、こま、フラフープ、大縄・・・おもちゃを英語で教えましょう。</p> <p>①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②おはじき、こま、フラフープ、大縄跳びなど、子どもたちが好きな遊び道具をネイティブな発音の英語で教えられるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L7`L8のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL4のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L5の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>Lesson 5 子どもたちに、ネイティブの発音で楽器の名称を伝えましょう</p> <p>①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ピアノ、ギター、トライアングル、カスタネットなど子供たちが好きな楽器をネイティブな発音の英語で教えられるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L9`L10のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL5のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L6の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>Lesson 6 春、夏、秋、冬の行事や自然の変化を子どもに英語で教えましょう。</p> <p>①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②春、夏、秋、冬の様子をネイティブな発音の英語で子どもたちに説明できるようになります。</p>	<p>①Bronze I -L11`L12のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL6のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L7の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第8回	<p>英語の聞く力を試してみましょう。</p> <p>①自学自習の成果を確認するためにBronze I のリスニングテストを実施します。 ②Lesson1`6 の復習オーラル問題を実施します。</p>	<p>①コースフォーラムにL7のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L8の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第9回	<p>Lesson 7 いちご、スイカ、カボチャ・・・子どもたちが好きな食べ物の英語を教えましょう。</p> <p>①Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②いちご、スイカ、カボチャなど、身近な果物や野菜をネイティブな発音とスピードの英語で子供たちに教えられるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL8のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L9の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第10回	<p>Lesson 8 生き物の名称を英語で教えましょう。</p> <p>①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ネコ、イヌ、ペンギンなど・・・子どもたちが好きな生き物をネイティブな発音の英語で教えられようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL9のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L10の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第11回	<p>Lesson 9 はさみ、かご、絵筆・・・子どもたちが良く使う道具を英語で教えましょう。</p> <p>①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②はさみ、かご、絵筆など・・・子どもたちが毎日のように使う道具をネイティブな発音の英語で教えられようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL10のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L11の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第12回	<p>Lesson 10 洗顔、手洗い、入浴・・・毎日の生活習慣を英語で教えましょう。</p> <p>①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②洗顔、手洗い、入浴など・・・毎日の生活習慣をネイティブな発音の英語で教えられようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL11のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L12の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>

第13回	Lesson 1 1 家族のことを英語で教えましょう。	①コースフォーラムにL11のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L12の予習をしておくこと。	1時間
	①Lesson 1 0 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②お父さん、お母さん、お姉さん、弟など・・・子どもたちが家族のことをネイティブな発音の英語で話せるように教えてあげましょう。		
第14回	Lesson 1 2 晴、曇、雨、雷、雪・・・お天気の様子を英語で教えましょう。	①英語表現の一つとして歌（童謡や振り）紹介の準備をしておくこと。	1時間
	①Lesson 1 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②晴、曇、雨、雷、雪など・・・お天気の様子をネイティブな発音の英語で教えられようになりましょう。		
第15回	英語で歌や振りを表現しましょう（英語表現）	Early Childhood Education Lesson 1～1 2 の総合復習（期末テスト）の準備をすること。	1時間
	①Lesson 1 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②英語表現の一つとして歌（童謡や振り）を紹介します。		

授業科目名	Active English I (観光、経営会計、GC)				
担当教員名	久保祐美子・山口和夫・妻木麻紀子・溝井 一仁・寺島 恵				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	Linc English Global Business Course Semester 1 を活用して、演習形式で英語学習します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

Active English I (観光、経営会計、GC) では、ビジネスの取引、観光や旅行に関するサービス、文化に関わる業務に携わる時によく使われる英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した単語を使った短い会話文の聞き取り、簡単な質問に対してネイティブな発音とスピードで回答するまで練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイピングにより返答する練習もします。本授業では、リスニング、スピーキング、ライティングの3技能を中心に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

観光業や一般社会における対話を想定した本学のオリジナル英語教材を活用して、ビジネスの取引、観光や旅行に関するサービス、文化に関わる業務に携わる時によく使われる英語表現を習得します。

目標：

e-ラーニング (Linc English) を自主的に活用して、ネイティブな発音と速さの実用的な英語表現を習得します。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内演習	20%	: 授業12回毎に演習問題の基礎的理解について20満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業12回毎に授業内容の理解度について確認テスト10点で評価し、合計20満点で評価する。
中間テスト	10%	: 授業8回目に毎回の宿題課題 (自学自習) の成果を確かめるためにリスニングテストを実施する。
コースフォーラム	20%	: 授業12回毎にコースフォーラム内では教員とのオーラルでの会話練習 (スピーキング) の積極的参加とレッスンカテゴリごとに動画ビデオを見て、教員からの質問に対してレポート (ライティング) を提出にて評価する。
プレゼンテーション	10%	: 授業15回目にグループごとに専門トピックのプレゼンテーションを評価基準シートに準じて総合的に評価する。
期末テスト	20%	: 全12レッスンの総合演習問題 (60問出題) に対して20満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English 中にある、Global Business Course Semester 1 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>Linc Englishを使いこなしましょう。</p> <p>授業教材のLinc English のアプリケーションを自分のスマートフォンにインストールし、次週から使いこなせるように、Bronze I を練習します。授業の進め方、試験の課題、成績集計の方法などを説明します。</p>	①コースフォーラムに自己紹介を練習入力して(投稿)提出する。②L1の予習をしておくこと。1時間
第2回	<p>Lesson 1 日常の活動を英語で説明しましょう。</p> <p>①Bronze I のAssessment Test (Pre Toeic評価テスト)を実施します。実施します。 ②お辞儀の仕方、討論の姿勢、書道など日常の何気ない行動をビジネスマナーとしてネイティブな発音の英語で伝えるようになります。</p>	①Bronze I -L1`L2のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL1のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L2の予習をしておくこと。1時間
第3回	<p>Lesson 2 海外の観光旅行でよくある場面を英語で説明しましょう。</p> <p>①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②搭乗手続き、税関検査、手荷物の受取など海外の観光旅行でよくある場面をネイティブな発音の英語で説明しましょう。</p>	①Bronze I -L3`L4のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL2のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L3の予習をしておくこと。1時間
第4回	<p>Lesson 3 ビジネスオフィスの日常で使われるものを英語で説明しましょう。</p> <p>①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②銀行、電卓、お札、硬貨、名刺などビジネスオフィスの日常で使われるものをネイティブな発音の英語で説明しましょう。</p>	①Bronze I -L5`L6のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL3のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L4の予習をしておくこと。1時間
第5回	<p>Lesson 4 日本の文化を英語で説明しましょう。</p> <p>①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題のを実施します。 ②正座、十二支、急須など、身近な日本文化をネイティブな発音とスピードの英語で説明しましょう。</p>	①Bronze I -L7`L8のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL4のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L5の予習をしておくこと。1時間
第6回	<p>Lesson 5 ホテルや日本旅館の様子を英語で説明しましょう。</p> <p>①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ツインルーム、ロビー、フロントなどホテルや日本旅館の様子をネイティブな発音の英語で説明しましょう。</p>	①Bronze I -L9`L10のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL5のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。③L6の予習をしておくこと。1時間
第7回	<p>Lesson 6 ビジネスオフィスで使われる文具や書類を英語で覚えましょう。</p> <p>①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②スタンプ、パソコン周辺グッズ、貸借対照表などのビジネスオフィスで使われる文具や書類をネイティブな発音の英語で覚えましょう。</p>	①Bronze I -L11`L12のListening演習問題をする。1時間
第8回	<p>英語の聞く力を試してみましょう。</p> <p>①自学自習の成果を確かめるためにBronze I のリスニングテストを実施します。 ②Lesson 1～6 の復習オーラル問題を実施します。</p>	①コースフォーラムにL6のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L7の予習をしておくこと。1時間
第9回	<p>Lesson 7 国際協力や代表的な世界遺産の英語表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。 ②国際協力や代表的な世界遺産をネイティブな発音の英語表現を覚えましょう。</p>	①コースフォーラムにL7のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L8の予習をしておくこと。1時間
第10回	<p>Lesson 8 観光旅行の必須アイテムや日本代表的な観光スポットを英語で説明しましょう。</p> <p>①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。 ②列車の時刻表、パンフレットなどの観光旅行に必須のアイテム、大阪城や清水寺などの観光スポットをネイティブな発音の英語で説明できるようになります。</p>	①コースフォーラムにL8のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L9の予習をしておくこと。1時間
第11回	<p>Lesson 9 ビジネスの現場におけるコミュニケーションに関する英語表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。 ②名刺交換、握手、会釈などビジネスの現場におけるコミュニケーション方法の英語表現をネイティブな発音で説明できるようになります。</p>	①コースフォーラムにL9のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L10の予習をしておくこと。1時間
第12回	<p>Lesson 10 アニメ、音楽、ダンス、演劇の基本的なことを英語で説明しましょう。</p>	①コースフォーラムにL10のオーラル質問文に回答返信(投稿)し、発話練習もしておく。②L11の予習をしておくこと。1時間

	<p>①Lesson 9の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。</p> <p>②絵コンテ、楽器、社交ダンス、舞台道具などの基本用語の英語表現をネイティブな発音で説明できるようになります。</p>		
第13回	<p>Lesson 1 1 色々な観光旅行のスポットを英語で説明しましょう。</p> <p>①Lesson 9の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。</p> <p>②絵画鑑賞、トラッキング、着物の着付け体験など観光旅行のスポットをネイティブな発音の英語で説明できるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL11のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L12の予習をしておくこと。</p>	1時間
第14回	<p>Lesson 1 2 銀行で口座をつくりましょう。</p> <p>①Lesson 1 1の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。</p> <p>②銀行の通帳、印鑑など銀行で必要な単語を覚えて、基本的な会話ができるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL12のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②好きな観光スポット、文化の一つを英語で紹介する準備をしておくこと。</p>	1時間
第15回	<p>好きな観光スポットや文化紹介（プレゼンテーション）</p> <p>①Lesson 1 2の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。</p> <p>③好きな観光スポットや文化の一つを英語で紹介します。</p>	<p>Global Business Course Lesson 1～1 2の総合復習（期末テスト）の準備をすること。</p>	1時間

授業科目名	ActiveEnglish II (調理・製菓・栄養)			
担当教員名	J・ガーヴィー・寺島 恵・西村先生・西紋茂樹・藪井恵美子・木下 謙・角村幸奈・吉江 正			
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数 1
授業形態	Linc English Food Science Semester 2 を活用して、演習形式で英語を学習します。			

開放科目の指示：「可」

授業概要

Active English II (調理・製菓・栄養) では、調理師、パティシエ、フードコーディネーター、栄養士として食事作りやフードサービスの職に就く皆さんが、食材を生かした調理方法を英語で説明できることを目標としています。(日) (仏) (伊) のコース料理の基本調理方法、お菓子作りの基本操作、フードサービスの基本動作に関する動画を見ながら、習得した表現を使った会話文を聞き取り、文章を読み取り、質問に対してタイピングにより返答する練習もします。本授業では、聞く、読む、話す、書く、の4技能を中心に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

調理現場やフードサービスを想定した本学のオリジナル英語教材を活用して、(日) (仏) (伊) のコース料理の基本的な調理方法、お菓子作りの基本操作、フードサービスの基本動作などの英語表現を習得します。

目標：

e-ラーニング (Linc English) を自主的に活用して、ネイティブな発音と速さの実用的な英語表現を習得します。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内演習	20%	: 授業12回毎に演習問題の基礎的理解について20満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業12回毎に授業内容の理解度について確認テスト10点で評価し、合計20満点で評価する。
中間テスト	10%	: 授業8回目に毎回の宿題課題 (自学自習) の成果を確かめるためにリスニングテストを実施する。
コースフォーラム	20%	: 授業12回毎にクラスフォーラム内では教員とのオーラルでの会話練習 (スピーキング) の積極的参加とレッスンカテゴリごとに動画ビデオを見て、教員からの質問に対してレポート (ライティング) 提出にて評価する。
プレゼンテーション	10%	: 授業15回目にグループごとに専門トピックのプレゼンテーションを評価基準シートに準じて総合的に評価する。
期末テスト	20%	: 全12レッスンの総合演習問題 (60問出題) に対して20満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English 中にある、Food Science Semester 1 & 2 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>英語の聞く力を試してみよう！</p> <p>夏休み中の自学自習の成果を確かめるためにBronze II のリスニングテストを実施し、振り返りをします。</p>	<p>①コースフォーラムに夏休みの紹介英文を（投稿）提出する。②L1の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第2回	<p>Lesson 1 冷静オードブルとコンソメスープを作りますよ！</p> <p>Lesson 1 では、スモークサーモンの冷静オードブルとコンソメスープの作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①Bronze III-L1~L2のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL1のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L2の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第3回	<p>Lesson 2 オマールエビとホタテ貝柱のアメリカ風を作りますよ！</p> <p>①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 2 では、オマールエビとホタテ貝柱のアメリカ風の作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①Bronze III-L3~L4のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL2のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L3の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>Lesson 3 牛ヒレステーキを作りますよ！</p> <p>①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 3 では、牛ヒレステーキの作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①Bronze III-L5~L6のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL3のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L4の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>Lesson 4 レストランサービスを英語で解説しましょう！</p> <p>①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 4 では、レストランサービスの基本をネイティブな発音とスピードの英語で解説できるようになりましょう。</p>	<p>①Bronze III-L7~L8のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL4のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L5の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>Lesson 5 ショートケーキを作りますよ！</p> <p>①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 5 では、ショートケーキの作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①Bronze III-L9~L10のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL5のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L6の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>Lesson 6 会席料理の椀物、向付、鉢肴を作りますよ！</p> <p>①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 6 では、会席料理の椀物、向付、鉢肴の作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①Bronze III-L11~L12のListening演習問題をする。</p> <p>1時間</p>
第8回	<p>英語の聞く力を試してみよう！</p> <p>①自学自習の成果を確かめるためにBronze III のリスニングテストを実施します。 ②Food Science Lesson 1～6 復習オーラル問題を実施します。</p>	<p>①コースフォーラムにL6のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L7の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第9回	<p>Lesson 7 会席料理の強肴、止め肴、食事、水菓子を作りますよ！</p> <p>①Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 7 では、会席料理の強肴、止め肴、食事、水菓子の作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL7のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L8の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第10回	<p>Lesson 8 海の幸と野菜のマリネを作りますよ！</p> <p>①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Lesson 8 では、海の幸と野菜のマリネの作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL8のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L9の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第11回	<p>Lesson 9 ミネストローネを作りますよ！</p> <p>①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Lesson 9 では、ミネストローネの作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL9のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L10の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第12回	<p>Lesson 10 ペンネゴルゴンゾーラとアクアパッツアを作りますよ！</p> <p>①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Lesson 10 では、ペンネゴルゴンゾーラとアクアパッツアの作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL10のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L11の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第13回	<p>Lesson 11 牛肉のステーキを作りますよ！</p> <p>①Lesson 10 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Lesson 11 では、牛肉のステーキの作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになりましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL11のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L12の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>

第14回	Lesson 1 2 ガトーショコラを作りましたよ！	①コースフォーラムにL12のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②コース料理紹介の準備をしておくこと。	1時間
	①Lesson 1 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Lesson 1 2 では、ガトーショコラの作り方をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。		
第15回	コース料理紹介（プレゼンテーション）	Food Science Lesson 1～1 2 の総合復習（期末テスト）の準備をすること。	1時間
	①Lesson 1 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②自分が作ってみたい（食べたい）コース料理の簡単なレシピを英語で紹介します。		

授業科目名	ActiveEnglish II (生活デザイン)				
担当教員名	J・ガーヴィー・寺島 恵				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	Linc English Life Design Course Semester 2 を活用して、演習形式で英語学習します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ActiveEnglish II (生活デザイン) では、ファッション業界の職に就く皆さんが、ファッションアイテム、デザイン、縫製の特徴、生地 の性質や特徴など、ファッションに関することをスムーズに英語で表現できるように、英語表現をネイティブ発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した表現を使った会話を聞き取り、習得した表現を使った会話を聞き取り、文章を読み取り、質問に対してタイピングにより返答する練習もします。本授業では、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、の4技能を中心に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ファッション関係現場の対話を想定した本学のオリジナル英語教材を活用して、ファッションアイテム、デザイン、縫製の特徴、生地の性質や特徴など、ファッションに関する英語表現がスムーズにできるように習得します。

目標：

e-ラーニング (Linc English) を自主的に活用して、ネイティブな発音と速さの実用的な英語表現を習得します。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内演習	20%	授業12回毎に演習問題の基礎的理解について20満点で評価する。
小手テスト	20%	授業12回毎に授業内容の理解度について確認テスト10点で評価し、合計20満点で評価する。
中間テスト	10%	授業8回目に毎回の宿題課題(自学自習)の成果を確かめるためにリスニングテストを実施する。
コースフォーラム	20%	授業12回毎にコースフォーラム内では教員とのオーラルでの会話練習(スピーキング)の積極的参加とレッスンカテゴリごとに動画ビデオを見て、教員からの質問に対してレポート(ライティング)を提出にて評価する。
プレゼンテーション	10%	授業15回目にグループごとに専門トピックのプレゼンテーションを評価基準シートに準じて総合的に評価する。
期末テスト	20%	全12レッスンの総合演習問題(60問出題)に対して20満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English 中にある、Life Design Course Semester 1 & 2 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>英語の聞く力を試してみましょう。</p> <p>夏期休暇中の自学自習の成果を確かめるためにBronze II のリスニングテストを実施し、振り返りを実施します。</p>	1時間
第2回	<p>Lesson 1 トップやボトムの各部位のデザイン表現を覚えよう。</p> <p>Lesson 1 では、フレンチスリーブ、クルーネック、パッチポケットなど、トップやボトムの各部位のデザイン表現をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>	1時間
第3回	<p>Lesson 2 ワンピースやドレスの色々な形のデザイン表現を覚えよう。</p> <p>①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 2 では、シャツワンピース、ベルボトムなどのデザイン表現をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>	1時間
第4回	<p>Lesson 3 洋服を買いに行きましょう。</p> <p>洋服を買う時に注意したいことをネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。 ①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 3 では、洋服を買う時に注意したいことをネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>	1時間
第5回	<p>Lesson 4 洋服の販売をしてみましょう。</p> <p>①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 4 では、洋服を販売する時に必要な英語表現をネイティブな発音とスピードで伝えられるようになります。</p>	1時間
第6回	<p>Lesson 5 色彩のイメージや慣用色名を英語で表現しましょう。</p> <p>①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 5 では、自然を連想する色や彩度、カナリヤなどの慣用色名をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>	1時間
第7回	<p>Lesson 6 洋服のデザイン法を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 6 では、ポートネック、ピスチエドレス、ワイドパンツなどのデザイン法をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>	1時間
第8回	<p>英語の聞く力を試してみましょう。</p> <p>①自学自習の成果を確かめるためにBronze III のリスニングテストを実施します。 ②Lesson 1～6 の復習オーラル問題を実施します。</p>	1時間
第9回	<p>Lesson 7 コートなどの上着のデザイン表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 7 では、マオカラージャケット、チェスターフィールドコートなどの上着のデザイン表現をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>	1時間
第10回	<p>Lesson 8 コーディネートしながら買い物を楽しみましょう。</p> <p>①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 8 では、スーツ、帽子やバッグなどをコーディネートしながら買い物する英語表現をネイティブな発音とスピードで伝えられるようになります。</p>	1時間
第11回	<p>Lesson 9 色々なウェディングスタイルの英語表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 9 では、和式や洋式のウェディングスタイルの英語表現をネイティブな発音とスピードで伝えられるようになります。</p>	1時間
第12回	<p>Lesson 10 配色原理を英語で表現しましょう。</p> <p>①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 10 では、色相環を使った配色の原理をネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>	1時間
第13回	<p>Lesson 11 縫製に必要なデザイン表現を覚えましょう。</p>	1時間

	<p>①Lesson 10の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。</p> <p>②Lesson 11教材はラップルカラー、シームポケットなど縫製に特徴のあるデザインをネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>		
第14回	<p>Lesson 12 文化を表現しているファッションを覚えましょう。</p> <p>①Lesson 11の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。</p> <p>②Lesson 12では、仮面舞踏会、歌舞伎化粧など文化を表現するファッションをネイティブな発音とスピードの英語で伝えられるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL12のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②ファッショントータルコーディネート紹介の準備をしておくこと。</p>	1時間
第15回	<p>トータルコーディネート紹介（プレゼンテーション）</p> <p>①Lesson 12の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。</p> <p>②好きなファッショントータルコーディネートを英語で紹介します。</p>	<p>Food Science Lesson 1～12の総合復習（期末テスト）の準備をしておくこと。</p>	1時間

授業科目名	ActiveEnglish II (幼児教育)				
担当教員名	麻島徳子・西紋茂樹・藪井恵美子・久保祐美子・木下謙・寺島恵・西村俊子・J・ガーヴィー・山口和夫・角村幸奈・吉江正				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	Linc English Early Childhood Education Semester 2 を活用して、演習形式で英語学習します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ActiveEnglish II (幼児教育) では、保育園や幼稚園で外国の子供たちの日常生活をケアできる先生をイメージした学習を進めます。「痛みを訴える子ども」「ケンカした子どもの気持ち」「たのしく遊ぶ子ども」など、子どもの表情や感情を理解できるように、様々な英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した表現を使った会話文を聞き取り、文章を読み取り、質問に対してタイミングにより返答する練習もします。本授業では、聞く、読む、話す、書く、の4技能を中心に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

幼稚園や保育園の幼児との対話場面を想定した本学オリジナル英語教材を活用して、「痛みを訴える子ども」「ケンカした子どもの気持ち」「たのしく遊ぶ子ども」などの幼児教育の現場に必要な英語表現を習得します。

目標：

e-ラーニング (Linc English) を自主的に活用して、ネイティブな発音と速さの実用的な英語表現を習得します。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内演習	20%	: 授業12回毎に演習問題の基礎的理解について20満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業12回毎に授業内容の理解度について確認テスト10点で評価し、合計20満点で評価する。
中間テスト	10%	: 授業8回目に毎回の宿題課題 (自学自習) の成果を確かめるためにリスニングテストを実施する。
コースフォーラム	20%	: 授業12回毎にコースフォーラム内では教員とのオーラルでの会話練習 (スピーキング) の積極的参加とレッスンカテゴリごとに動画ビデオを見て、教員からの質問に対してレポート (ライティング) を提出にて評価する。
プレゼンテーション	10%	: 授業15回目にグループごとに英語表現 (絵本の読み聞かせ・童話劇) の発表を評価基準シートに準じて総合的に評価する。
期末試験	20%	: 全12レッスンの総合演習問題 (60問出題) に対して20満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English の中にある、Early Childhood Education Semester 1 & 2 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業の前後に非常勤講師控室に来てください

授業計画

			授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	英語の聞く力を試してみましょう。 夏期休暇中の自学自習の成果を確かめるためにBronze II のリスニングテストを実施し、振り返りをします。	①コースフォーラムに夏休みの紹介英文を（投稿）提出する。②L1の予習をしておくこと。	1時間
第2回	Lesson 1 子どもの気持ち伝えましょう。 嬉しい、楽しい、悲しい、怒る、困るなどの感情を汲み取って、表現する方法をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①Bronze III-L1~L2のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL1のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L2の予習をしておくこと。	1時間
第3回	Lesson 2 果物や野菜を使って、色と数を伝えましょう。 ①Lesson 1の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 2では、リンゴ、梨、パイナップル、ピーマンなどを使って、色や数をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①Bronze III-L3~L4のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL2のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L3の予習をしておくこと。	1時間
第4回	Lesson 3 からだのしくみを覚えましょう。 ①Lesson 2の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 3では、子どもが、体の不調を訴えるとき、どこが痛いかを伝えられるように、目、鼻、口、筋肉、骨、心臓、肺など、からだの部位をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①Bronze III-L5~L6のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL3のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L4の予習をしておくこと。	1時間
第5回	Lesson 4 子どもたちが、好きな遊具の遊び方を伝えましょう。 ①Lesson 3の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 4では、滑り台、ブランコ、シーソーなどの子どもたちが好きな遊具の名称と遊び方をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①Bronze III-L7~L8のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL4のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L5の予習をしておくこと。	1時間
第6回	Lesson 5 掃除、犬の散歩など、日常にある動作を表現しましょう。 ①Lesson 4の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 5では、掃除や犬の散歩、ホッチキスやゼロテープなど子供たちが日常の生活に良く起りそうな出来事をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①Bronze III-L9~L10のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL5のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L6の予習をしておくこと。	1時間
第7回	Lesson 6 入学式、節分、七夕などの行事を伝えましょう。 ①Lesson 5の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 6では、入学式、節分、雛まつり、七夕、クリスマスなど子どもたちが楽しみにしている行事をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①Bronze III-L11~L12のListening演習問題をする。	1時間
第8回	英語の聞く力を試してみましょう。 ①自学自習の成果を確かめるためにBronze IIIのリスニングテストを実施します。 ②Lesson 1～6 復習オーラル問題を実施します。	①コースフォーラムにL6のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L7の予習をしておくこと。	1時間
第9回	Lesson 7 給食のメニューや栄養の話をしましょう。 ①Lesson 6の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 7では、給食のメニューや食材に含まれる栄養素の簡単な話をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①コースフォーラムにL7のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L8の予習をしておくこと。	1時間
第10回	Lesson 8 テントウムシ、トンボ、カブトムシなどの身近で小さな生き物を伝えましょう。 ①Lesson 7の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 8では、子どもたちが公園などで見つけるテントウムシ、トンボ、カブトムシなどの身近な昆虫をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①コースフォーラムにL8のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L9の予習をしておくこと。	1時間
第11回	Lesson 9 ハンカチ、ハンガー、扇風機など日常生活に使うものを伝えましょう。 ①Lesson 8の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 9では、ハンカチ、ハンガー、扇風機などの日常に使う道具の名称と簡単な使い方をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①コースフォーラムにL9のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L10の予習をしておくこと。	1時間
第12回	Lesson 10 歌う、跳ねる、並ぶなどの子どもたちが日常の活動を伝えましょう。 ①Lesson 9の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 10では、歌う、跳ねる、並ぶ、片づける、自転車に乗る、などの日常の活動をネイティブな発音とスピードで教えられるようになりましょう。	①コースフォーラムにL10のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L11の予習をしておくこと。	1時間
第13回	Lesson 11 アイロン、うちわ、霧吹き、カレンダーなど日常生活で使う道具を伝えましょう。	①コースフォーラムにL11のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L12の予習をしておくこと。	1時間

	<p>①Lesson 10の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 11では、アイロン、うちわ、霧吹き、カレンダー、温度計、薬箱、など日常生活で使う道具の名称と使い方をネイティブな発音とスピードで教えられるようになります。</p>		
<p>第14回</p>	<p>Lesson 12 三輪車、輪投げ、ボール遊びなど、子どもたちが好きな遊びを伝えましょう。</p> <p>①Lesson 11の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 12では、三輪車、輪投げ、ボール遊び、積木、プランコなど、子どもたちが好きな遊びをネイティブな発音とスピードで教えられるようになります。</p>	<p>①コースフォーラムにL12のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習しておく。②絵本の読み聞かせ表現の準備をしておくこと。</p>	<p>1時間</p>
<p>第15回</p>	<p>絵本の読み聞かせを英語で紹介してみましょう。（英語表現）</p> <p>①Lesson 12の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②好きな絵本を英語で読み聞かせをします。</p>	<p>Early Childhood Education Lesson 1～12の総合復習（期末テスト）の準備をする。</p>	<p>1時間</p>

授業科目名	ActiveEnglish II (観光、経営会計、GC)				
担当教員名	久保祐美子・山口和夫・妻木麻紀子・溝井 一仁・寺島 恵				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	Linc English Global Business Course Semester 2 を活用して、演習形式で英語学習します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ActiveEnglish II (観光、経営会計、GC) では、卒業後に観光、旅行、金融、サービス業に就く皆さんが、日常の英会話がスムーズにできるように、英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した表現を使った会話文を聞き取り、文章を読み取り、質問に対してタイピングにより返答する練習もします。ActiveEnglish II (観光、経営会計、GC) では、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、の4技能を中心に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

観光、旅行、金融、サービス業における対話を想定した本学のオリジナル英語教材を活用して、日常の英会話がスムーズにできるように、よく使われる英語表現を習得します。

目標：

e-ラーニング (Linc English) を自主的に活用して、ネイティブな発音と速さの実用的な英語表現を習得します。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内演習	20%	: 授業12回毎に演習問題の基礎的理解について20満点で評価する。
小テスト	20%	: 授業12回毎に授業内容の理解度について確認テスト10点で評価し、合計20満点で評価する。
中間テスト	10%	: 授業8回目に毎回の宿題課題 (自学自習) の成果を確かめるためにリスニングテストを実施する。
コースフォーラム	20%	: 授業12回毎にコースフォーラム内では教員とのオーラルでの会話練習 (スピーキング) の積極的参加とレッスンカテゴリごとに動画ビデオを見て、教員からの質問に対してレポート (ライティング) を提出にて評価する。
プレゼンテーション	10%	: 授業15回目にグループごとに専門トピックのプレゼンテーションを評価基準シートに準じて総合的に評価する。
期末テスト	20%	: 全12レッスンの総合演習問題 (60問出題) に対して20満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English 中にある、Global Business Course Semester 1 & 2 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安時間
第1回	<p>英語の聞く力を試してみましょう。</p> <p>夏期休暇中の自学自習の成果を確かめるためにBronze II のリスニングテストを実施し、振り返りをします。</p>	<p>①コースフォーラムに夏休みの紹介英文を（投稿）提出する。②L1の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第2回	<p>Lesson 1 日本の文化や活動を表現しましょう。</p> <p>Lesson 1 では、お花見、日本茶、盆踊りなど日本の文化や行事の表現を覚え、一般的な英語会話の表現方法を増やしましょう。</p>	<p>①Bronze III-L1~L2のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL1のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L2の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第3回	<p>Lesson 2 海外旅行に出かけるために必要な英語表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 2 では、クレームタグ、検疫、パスポート検査など、出入国する時に必要な英語表現をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①Bronze III-L3~L4のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL2のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L3の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>Lesson 3 オフィスワークの様子を英語で表現しましょう。</p> <p>①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 3 では、メモを取る、会議をする、打ち合わせをするなど、オフィスワークの英語表現を覚えます。</p>	<p>①Bronze III-L5~L6のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL3のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L4の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>Lesson 4 日本の生活や文化を伝えましょう。</p> <p>①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 4 では、布団をたたむ、かるた遊び、盆栽など日本の生活や文化の表現方法をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①Bronze III-L7~L8のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL4のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L5の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>Lesson 5 色々な国の文化を表現する力をつけましょう。</p> <p>①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 5 では、ソムリエ、ミュージカル、結構式など多様な国の文化の英語表現をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①Bronze III-L9~L10のListening演習問題をする。②コースフォーラムにL5のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。③L6の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>Lesson 6 紙幣や流通に関する英語表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 6 では、ユーロ紙幣、ドル紙幣、為替レート、消費税などに関する英語表現をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①Bronze III-L11~L12のListening演習問題をする。②L12の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第8回	<p>英語の聞く力を試してみましょう。</p> <p>①自学自習の成果を確かめるためにBronze III のリスニングテストを実施します。 ②Lesson 1～6 の復習オーラル問題を実施します。</p>	<p>①コースフォーラムにL6のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L7の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第9回	<p>Lesson 7 世界各国の特徴的な文化を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 7 では、タージ・マハル、ヘラクレスの塔、シドニー・オペラハウスなど、各国を代表する文化を英語でネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL7のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L8の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第10回	<p>Lesson 8 日本や諸外国の文化を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 8 では、京都の伏見稲荷の千本鳥居、ブラジルのコロンバードのキリスト像など、観光スポットである各国の代表的な文化をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL8のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L9の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第11回	<p>Lesson 9 エネルギー資源や環境保全への取組みに関する表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 9 では、太陽光発電、風力発電、リサイクル資源の表示などの英語表現をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL9のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L10の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第12回	<p>Lesson 10 芸術文化に関する英語表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 10 では、ピアノリサイタル、油絵、舞台芸術に関する英語表現をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL10のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L11の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>
第13回	<p>Lesson 11 観光旅行の楽しさを伝える表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 10 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 11 では、駅弁、夜行バスなどの観光旅行やその楽しみに関わる表現をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL11のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②L12の予習をしておくこと。</p> <p>1時間</p>

第14回	<p>Lesson 1 2 どの国にもある特殊な職業の英語表現を覚えましょう。</p> <p>①Lesson 1 1の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 1 2では、救急救命隊員、消防隊員、警察官などの特殊な職業の英語表現をネイティブな発音とスピードで覚えましょう。</p>	<p>①コースフォーラムにL12のオーラル質問文に回答返信（投稿）し、発話練習もしておく。②観光やビジネスの企画案を英語で紹介する準備をしておくこと。</p>	1時間
第15回	<p>ビジネス企画紹介（プレゼンテーション）</p> <p>①Lesson 1 2の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ③観光やビジネスの企画案を英語で紹介します。</p>	<p>Global Business Course Lesson 1～1.2の総合復習（期末テスト）の準備をしておく。</p>	1時間

授業科目名	基礎英語 A				
担当教員名	木下 謙				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	English Writing for Global Communicationを活用し、演習形式で授業を行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

English Writing for Global Communicationのテキストを使用し、文法事項の確認、練習問題へと進め、振り返りの小テストをして定着度の確認を行いながら、宿題等も課す予定。また英語の音楽、映画を活用し、リスニングの力をつけ、英文スクリプトを用意して読む力も養います。最終的に英語で自己紹介スピーチを行う。リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能のバランスのとれた習得を図り、英語コミュニケーション能力の基礎を固め、その定着と向上を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	基本的な英語理解	基礎的な英語力の育成に努める。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		英語で自己紹介（発表）できるよう、様々な英語の表現方法を学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	40%	: 授業内での練習問題への積極的参加を評価する。 与えられたトピックについてレポート提出で評価する。
小テスト	30%	: 毎回の授業内に小テストを行い、理解度により評価する。
期末テスト	30%	: 最終回に期末テストを実施し、30満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に対応します。

授業計画

回数	授業の進め方などの説明		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の進め方などの説明 English Writing for Global Communication テキスト教材、学習方法の進め方を説明します。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について復習する。	1時間
第2回	Lesson 1 Self Introduction Lesson 1 Self Introductionモデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第3回	Lesson 2 A day in my life	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間

	Lesson 2 A day in my lifeモデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。		
第4回	Lesson 3 My family Lesson 3 My familyについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第5回	Lesson 4 My town and neighborhood Lesson 4 My town and neighborhoodについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第6回	Lesson 5 My likes and interests Lesson 5 My likes and interestsについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第7回	Lesson 6 The joy of shopping Lesson 6 The joy of shoppingについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第8回	Lesson 7 My campus life Lesson 7 My campus lifeについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第9回	Lesson 8 My kind of career Lesson 8 My kind of careerについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第10回	Lesson 9 Romance, dating and marriage Lesson 9 Romance, dating and marriageについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第11回	Lesson 10 Travel and correspondence Lesson 10 Travel and correspondenceについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第12回	Lesson 11 Educational issues Lesson 11 Educational issuesについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第13回	Lesson 12 Marketing and economics Lesson 12 Marketing and economicsについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第14回	Lesson 13 Society in the future Lesson 13 Movie or Musicについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	英語で自己紹介 (表現) の発表ができるように準備をしておくこと。	1時間
第15回	総合復習 Lesson 13までの学習内容について、再度理解できているかを確認する。 英語で自己紹介をする。	期末試験の準備をしておくこと。	1時間

授業科目名	基礎英語B				
担当教員名	木下 謙				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	Let's Talk and Communicate!を活用し、演習形式で授業を行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

Let's Talk and Communicateを使用し、今までの学習を復習し、前期と同様、テキストにそって進め、文法、語法を確認しながら、練習問題へと進め、振り返りの小テストをして定着度の確認を行いながら、宿題なども課す予定。また、英語の音楽、映画を活用して、リスニング力を鍛え、最終的に英語で自己アピールできるよう、様々な英語の表現方法を学ぶ。本事業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能のバランスのとれた習得を図り、英語コミュニケーション能力の活用と向上を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	実践的な英語表現理解	総合的な英語力の育成に努める。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		英語で自己アピールできるよう、様々な英語の表現方法を学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	40%	授業内での練習問題への積極的参加を評価する。 授業内で与えられたトピックについてレポート提出で評価する。
小テスト	30%	毎回授業内に小テストを行い、理解度により評価する。
期末テスト	30%	最終回に期末テストを実施し、30満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介・辞書持参

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後に対応します。

授業計画

回数	授業の進め方の説明と前期の復習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の進め方の説明と前期の復習 前期テストの復習 テキスト教材について、学習方法の進め方を説明する。	1時間
第2回	Lesson 1 Part-time Jobs Lesson 1 Part-time Jobsについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar & Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	1時間
第3回	Lesson 2 Comparative Culture	1時間

	Lesson 2 Comparative Cultureについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。		
第4回	Lesson 3 A Passage to Canada Lesson 3 A Passage to Canadaについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第5回	Lesson 4 Aging Society with Declining Birthrate Lesson 4 Aging Society with Declining Birthrateについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第6回	Lesson 5 Sports Lesson 5 Sportsについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第7回	Lesson 6 Endangered Languages Lesson 6 Endangered Languagesについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第8回	Lesson 7 Carp Streamers and Doll Festival Lesson 7 Carp Streamers and Doll Festivalについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第9回	Lesson 8 Global Warming and Environmental Crisis E-mail Lesson 8 Global Warming and Environmental Crisis E-mailについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第10回	Lesson 9 Globalism and War Lesson 9 Globalism and Warについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第11回	Lesson 10 Enchanting Japanese Cuisine Lesson 10 Enchanting Japanese Cuisineについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第12回	Lesson 11 Educational Reform Strays Lesson 11 Educational Reform Straysについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第13回	Lesson 12 Examinations and Papers Lesson 12 Examinations and Papersについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第14回	Lesson 13 Job Interview Lesson 13 Job Interviewについて、モデル英文 (Dialogue, Grammar && Phrases Exercises) を中心に基本的な口語英語と文法事項を学習し、体系的な学習 (Expressions for Communication) と振り返りの小テストをする。	次回に該当するテキスト部分の通読。文法や語彙・表現について予習する。	1時間
第15回	総合復習 Lesson 13の学習内容を再度理解できているかを確認する。英語で自己アピールをする。	期末テストの準備をしておくこと。	1時間

授業科目名	英語会話 1			
担当教員名	J・ガーヴィー			
学年・コース等	1・2	開講時期	前期	単位数 1
授業形態	There will a variety of speaking , listening and writing activities in the class.			

開放科目の指示：「不可」

授業概要

This course will focus on the basics of English. What you need when traveling abroad. This will be through games; quizzes and listening activities. It will make you for having the opportunity to practice your overall English ability. And moreover aims to provide for giving you get more chances to make good use of English for making communication with English expands students' potential possibilities.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	英語の活用力	日常的な話題について英語で意思疎通できるように、英語力を磨くことができる。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		自身の考えや意見を他者に伝え、理解力、発信力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

レベルチェック

50%

受講態度

50%

評価の基準

: 担当教員との英語でのコミュニケーションにおいて、英語における発音、英語構成力、理解力、表現力より独自のルーブリックで評価する。

: 授業内における担当教員との英語でのコミュニケーションを評価対象とし、受講態度における総合評価を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Please buy a 100 yen notebook

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： Qust can be written down (in English and Japanese) and put into my post box in the office or given to Kyomuka.

授業計画

授業計画			授業外学修課題にかかるとの目安時間
第1回	This class rules General introduction to the class. Class requirements, handouts, students' questions regarding the course.	Review Classroom English	1時間
第2回	Classroom English How to ask for help from the teacher or from other students in English	Review Classroom English	1時間
第3回	Basic Self Introductions Students learn how to talk about themselves; name , age , hobby etc	Review Classroom English	1時間
第4回	Asking and Answering Inroduction questions	Review Classroom English	1時間

	Asking other students about their life , likes dislikes etc		
第5回	Family Students talk about their family and relationships	Review Classroom English	1時間
第6回	Names and Addresses How to ask and check ;Names and telephone numbers	Review Classroom English	1時間
第7回	Review Quiz There will be a short review will of the material covered in the class	Review Classroom English	1時間
第8回	Numbers Compare Japan and England using numbers	Review Classroom English	1時間
第9回	Food How to talk about your favorite food and make and read a menu in English	Review Classroom English	1時間
第10回	Money How to talk about and use money from around the world. The Dollar; Pound, Euros etc.	Review Classroom English	1時間
第11回	Making a Reservation for a Restaurant How to order in a restaurant and how to make a reservation	Review Classroom English	1時間
第12回	Likes and dislikes Students talk about things they like and don` t like	Review Classroom English	1時間
第13回	Directions Students give directions to their favorite restaurants and sightseeing spots	Review Classroom English	1時間
第14回	Review Quiz and Reflection There will be a final review quiz, these questions are the same type as in the final test .	Review Classroom English	1時間
第15回	Final Test and Reflection This final test will be of 30 Interview questions (It is not a paper test so you will have to listen and then answer the questions) THIS TEST IS 100% OF THE GRADE FOR THE CLASS...YOU MUST ANSWER 60% CORRECTLY TO PASS THIS COURSE	Personal profile to be written about the personal interview	1時間

授業科目名	海外語学演習（韓国語）				
担当教員名	金 志善				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	配布するプリントにそって授業を進めます。マンツーマンの語学指導方式を取り入れて、学生からの質問・疑問点・問題点を積極的に聞き、韓国語会話をより効果的に高めるようにします。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

この授業は、海外語学留学、短期交換留学のため韓国の大学に向かう学生のための授業です。留学生生活をスムーズに開始し、現地に適応して有意義な留学生生活を過ごすことができるように、事前に学んでもらう授業です。

留学生活での不安がなくなるように、受講生個々の意見を聞きながら積極的にサポートしていきます。本科目は語学留学（研修）を含めて2単位が認定されるもので、事前に4回（2時間を2日）、「第5回～14回 海外語学留学（21日間）」、事後に1回の授業からなります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 異文化理解の知識を養い、判断力・思考力を高めることができる。	目標： 海外語学研修を完遂すること
汎用的な力 1 . DP7. 完遂		自身の目標を立て、現地の文化体験、韓国語の学習体験等を実行し、海外語学研修を完遂すること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

3回の小テスト

評価の基準

： 「読み・書き・聞きとり・会話」の4レベルをはかる。
(10点×3回：30点)

30%

授業内の課題提出

： 韓国語で自己紹介課題を完成し、提出する。文書表現の正確さにより評価する。

20%

プレゼンテーション

： 留学生活で学んだこと、得たこと、体験したことなどを異文化コミュニケーションの観点から評価する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『できる韓国語 初級』（DEKIRU出版、2010）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修時間が必要となる（事前授業・事後授業・語学研修・授業外学修の合計時間）。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限
 場所： 西館5階 金研究室
 備考・注意事項： Eメール：kim-j@osaka-seikei.ac.jp
 学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画

第1回	韓国語の基礎的な語学力の確認・会話文例を学ぶ（1）	学んだことの復習と不明なところをチェックする。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	プリントにそって会話文例などを学び、暗誦できるよう練習します。		4時間
第2回	韓国語の会話文例を学ぶ（2）	学んだことの復習と不明なところをチェックする。	4時間
	プリントにそって、会話文例などを学び、暗誦できるよう練習します。		
第3回	韓国語の会話文例を学ぶ（3）	学んだことの復習と不明なところをチェックする。	4時間

	プリントにそって、会話文例などを学び、暗誦できるよう練習します。		
第4回	韓国の生活習慣・社会・文化について理解する。 韓国の生活習慣と文化の特徴について学び理解する。質問、疑問点を積極的に出し、日本とどのように違うのか、異なるのかを考えながら、異文化理解を図ります。	自己紹介を暗記する。	4時間
第5回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第6回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第7回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第8回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第9回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第10回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第11回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第12回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第13回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第14回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習する。	4時間
第15回	語学留学で習得した成果をまとめる。 語学留学を終えたあと、留学生活で学んだこと、得たことを、口頭で報告発表してもらおう。さまざまな体験のなかから、まず語学面において習得した成果について、また実生活を通して感じたこと、体験したこと、学んだことについて、異文化理解の観点からまとめてもらいます。この発表内容をまとめてレポートを作成し、提出することになります。	作成したレポートをまとめる。	4時間

授業科目名	基礎韓国語 A				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	教科書の順番に沿って、正確に理解し身につけるよう反復しながら進めていきます。最初は韓国語の文字である「ハングル」の習得に重点をおき、次第にテキストに沿って発音の練習、単語、文型、本文を学習します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は韓国語を全く知らない学習者が基礎からしっかり学び、韓国の生活や文化を理解しながら基本的な日常会話ができることを目標としています。文字である「ハングル」や発音の習得からはじめ、基本文型や文法を学びながら「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の領域をバランスよく学習していきます。特に映像など様々な資料を用いて、初心者が韓国語を身近く感じ、より楽しく身につけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	韓国語に関する知識(文字・語彙・文法・文型)	韓国語の文字・語彙・文法・文型など知識を習得すると同時に、言語と文化的背景への理解ができる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を学び、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法	評価の割合	評価の基準
1. 授業内の小テスト	40%	: 文字や文法など韓国語に関する知識の定着度の観点から正確に理解しているか、身につけているかを基準に評価する。二つの単元の区切りに学習内容の確認テストを一回ずつ行う。各回10点×4回とする。
2. 授業内の課題	20%	: 授業内で行うアクティブラーニング活動の結果を持ち、評価する。単元の内容を中心に書きや問答(練習)、会話(ペアワーク)の形式で行う。理解度、参加度、応用度などを基準に各回4点×5回とする。
3. 定期試験	40%	: 文字や文法など韓国語に関する知識の定着度の観点から正確に理解しているか、身につけているかを基準に評価する。本試験期間中に全期間の内容を範囲として筆記試験で行い、40点満点とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
オ・スンウン	・ どんどん身につく韓国語入門	・ コスモピア株式会社	・ 2014年

参考文献等

※標準韓国語文法辞典(韓国国立国語院、2012)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけること。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えるが、メールでも対応する。
アドレス：haianksj@naver.com

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	ハングルの紹介、ハングル 第1課 ①ハングルの紹介一起源、構造の理解 ②基本母音6個、基本子音5個 ③挨拶表現	1. 習った基本母音と子音を発音しながら書き、覚える(教科書P16-21) 2. 挨拶表現の復習 1時間
第2回	ハングル 第2課：自己紹介ができるようになります ①半母音 [y] と結合した母音4個、基本子音4個、パッチム9個 ②自己紹介表現	1. 習った基本母音と子音、パッチムを発音しながら書き、覚える(教科書P24-31) 2. 自己紹介表現の復習 1時間
第3回	ハングル 第3課：自分と友達の名前を書いて、読めるようになります ①複合母音4個、激音5個、パッチム5個 ②自分と友達の名前をハングルで書き、読む。	1. 習った母音と激音、パッチムを発音しながら書き、覚える(教科書P34-41) 2. 名前をハングルで覚えて書く 1時間
第4回	ハングル 第4課：疑問の表現を覚えましょう ①二重母音7個、濃音5個 ②疑問形の表現(存在の有無)	1. 習った二重母音と濃音を発音しながら書き、覚える(教科書P44-49) 2. 疑問形の表現の復習 1時間
第5回	ハングル 第4課：数字を覚えて、数を数えましょう ①パッチム2個、二重パッチム6個 ②数字を覚え、ものを数える。	1. 習ったパッチムを発音しながら書き、覚える(教科書P50-52) 2. 数字の復習 1時間
第6回	ハングルの総復習：韓国語と日本語の基本的な違いを比較しましょう ①母音21個、子音19個 ②韓国語と日本語の比較	習ったハングルが完全に自分のものになるように繰り返して覚える(print)。 1時間
第7回	第1章 『挨拶』一こんにちは。私はポールです。 ①文法一語尾「～です」、疑問詞「何」「どの」、主題助詞「は」、国名と国籍 ②対話一相手の名前と国籍を尋ね、答える	1. 会話を書きながら復習(教科書P64-65) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P72-73) 1時間
第8回	第2章 『職業』一いいえ、会社員です。 ①文法一はい/いいえ、主語の省略、イントネーションで区別、質問と答え、言語名 ②対話一相手の職業推測する、相手の職業を尋ね、答える	1. 会話を書きながら復習(教科書P74-75) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P82-83) 1時間
第9回	第3章 『もの』一これは何ですか。 ①文法一この/その/あの、疑問詞「どんな」「誰」、主格助詞「-が」、所有格 ②対話一ものの名前を尋ね、答える、ものの所有者について尋ね、答える	1. 会話を書きながら復習(教科書P84-85) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P92-93) 1時間
第10回	第4章 『場所』一トイレはどこにありますか。[位置を尋ねる] ①文法一いる・ある(存在)、助詞「-に」 ②対話一ある場所の位置を尋ね、答える	1. 会話を書きながら復習(教科書P94) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P95-97) 1時間
第11回	第4章 『場所』一トイレはどこにありますか。[道を尋ねる] ①文法一疑問詞「どこ」、位置表現「前/後・上/下…」 ②対話一電話で家に帰る方法について尋ね、答える	1. 会話を書きながら復習(教科書P95) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P102-103) 1時間
第12回	第5章 『関係』一韓国の友達がありますか。[友達の紹介] ①文法一いる・いない/ある・ない(所有)、固有語数詞 ②対話一友達について話す	1. 会話を書きながら復習(教科書P104) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P105-107) 1時間
第13回	第5章 『関係』一韓国の友達がありますか。[家族の紹介] ①文法一単位名詞、疑問詞「いくら、何」(+単位名詞) ②対話一家族や友達について話す	1. 会話を書きながら復習(教科書P105) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P112-113) 1時間
第14回	第6章 『電話番号』一電話番号は何番ですか。[電話番号を尋ねる] ①文法一漢字語数詞、電話番号、疑問詞「何番」 ②対話一電話番号を尋ね、答える	1. 会話を書きながら復習(教科書P114) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P115-117) 1時間
第15回	第6章 『電話番号』一電話番号は何番ですか。[電話番号を確認する] [前期学習のまとめ] ①文法一「-ではありません」、2桁以上の漢字語数詞 ②対話一電話番号を尋ね、確認する ③前期に学習した語彙、文法、文型などを確認する	1. 会話を書きながら復習(教科書P115) 2. 全体的な学習内容(文字・文型)を再確認 1時間

授業科目名	基礎韓国語 B				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	教科書の順番に沿って、正確に理解し身につけるよう反復しながら進めていきます。後期は具体的な実際の生活での基本文型や表現の習得に重点をおき、テキストに沿って発音の練習、単語、文型、本文を学習しま				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は「ハングル」や基本文法を学んだ学習者を対象に基本文型や文法をレベルアップし、日常的な韓国語コミュニケーション能力を向上することを目標としています。「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」をバランスよく学習しつつ、実際に接する場面を重点的に取り上げ、自然で生きた韓国語を楽しく身につけていくことを目指します。又学習者の活動を増やし、知っている言語ではなく実際に使える言語に発展していきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	韓国語に関する知識(語彙・文法・文型)	韓国語に関する知識である語彙・文法・文型を習得し、基本的な日常会話ができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)	韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を身につけ、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
1. 授業内の小テスト 40%	： 語彙や文法、文型など韓国語に関する知識の定着度の観点から正確に理解しているか、身につけているかを基準に評価する。二つの単元の区切りに学習内容の確認テストを一回ずつ行う。各回10点×4回とする。
2. 課題 20%	： 授業内で行うアクティブラーニング活動の結果を持ち、評価する。単元の内容を中心に書きや問答(練習)、会話(ペアワーク)の形式で行う。理解度、参加度、応用度などを基準に各回4点×5回とする。
3. 定期試験 40%	： 語彙や文法、文型など韓国語に関する知識の定着度の観点から正確に理解しているか、身につけているかを基準に評価する。本試験期間中に全期間の内容を範囲として筆記試験で行い、40点満とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
オ・スンウン	・ どんどん身につく韓国語入門	・ コスモビア株式会社	・ 2014年

参考文献等

※標準韓国語文法辞典(韓国国立国語院、2012)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけること。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えるが、メールでも対応する。
アドレス：haianksj@naver.com

授業計画

		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間	
第1回	第7章 『誕生日』一誕生日は何日ですか。 ①文法一 日付(年月日)、疑問詞「いつ、何日」、曜日、時間を表す助詞「-に」 ②対話一 誕生日パーティーに招待する、誕生日を祝う [誕生日は何日ですか。][いつ時間がありますか。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P124-125) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P132-133)	1時間
第2回	第8章 『日常生活』一普通朝8時30分に会社に行きます。 ①文法一 時間、疑問詞「何時」、場所を表す助詞「-に」、助詞「-から、-まで」 ②対話一 職場生活、学校生活について尋ね、答える [今何時ですか。][何時に学校に行きますか。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P134-135) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P142-143)	3時間
第3回	第9章 『交通』一地下鉄で家に行きます。[時間を尋ねる] ①文法一 時間の長さを表す表現、助詞「-から、-まで」 ②対話一 家までかかる時間を尋ね、答える [~から~まで時間がどれくらいかかりますか。][~時間かかります。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P144) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P145-147)	1時間
第4回	第9章 『交通』一地下鉄で家に行きます。[時間と交通手段を尋ねる] ①文法一 疑問詞「どう、いくら」、手段や方法を表す助詞「-で」 ②対話一 家から学校までかかる時間と交通手段について話す [どうやって行きますか。][地下鉄で行きます。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P145) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P152-153)	1時間
第5回	第10章 『ショッピング』一全部でいくらですか。 ①文法一 価格、疑問詞「いくら」、(名詞)ください、助詞「と」 ②対話一 食べ物を注文する、電車の切符を買う [いくらですか。][10000ウォンです。][~ください。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P154-155) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P162-163)	1時間
第6回	第11章 『1日の日課』一どこで夕食を食べますか。 ①文法一 「します」動詞、場所を表す助詞「-で」、頻度、助詞「-と」共同格 ②対話一 1日の日課について話す、あることの頻度について話す。 [どこで働きますか。][~で働きます。][一週間に一回します。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P164-165) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P172-173)	1時間
第7回	第12章 『趣味』一毎週日曜日に映画を見ます。[趣味を尋ねる] ①文法一 「-ます」動詞の現在形、目的格助詞「-を」 ②対話一 趣味について尋ね、答える(韓国映画) [~が好きですか。][はい、本当に好きです。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P174) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P175-177)	1時間
第8回	第12章 『趣味』一毎週日曜日に映画を見ます。[趣味を勧誘する] ①文法一 勧誘形、「(名詞) ~はどうですか。」 ②対話一 趣味について尋ね、答える(韓国料理) [~を~します。][~はどうですか。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P175) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P182-183)	1時間
第9回	第13章 『健康』一頭が痛い。[体調を尋ねる] ①文法一 「-です」形容詞の現在形 ②対話一 友達の様子を尋ね、答える。 [寒いですか。][いいえ、寒くありません。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P184) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P185-186)	1時間
第10回	第13章 『健康』一頭が痛い。[病気の症状を尋ねる] ①文法一 否定語、助詞「-も」 ②対話一 風邪の症状について話す。 [どこが痛いですか。][~も~です。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P185) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P192-193)	1時間
第11回	第14章 『旅行』一先週、済州島に旅行に行きました。[旅行について尋ねる] ①文法一 「-ました」動詞と形容詞の過去形 ②対話一 旅行について尋ね、答える。 [-ました。][2年間暮らしました。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P194) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P195-197)	1時間
第12回	第14章 『旅行』一先週、済州島に旅行に行きました。[旅行について話す] ①文法一 「-間」、最上級「一番」、比較級「もっと」 ②対話一 見物したものについて話す。 [何が一番~ですか。][~が一番~です。][より~です。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P195) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P202-203)	1時間
第13回	第15章 『計画』一明日、韓国料理を作ります。[計画を説明する] ①文法一 「-するつもりです」動詞の未来形 ②対話一 計画について話す。 [何するつもりですか。][~するつもりです。][~でしよう。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P204) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P205-207)	1時間
第14回	第15章 『計画』一明日、韓国料理を作ります。[出張を説明する] ①文法一 否定語 ②対話一 出張について話す。 [すみません。~できません。][~しません。]	1. 会話を書きながら復習(教科書P205) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P208-210)	1時間
第15回	後期学習のまとめ一期末試験の準備として一	後期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する	1時間

- ①後期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。
 - ②一年間の韓国語授業についての感想
 - ③韓国の文化に触れあう
-

授業科目名	基礎中国語 A				
担当教員名	陳 昭宜				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	中国語の発音に重点を置き、徐々に基本文法を学んでいく。文章を繰り返し朗読し、二人一組で簡単な会話練習をして、発表する。黒板に出て問題の答えを書いてもらう。時々ビデオなどで中国の生活文化を紹介する。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とする。中国語の発音と基礎文法の習得を目的とする。テキストを用いて説明と、練習問題を通じて知識の確認と定着をはかる。テキストの内容は、日本人が中国に行った時に出会う場面を想定し、中国語の基本的な表現を3コマのイラストで覚えていく。聞く、話す、書く練習によって、自己紹介、買い物する、場所を尋ねる、料理を注文するなど実用的な表現力を身に付けることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	中国語の正確な発音ができるようにする。そのうえで中国語の文の構造を理解すること。	中国語で日常生活における簡単な会話など、実用的なコミュニケーションができるようになる。
汎用的な力		中国語で日常生活における簡単な会話など、実用的なコミュニケーションができるようになる。
1 . DP8. 意思疎通		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
定期試験 60%	: 中国語の発音、基本単語、基本文法を覚えているかをチェックするために実施する。
授業課題 20%	: 授業で習った中国語のローマ字、単語、文法を確認するために宿題や小テストを行う。
平常点 20%	: 積極的に受講し、授業中集中して、質問に対して受け答えしているかによるものである。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
塚本慶一・劉穎	1年生のコミュニケーション中国語	白水社	年

参考文献等

- 『中国語学習辞典』 相原茂 朝日出版社
- 『中国語辞典』 伊地智善継 編、白水社
- 『中日辞典』 北京商務印書館、小学館

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教科書を必ず購入し、授業を欠席しないこと。また、授業時には携帯電話を使用しないこと。私語など他の受講生に迷惑になる行為は慎むこと。これは、平常点として評価に組み込む。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 月曜日の昼休みに講師控え室で受ける。
- 場所： 講師室
- 備考・注意事項： 質問があれば積極的に聞いてほしい。授業中か授業の後にも質問をしてほしい。

授業計画

第1回	発音（1）：基本母音を学び、中国語のイメージを掴みましよう	DVDを聞いて、習った母音、子音の発音を練習すること。	授業外学修課題にかかる目安の時間 1時間
-----	-------------------------------	-----------------------------	-------------------------

	基本母音 中国語とはどんな言葉？ 基本的な挨拶表現		
第2回	発音（2）：複合母音を学び、 複合母音 基本的な挨拶表現	DVDを聞いて、習った母音、子音の発音を練習すること。	1時間
第3回	発音（3）：子音、音節表を学び、基本的な挨拶を中国語らしく発音できるようになりましょう 子音、音節表 基本的な挨拶表現	DVDを聞いて、習った母音、子音の発音を練習すること。	1時間
第4回	第1課 中国語で自己紹介する 人称代名詞、名詞の文	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第5回	中国語の自己紹介を発音に注意して、中国語らしく表現できるようになりましょう 子音・母音の発音を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第6回	第2課 「これは何ですか」 指示代名詞、疑問文、否定文	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第7回	第1課、第2課の復習と練習を繰り返し、自然な中国語表現を習得しましょう 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第8回	第3課 「これはいかがですか」 指示代名詞、形容詞の文、疑問詞	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第9回	「これはいかがですか」の発音に注意して、中国語らしく表現できるようになりましょう 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第10回	第4課 「買い物」 数詞、助詞、数量を表わす語、人民元の教え方	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第11回	「買い物」の発音に注意して、中国語らしく表現できるようになりましょう 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第12回	第5課 「どこにありますか」 場所指示代名詞、存在動詞、助動詞	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第13回	「どこにありますか」の発音に注意して、中国語らしく表現できるようになりましょう 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第14回	第6課 「何がありますか」 所在動詞、助動詞	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第15回	総合練習：これまでに学んだ表現を自然に使えるように復習しましょう 第1課から第6課までの練習、復習を行う。	総合的に復習し、試験の準備をすること。	1時間

授業科目名	基礎中国語B				
担当教員名	陳 昭宜				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	中国語の発音に重点を置き、徐々に基本文法を学んでいく。文章を繰り返し朗読し、二人一組で簡単な会話練習をして、発表する。黒板に出て問題の答えを書いてもらう。時々ビデオなどで中国の生活文化を紹介する。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とする。中国語の発音と基礎文法の習得を目的とする。テキストを用いて説明と、練習問題を通じて知識の確認と定着をはかる。テキストの内容は、日本人が中国に行った時に出会う場面を想定し、中国語の基本的な表現を3コマのイラストで覚えていく。聞く、話す、書く練習によって、自己紹介、買い物する、場所を尋ねる、料理を注文するなど実用的な表現力を身に付けることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

中国語で日常生活における簡単な会話などができるようになる。

目標：

中国語の正確な発音を覚える。そのうえで中国語基本文法を習得する。中国語でコミュニケーションができるような力をつける。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

中国語で日常生活における簡単な会話など、実用的なコミュニケーションができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60%	中国語の発音、基本単語、基本文法を覚えているかをチェックするために実施する。
授業課題	20%	授業で習った中国語のローマ字、単語、文法を確認するために宿題や小テストを行う。
平常点	20%	積極的に受講し、授業中集中して、質問に対して受け答えしているかによるものである。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
塚本慶一・劉穎	1年生のコミュニケーション中国語	白水社	年

参考文献等

- 『中国語学習辞典』 相原茂 朝日出版社
- 『中国語辞典』 伊地智善継 編、白水社
- 『中日辞典』 北京商務印書館、小学館

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教科書を必ず購入し、授業を欠席しないこと。また、授業時には携帯電話を使用しないこと。私語など他の受講生に迷惑になる行為は慎むこと。これは、平常点として評価に組み込む。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日の昼休みに講師控え室で受ける

場所： 講義室

備考・注意事項： 質問があれば積極的に聞いてほしいです。授業中か授業の後にも質問をしてよろしいです。

授業計画

第1回

第7課「ホテルにチェックイン」

DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

	1. 完了を表わす「了」 2. 選択疑問文「～？是～」		
第2回	「ホテルにチェックイン」場面の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第3回	第8課「何時に行きますか」 1. 経験を表わす「？」 2. 時を表わす語（時間詞）	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第4回	「何時に行きますか」の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第5回	第9課「タクシーに乗る」 1. 前置詞「从」、「到」 2. 時間の長さを表わす語 3. 2つの目的語をもつ動詞「？」	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第6回	「タクシーに乗る」場面の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第7回	第7課～第9課の総合練習をして、自然な中国語ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第8回	第10課「これはいかがですか」 1. 助動詞「可以」、「能」、「会」 2. 前置詞「在」 3. 動詞の重ね用法	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第9回	「これはいかがですか」の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第10回	第11課「買い物」 1. 前置詞「給」 2. 「是」の省略 3. 「去」、「来」+動詞	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第11回	「買い物」場面の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第12回	第12課「どこにありますか」 1. 「是～的」 2. 「～的？候」	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第13回	「どこにありますか」の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第14回	中国語の実践を体験してみましょう 復習する。中国の映画を見るなど。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。	1時間
第15回	学んだことを総合練習し、定期試験に向けて準備をしましょう 第7課から第12課までの練習、復習を行う。	総合的に復習し、試験の準備をすること。	1時間

授業科目名	基礎日本語 A				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は留学生・帰国子女を対象に開講するもので、授業では以下の3点を重点に学びます。1. 言葉をよく覚え、文型を繰り返し練習します。2. 会話の練習を十分に行います。3. テープ・CDを何度も聞き、日本語の音に慣れるよう、反復練習をします。また、大学での授業に必要な聴力および文章力をつけるための課題を出します。そのほか、日本語でのプレゼンテーションの方法や、振り返りシートやレポートの書き方についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	日本語に関する知識	大学での授業を理解し、日本語で自分の意見をまとめ、発表することができる
汎用的な力		
1 . DP7. 完遂		日本語力を高めることができる
2 . DP8. 意思疎通		日本語でのコミュニケーション能力を高めることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題1：会話発表	30%	： テーマごとの会話発表をひとり5回行い、独自のルーブリックで評価します。6点×5回
授業内課題2：提出物	30%	： 毎回の授業で振り返りシートを配布し、それを評価します。2点×15回
授業外レポート	20%	： 授業内で扱った内容を対象にしたレポート課題を出します。独自のルーブリックで評価します。
受講態度	20%	： 授業内での積極性および取り組み状況を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』（友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011）
『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』（福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画

第1回

会話：自己紹介

自己紹介の仕方と、それを通して日本での礼儀や挨拶に関する日本語の表現を学びます。

振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

第2回	会話：デパートなどの街中での会話 買い物などの場面を想定し、そこでの会話について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第3回	会話：電車に乗る 映画に行く 電車の乗り方・行き先についての聞き方・電車での日本のマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第4回	会話：日本のお宅を訪問する 日本のお宅を訪問するときの場面を想定して、そこでの挨拶・所作など日本文化のあり方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第5回	会話：病氣 道を聞く 病院へ行ったことを想定して、ドキドキなどの擬音語や病名について。また道を聞く聞き方と「はすかい」や、京都の「上ル・下ル」などの独特の表現について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第6回	会話：銀行・郵便局で 旅行 銀行や郵便局、旅行での会話について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第7回	会話：電話での会話 「もしもし」などの電話での会話のあり方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第8回	会話：レストラン・寿司屋へ行く レストランでの会話とメニューについて・寿司屋をいう日本文化への理解と魚の名前について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第9回	会話：見学 どこかを見学に行ったことを想定して、そこでの会話とマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第10回	会話：訪問 パーティー 日本でのパーティーなどを含めた会食での会話とそこでのマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第11回	会話：日本語の勉強1「衣食住」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第12回	会話：日本語の勉強2「娯楽」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第13回	会話：日本語の勉強3「地理」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第14回	会話：日本語の勉強4「社会」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第15回	総合復習 各自が日本語・日本文化に関する自分の考えをまとめ、それを発表しあいます。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	1時間

授業科目名	基礎日本語B				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は留学生・帰国子女を対象に開講するもので、長文を正しく読解することを目的とします。新聞記事や雑誌記事等を題材として、語彙を増やし、日本語の独特な表現について学びます。さらに、授業で扱った記事に関する自分の意見をまとめたり、グループで意見交換を行うことで、内容の理解を深めます。

また、大学での授業に必要な聴力および文章力をつけるための課題を出します。そのほか、日本語でのプレゼンテーションの方法や、振り返りシートやレポートの書き方についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本語に関する知識

目標：

大学での授業を理解し、日本語で自分の意見をまとめ、発表することができる

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂
- 2 . DP8. 意思疎通

日本語力を高めることができる

日本語でのコミュニケーション能力を高めることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題1：会話発表	30%	： テーマごとの会話発表をひとり5回行い、独自のルーブリックで評価します。6点×5回
授業内課題2：提出物	30%	： 毎回の授業で小テストを行い、評価します。2点×15回
授業外レポート	20%	： 授業内で扱った内容を対象にしたレポート課題を出します。独自のルーブリックで評価します。
受講態度	20%	： 授業内での積極性および取り組み状況の評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011)
『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』(福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限
場所： 研究室(西館5階)
備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画

第1回

新聞記事を読む：国内関連

キーワードをまとめて、論点をつかむ練習をします。

振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読

授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

1時間

第2回	新聞記事を読む：国際関連 論点をつかみ、結論をおさえる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第3回	新聞記事を読む：社会・文化 執筆者の立場を読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第4回	新聞記事を読む：コラム・特集記事 論点を簡潔にまとめる方法を学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第5回	論点を絞った意見交換 関心のある新聞記事について、自分の意見をまとめます。それをクラスで発表し、意見交換を行います。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第6回	雑誌記事を読む：国内関連 文章を整理して理解する練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第7回	雑誌記事を読む：国際関連 できるだけ速く、正確に読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第8回	雑誌記事を読む：社会・文化 内容を正確に把握し、自分の言葉で説明する練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第9回	雑誌記事を読む：スポーツ さまざまなジャンルの記事を、時間内にできるだけ多く読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第10回	論点を絞った意見交換 関心のある雑誌記事について、自分の意見をまとめます。それをクラスで発表し、意見交換を行います。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第11回	評論文を読む：キーワードを読み取る 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第12回	評論文を読む：接続詞に注意する 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第13回	評論文を読む：論点をつかむ 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第14回	評論文を読む：結論をおさえる 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第15回	論点をしばった意見交換、及び授業のまとめ 関心のある評論文について、自分の意見をまとめます。それをクラスで発表し、意見交換を行います。日本語でのレポートの書き方の復習をして、この授業のまとめをします。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	1時間

授業科目名	健康とスポーツ				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

近年、大きな社会問題となっている生活習慣病に関する基礎知識とその改善方法（運動や食事、休養）について理解を深める。特に肥満やメタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、ストレスが及ぼす身体への影響などに関する最近の論文や知見、社会状況を踏まえて学習する。さらにスポーツ医学（熱中症、過換気症候群、スポーツ貧血、オーバートレーニング、減量、腸脳連関）に関する知識の理解と習得から、自己の健康管理や生活習慣改善に関する基礎知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	健康科学に関する基礎知識	生活習慣病に対する理解とその予防方法を学び、実践することができる。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		自己のライフスタイルを見つめなおし、生活習慣病予防のための方法を理解し、説明できる。
2．DP6.行動・実践		生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	45%	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全15回実施する。
振り返りシート	15%	： 振り返りシートを記入し、自己の考えや具体的事例などを示していれば1点とする。内容不足または未提出の場合は0点とする。これを全15回実施する。
受講状況	10%	： 各回授業への積極的参加（発言や質問）や授業態度（受講マナー、私語や携帯電話の使用など、授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合評価する。
期末テスト	30%	： 自己の健康管理の重要性および生活習慣病の理解とその予防方法、実践的具体策について理解を求める問題。次の観点から評価する。1.生活習慣病の正しい理解、2. 予防方法と具体的な行動の提示。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日12：20～17：50

場所： 研究室（中央館4階）

備考・注意事項： 質問がある場合は、授業終了後、または授業のある日に研究室まで来てください。

授業計画

第1回

授業ガイダンス（授業概要と目的）

振り返りシートの作成（自己の生活習慣を見つめなおし、健康のために良いこと、悪いことを考える。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	「健康とは」という問いから、自己のライフスタイルを見つめなおし、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考えます。		
第2回	健康を阻害する社会環境 現代社会において健康を阻害している社会環境を具体的に考えます。特に運動不足、食習慣の乱れ、栄養バランスの乱れ、睡眠不足、ストレス過多に関して考えます。	生活習慣をよくするための具体策を「運動、栄養、休養」の観点から考える。	4時間
第3回	骨の健康と骨粗鬆症 生活習慣病の1つとされる骨粗鬆症について学びます。具体的に骨の構造や働きを理解し、骨を丈夫にするための運動方法や食事、栄養バランスを学び、具体的な骨密度を高めるための方法を考えます。	ワークシート「骨の名称」を完成させる。	4時間
第4回	高血圧と虚血性心疾患について 死亡原因の上位である心疾患について学びます。具体的には心臓の構造と機能、血管の仕組み、血液の働き、血圧のメカニズムなどを学び、心疾患や高血圧症の予防方法を考えます。	ワークシート「心臓、血管、血液の構造」を完成させる。	4時間
第5回	脳血管疾患について 死亡原因の上位である脳血管疾患について学びます。具体的には脳の構造と機能について理解を深め、さらに脳機能を高めるための運動や栄養、脳の病気を予防する方法を考えます。	ワークシート「脳の構造」を完成させる。	4時間
第6回	肥満、脂質異常症について 肥満は血管系の病気を招く危険因子でもあり、肥満になるメカニズムを理解し、その予防方法を学びます。具体的には、肥満になる生活習慣や内臓脂肪が病気を引き起こす理由、さらに小児肥満が将来の生活習慣病につながる仕組みについて学びます。	ワークシート「脂肪細胞の働きと作用」を完成させる。	4時間
第7回	正しい睡眠習慣とは 現代社会は睡眠不足に陥りやすい環境と言われており、睡眠不足が身体に及ぼす影響について学びます。具体的には睡眠不足と肥満の関係、睡眠不足と生活習慣病との関係、効果的な睡眠を知るための睡眠メカニズムについて学びます。	ワークシート「睡眠の質を高めるための方法」を完成させる。	4時間
第8回	ストレスと健康 ストレス状態は様々な病気を招く危険因子である。ストレスが及ぼす身体への影響について理解し、ストレスを対処する方法やストレスに伴う免疫機能の低下を予防する方法などを学びます。さらに近年注目されている笑いでストレス解消に関してエビデンスを基に理解を深めます。	ワークシート「ストレスを溜めやすい性格とは」を完成させる。	4時間
第9回	悪性新生物 日本人の死亡原因1位である悪性新生物について、その発生メカニズムや危険因子、ガンの種類や予防方法などについて学びます。さらにガン予防に有効な食事や運動について、最近の知見を基に理解を深めます。	ワークシート「がん予防のための生活習慣とは」を完成させる。	4時間
第10回	スポーツ心理学 スポーツ場面だけでなく社会に出ると精神的な強さが求められたり、自己をコントロールする能力が必要となる。精神的健康のために日常で出来るセルフコントロール方法などを学びます。さらに自律神経の働きを高める方法やモチベーション、気持ちを高める手法、リラクゼーション手法についても最近の知見を基に理解を深めます。	ワークシート「心の状態チェックシート」を完成させる。	4時間
第11回	スポーツ医学 健康の維持増進に運動の実施や継続は欠かすことができない。生涯スポーツとして運動を実践する中で起こりうるスポーツ障害や外傷について学びます。特に内科的なスポーツ障害として挙げられる熱中症、スポーツ貧血、過換気症候群、高山病などについて最近の知見を基に理解を深めます。	ワークシート「スポーツ中のリスク管理」を完成させる。	4時間
第12回	効果的な運動やスポーツトレーニング 健康の維持増進のためにスポーツクラブやフィットネスクラブに通い運動する者が増加してきている。さらにメディアを通じて様々な健康情報を取り上げられているが、その中には誤った方法や健康を害する内容も含まれている。そこで効果的かつ安全に筋力、筋量を高めるトレーニングや脂肪燃焼や持久力を高めるトレーニングについて学びます。また最近注目されているコグニサイズやコーディネーショントレーニングなどの認知症予防のための運動についても理解を深めます。	ワークシート「実践しよう運動トレーニング」を完成させる。	4時間
第13回	生活習慣病を予防する運動方法とは これまでの授業を通じて生活習慣病の成り立ちや病理学的理解が身につき、それを基に生活習慣病予防に必要な運動方法や健康管理について学びます。さらに過度な運動やトレーニングに関する弊害に関しても最近の知見を基に理解を深めます。	ワークシート「ダイエットの弊害」を完成させる。	4時間
第14回	生活習慣病を予防する食事について これまでの授業を通じて生活習慣病の成り立ちや病理学的理解が身につき、それを基に生活習慣病予防に必要な食習慣や健康管理について学びます。さらに欧米食や炭水化物の過剰摂取、また炭水化物をカットした場合の弊害に関しても最近の知見を基に理解を深めます。	ワークシート「食事に関する正しい知識」を完成させる。	4時間
第15回	生活習慣病と運動、食事、休養 これまでの授業の統括を行い、生活習慣病や疾病予防のための生活習慣確立に向けて、具体的な手法を学びます。最終的に自己の生活習慣をよくするための8か条を考え、具体的実践方法を作成します。	ワークシート「生活習慣病を予防するための生活習慣」を完成させる。	4時間

授業科目名	体育講義				
担当教員名	臼井達矢・辻 慎太郎・上田真也・渡辺和香・小林志保				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

現代社会において、運動不足や食習慣の乱れ、睡眠不足や身体的・精神的ストレスなど様々な健康問題が指摘されており、これらの原因に伴い生活習慣病や精神的な疾患を引き起こすとされています。特に近年においては若年女性や幼児期・学童期における健康に関する諸問題が指摘されており、急務に改善しなければいけない社会問題となっています。以上のことから、様々な年代における健康問題や病気の知識、その改善方法を学び、健康の三大要因である「運動」「栄養」「休養」の観点から健康問題について考え、学習することを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	健康科学に関する基礎知識	生活習慣の理解とその予防方法の実践。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		生活習慣病に関する課題と新しい知見の探索を实行。
2．DP6.行動・実践		生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	45%	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば1点とする。これを全15回実施する。
振り返りシート	15%	： 振り返りシートを記入し、自己の考えや具体的事例などを示していれば1点とする。根拠不足または未提出の場合は0点とする。これを15回実施する。
受講状況	10%	： 各回授業への積極的参加（発言や質問）や授業態度（受講マナー、私語や携帯電話の使用など、授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合評価する。
期末テスト	30%	： 自己の管理の重要性および生活習慣病の理解とその予防方法、実践具体策について理解を求める問題。次の観点から評価する。1. 生活習慣病の正しい理解 2. 予防方法と具体的な行動の提示。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日12：10～17：50
場所：	研究室（中央館4階）
備考・注意事項：	授業終了後に質問すること。 授業のある日に非常勤室に質問に来ること。

授業計画

第1回 授業ガイダンス（授業概要と目的）

振り返りシートの作成（自己の生活習慣を見つめなおし、健康のために良いこと、悪いことを考える

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

	<p>近年、「健康」に関する研究が進んでおり、新聞やメディアなど多岐にわたり「健康」について取り上げられている。こうした中でも、若年層の健康に対する意識の低さや生活スタイルが崩れており、生活習慣病になりうる可能性があると言われていいる。このようなことから、「健康とは」という問いから、自己のライフスタイルを見つめなおし、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れるのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考えます。</p>		
第2回	<p>各年齢層における健康問題と健康を阻害する環境について</p> <p>各年齢層における健康問題について学習することはもちろん、男女差の健康問題の違いについても考えます。また、現代社会において健康を阻害している社会環境について考え、特に生活習慣病に関連している、運動不足、食習慣の乱れ、栄養バランスの乱れ、睡眠不足、ストレス過多について学習する。</p>	<p>生活習慣をよくするための具体策を「運動、栄養、休養」の観点から考える。</p>	1時間
第3回	<p>骨と健康（骨の発達・骨粗鬆症）</p> <p>生活習慣病の1つとされている骨粗鬆症について学びます。具体的に骨の構造や働きを理解し、発育発達時期における骨を丈夫にする運動処方や食事、栄養バランスを学び、具体的な骨密度を高める方法を考えます。</p>	<p>ワークシート「骨の名所」を完成させる。</p>	1時間
第4回	<p>肥満と健康（メタボリックシンドローム・小児肥満・脂質異常症）</p> <p>肥満は血管系の病気を招く危険因子でもあり、肥満になるメカニズムを理解し、その予防方法を学びます。また、近年では小児肥満の増加や小児肥満が将来の病気につながりやすいことが明らかにされていることから、小児肥満の予防方法や実践について学ぶ。さらに、肥満になる生活習慣や内臓脂肪が病気を引き起こす仕組みについて学んでいく。</p>	<p>ワークシート「肥満予防である運動処方の種類と効果」について完成させる</p>	1時間
第5回	<p>高血圧と虚血性心疾患</p> <p>生活習慣の乱れが血管系にダメージを与え、血管系の病気リスクを高めてしまっている。以上のことから、死亡原因の上位である心疾患や日本人に多い高血圧について学んでいく。具体的には心臓の構造と機能、血管の仕組み、血液の働き、血圧のメカニズムなどを学び、心疾患や高血圧症の予防方法を考えます。</p>	<p>ワークシート「心臓、血管、血液の構造」を完成させる。</p>	1時間
第6回	<p>脳機能と脳の病気（脳機能・認知症・脳血管疾患）</p> <p>若年層から高齢者まで幅広い年齢層において脳の病気が増加しており、特に認知症や生活習慣の乱れ、ストレスによる脳血管障害を引き起こす者が急増している。このようなことから脳機能の新生、向上の方法や認知機能の低下を防ぐ方法などを学習します。さらに、脳血管障害を引き起こす身体問題、その予防方法と実践についても学んでいく。</p>	<p>ワークシート「脳の仕組み」について完成させる。</p>	1時間
第7回	<p>生活習慣と糖尿病</p> <p>現代の社会では生活習慣が必然的に悪くなる環境化に置かれており、このような社会が生活習慣病である糖尿病を引き起こすことが明らかにされている。また、小児の糖尿病も増え続けている。そのことから糖尿病の仕組みや予防方法、糖尿病が及ぼす合併症について学んでいく。</p>	<p>ワークシート「糖尿病における合併症」について完成させる</p>	1時間
第8回	<p>生活習慣における正しい睡眠</p> <p>現代社会は睡眠不足に陥りやすい環境化に置かれていると言われていいます。睡眠不足が身体に悪影響を与えていることはすでに報告されており、特に肥満や高血圧などの生活習慣病を引き起こす原因である。また、睡眠不足が脳機能の悪影響を及ぼし、ことにおいては読解力や計算力がよくないことが言われています。以上のことから、正しい睡眠習慣の身に付け方や快眠方法について学んでいく。</p>	<p>ワークシート「睡眠の質を高めるための方法」を完成させる</p>	1時間
第9回	<p>ストレスと健康</p> <p>我が国はストレス社会と言われており、特に働き盛りにおける、うつ病を始め、精神的な疾患に陥るものが急増している。また、ストレスが精神的な疾患だけでなく、様々な病気を招く危険因子であることから、その予防方法やストレスに関する基礎知識について学習する。具体的にはストレスを対処する方法やストレスに伴う免疫機能の低下を予防する方法、近年注目されている「笑い」や「運動」がストレス解消に有効であることを基に理解を深める。</p>	<p>ワークシート「ストレスを溜めやすい性格とは」を完成させる</p>	1時間
第10回	<p>スポーツ心理学</p> <p>スポーツ場面だけでなく社会に出ると精神的な強さが求められたり、自己をコントロールする能力が必要となる。精神的健康のために日常で出来るセルフコントロール方法などを学びます。さらに自律神経の働きを高める方法やモチベーション、気持ちを高める手法、リラクゼーション手法についても最近の知見を基に理解を深めます。</p>	<p>ワークシート「心の状態チェックシート」を完成させる</p>	1時間
第11回	<p>スポーツ生理学</p> <p>運動やスポーツをしている時、身体がどのような生理的応答をしているか学んでいきます。具体的には、「運動時の筋肉の働き」「運動時のエネルギー代謝」について学習する。</p>	<p>「エネルギー代謝」について完成させる</p>	1時間
第12回	<p>発育発達と体力</p>	<p>ワークシート「スキヤモンの発育曲線」について完成させる</p>	1時間

	<p>現代社会では、各年齢層において体力低下が指摘されている。体力低下は生活習慣病を招くことや日常生活に支障をきたすことが報告されている。また近年では、子どもの様々な体力要素が低下していることから、姿勢不良や怪我の発生率が急増している。さらに、この発育発達期での体力低下は大人になってからの生活習慣病に罹患しやすいと言われていることから、発育発達期での体力低下を予防すると共にどのように体力を向上させるかが求められている。以上のことから、体力向上の方法と発育発達期の体力について知識を深める。</p>		
第13回	<p>スポーツ医科学Ⅰ（発育発達期の怪我・スポーツ中の怪我）</p> <p>発育発達期の怪我は教育者や保護者の医学的知識の欠如が原因と言われている。さらに、スポーツ中の怪我は発育発達の特徴を理解していないことやオーバーワークが原因とされている。このことから、怪我や事故時の応急処置法と予防方法について理解を深める。</p> <p>具体的には、「脱臼に対する応急処置法」「捻挫に対する応急処置法」「鼻血・頭部の打撲の応急処置法」などを基本として学んでいく。</p>	ワークシート「RICE処置法」について完成させる	1時間
第14回	<p>スポーツ医科学Ⅱ（内科的なスポーツ障害）</p> <p>健康の維持増進に運動、スポーツ実践や継続は欠かすことができない。こうした中で、スポーツ生涯として起こりうる、内科的なスポーツ障害である熱中症、スポーツ貧血、過換気症候群などについて最近の知見を基に理解を深めます。また生涯、スポーツの最中に起こりうる心肺停止状態に遭遇した時の対処方法についても学んでいく。</p>	ワークシート「AED」について完成させる	1時間
第15回	<p>健康と運動・食事・休養および様々な怪我の対処法</p> <p>これまでの授業の総括を行い、生活習慣の確立にむけて、運動・食事・休養をキーワードに具体的な自己の健康についての実践方法を作成する。また、自分の身を守るだけでなく、他者が怪我や事故・心肺停止状態になった時にどのような対処法を取るべきかをグループで考え実践方法を作成する。</p>	ワークシート「運動の有効性と注意点」について完成させる	1時間

授業科目名	体育実技				
担当教員名	永井伸人・渡邊和香・小林志保・未定				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

近年「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、改善しなければいけない問題とされています。また幼児教育の観点からは、「運動が嫌い」・「スポーツが苦手」な幼児が増加しており、幼児教育として運動を指導だけではなく、楽しさを伝える指導力が重要となってきました。体育実技では体力強化・身体づくりはもちろんのこと、運動やスポーツの楽しさを体感し、子ども達に楽しさを伝えられる人間を形成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	バレーボールなどの一般的なスポーツだけではなく、キンボールなどのニュースポーツも行うことで、新しいスポーツに親しむ。さらにルールを理解し、学んだ知識を生かすために汎用的な技能や実践能力を磨く。	保育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。
汎用的な力		
1．DP6.行動・実践		健康や体力の維持増進、技術上達等を各人が体験する。
2．DP8.意思疎通		様々な種目を通してコミュニケーション能力を育てる。
3．DP9.役割理解・連携行動		実技を通し考える力を体得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

受講状況

評価の基準

： 各回授業への積極的参加（作戦・立案の積極性や試合中の動き）や授業態度（受講マナー、携帯電話の使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになる行為は減点）などをもとに総合評価する

75%

ルールの理解度・スキルの向上およびチームでの勝率

： 各授業は試合形式で行うため、授業中での勝率やルールを明らかに間違えておかつ注意しても修正しない場合や危険行為を行う場合は減点

25%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業終了後に質問するようにして下さい。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス（授業概要と目的） 授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年において何故運動が重要視されているのか、さらに、子ども達になぜ運動が必要なのか、といった運動を何故するのかという根本を理解する。	「ドッジボール」のルールを理解しておくこと。 1時間
第2回	ドッジボール	「バスケットボール」のルールを理解しておくこと。 1時間

	<p>授業の始めに、ストレッチの大切さおよびその簡単なストレッチの方法を学ぶ。転しドッジ、ターゲットドッジ、王様ドッジなど様々な形式のドッジボールを楽しみながら、ボールを投げる動作や周囲を見渡す力を養う。また、ルールを守る態度やチームで運動を行う楽しさを実感する。</p>		
第3回	<p>バスケットボール①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ボールコントロール、ハンドリング技術の向上を目的にパス・ドリブル・リバウンドなどの基礎的な動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う</p>	<p>「バスケットボール」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。</p>	1時間
第4回	<p>バスケットボール②</p> <p>再度ルール説明を行う。シュート技術の向上を目的に、レイアップシュート・バックシュート、ジャンプシュート、セットシュートなどの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う</p>	<p>「インディアカ」のルールを理解しておくこと。</p>	1時間
第5回	<p>インディアカ</p> <p>スポーツが楽しいと思っただけではない学生や体力差がある人とスポーツを一緒に楽しむ方法を知らない学生に誰でも楽しめるニュースポーツであるインディアカを紹介し、楽しさと達成感を体験してもらう。また、仲間と行うことで得られる喜びを体験する。</p>	<p>「バドミントン」のルールを理解しておくこと</p>	1時間
第6回	<p>バドミントン①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。ストローク技術の向上を目的にスマッシュ・クリア・ドライブ・ドロップなどの練習を行う。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う</p>	<p>「バドミントン」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。</p>	1時間
第7回	<p>バドミントン②</p> <p>再度ルール説明を行う。ストローク技術の向上を目的に、ドロップ・カット・ヘアピンロブなどの練習を行う。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う</p>	<p>「アルティメット」のルールを理解しておくこと。</p>	1時間
第8回	<p>アルティメット</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ディスクの投げ方の向上を目的にバックハンドスロー・オーバーハンドスロー・カーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	<p>「フットサル」のルールを理解しておくこと。</p>	1時間
第9回	<p>フットサル①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、基本技術の向上を目的にキックの仕方（インサイド・トゥー）・ドリブル・などの基礎的な動きを練習する。さらに、2対1、3対2のときのシュートパスといった攻撃基本戦術を知る。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う</p>	<p>「フットサル」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。</p>	1時間
第10回	<p>フットサル②</p> <p>再度ルール説明を行う。攻撃のフォーメーションや防御のフォーメーションなどの説明を行いチームごとの戦術を工夫する一助とする。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	<p>「バレーボール」のルールを理解しておくこと。</p>	1時間
第11回	<p>バレーボール①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、バレーボールの基本技術の向上を目的にオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	<p>「バレーボール」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。</p>	1時間
第12回	<p>バレーボール②</p> <p>再度ルール説明を行う。チーム戦術の体験を目的に、フォーメーションの確認やコンビネーションの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	<p>「卓球」のルールを理解しておくこと。</p>	1時間
第13回	<p>卓球①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、卓球の基本技術の向上を目的にフォアハンド・バックハンドドライブなどの動きを練習する。講義の後半からはダブルス対抗のゲームを行う。試合前に各ペアで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	<p>「卓球」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。</p>	1時間
第14回	<p>卓球②</p> <p>再度ルール説明を行う。卓球の基本技術の向上を目的にシュートカット（フォアハンド・バックハンド）の動きを確認する。講義の後半からはシングルでのゲームを行う。試合前に時間を設け前試合の振り返りを行う。</p>	<p>「キンボール」のルールを理解しておくこと。</p>	1時間
第15回	<p>キンボール</p> <p>スポーツが楽しいと思っただけではない学生や体力差がある人とスポーツを一緒に楽しむ方法を知らない学生に誰でも楽しめるニュースポーツであるキンボールを紹介し、楽しさと達成感を体験してもらう。また、仲間と行うことで得られる喜びを体験する。</p>	<p>授業を振り返り、これまでの内容についてまとめておくこと</p>	1時間

授業科目名	暮らしと環境				
担当教員名	張野宏也				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	・講義が約50分、グループ討議が約30分、小レポート作成約10分の時間配分を原則としますが、各回の内容により若干、時間配分が異なることもある。・グループ討議は講義内容に関して課題を与え、それに対して自				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①身近なところから世界的に生じている環境問題を理解することで、自分の専門と環境との関わり合いを導き出すとともに、②現在の環境を将来も持続させていく方法をお互い議論して、自分の考えを構築できるようになることを目指します。このような訓練を繰り返すことで、現在多くの環境に関する情報がマスメディアで報じられていますが、それらの情報を正確に把握し、自分はそれに対してどのような意見や行動を起こせばよいのかを判断し、周辺や次世代を担う人々に自信をもって伝えることができるようになることが目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	現在の環境問題に対する正確な知識を習得する。	環境問題に関する情報を得た時、自分はどうすれば良いのかを判断できる知識を養う。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		環境問題の現状に対する知識に基づき、今後我々は何をすれば良いのかを見出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。3分の2以上出席した場合にのみ成績評価の尺度となり、それ以下の場合は放棄とみなし、成績評価を「S」とします。また、私語等の授業内態度が悪く、一コマで2回以上注意を受けた場合は、10点減点とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 質問に対するコメントに対して1-4点で評価する。

60%

期末テスト

： 講義の内容が身についているかどうか、さらに質問に対して自分の意見をしっかりと述べているかを評価する。

40%

使用教科書

指定する

著者

川合真一郎、張野宏也、山本義和

タイトル

環境科学入門 地球と人類の未来のために

出版社

・ 化学同人

出版年

・ 2011年

参考文献等

環境汚染化学有機汚染物質の動態から探る/水川薫子、高田秀重/丸善出版
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、授業内レポートでは、自分の意見をしっかりと記入し、他人の意見に対しては、感じたこと、考えたことを明確にコメントする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 連絡を取りたい場合は、Eメールアドレスで（アドレス：harino@mail.kobe-c.ac.jp）に送信してください。Eメールには、氏名と学籍番号を必ず入れてください。

授業計画

回	環境科学とは	講義前までにテキストの第1章を熟読しておくこと。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	環境科学とは何を扱う学問なのか、どうして環境問題が生じてきたのかを概説します。		4時間
第2回	環境問題を形成する生態系 環境問題の基本は、生態系の異常である。現在世界各国で起こっている環境問題を生態系を中心として概説します。	講義前までにテキストの第2章を熟読しておくこと。	4時間

第3回	大気汚染 -地球の温暖化- 地球温暖化はなぜ生じているのか、現状は、そして今後どのようなのかを学びます。	講義前までに第3章大気汚染の35-37ページを熟読しておくこと。	4時間
第4回	大気汚染 ?酸性雨、粒子状物質等- 地球温暖化以外にもさまざまな大気汚染があることを学び、それから身を守るにはどのようにすればよいかを考えます。	講義前までに第3章大気汚染の38-44ページを熟読しておくこと。	4時間
第5回	水質汚染 ?池、川、海の汚れとは- 見た目の池、川、海の汚れの原因はなにか、過去から改善されてきたのかを学び、今後どのようになるかを予測します。	講義前までに第4章水質汚染を熟読しておくこと。	4時間
第6回	水質汚染 ?魚介類への化学物質の濃縮と代謝- 魚介類は生息域の水から化学物質を濃縮すると同時に代謝します。そのメカニズムを概説します。	講義前までにテキストの第10-11章を熟読しておくこと。	4時間
第7回	土壌汚染 -土壌、地下水の安全性- 土壌、井戸水が汚染されたらどのようになるのか、それを防ぐにはどのようにすればよいかを考えます。	講義前までにテキストの第5章を熟読しておくこと。	4時間
第8回	放射性物質による汚染 震災から放射性物質による汚染がクローズアップされてきました。放射性物質について理解するとともに原発問題についても考えます。	講義前までにテキストの第14章170-180ページまでを熟読しておくこと。	4時間
第9回	世界中で使用されている化学物質 -農業- 化学物質問題はグローバルな問題として重要視されている。どのような問題が起こっているのかを学ぶとともに解決するにはどうしたらよいかを考える。	講義前までにテキストの第6章化学物質による汚染、69~80ページ、第12章までを熟読しておくこと。	4時間
第10回	身近なところで使用されている化学物質 -住宅の建材、家庭内など- 我々の身の周りには多くの化学物質が使用され、それが環境に流出し汚染している。どのような物質が流出しているのかを知るとともに、改善策について考える。	講義前までにテキストの第6章化学物質による汚染、81~84ページまでを熟読しておくこと。	4時間
第11回	水と食品の安全性 安全な水や食品を得ることは人にとって重要なことです。現在供給されている水や食品は本当に安全なのかを考えます。	講義前までにテキストの第7章を熟読しておくこと。	4時間
第12回	水と食品の自給率 日本は水や食品の自給率の低い国です。今後もこのような自給率の低下が続けば日本はどのようになるのかを考えます。	講義前までにテキストの第15、16章を熟読しておくこと。	4時間
第13回	ごみと廃棄物 ごみや廃棄物は増えるいっぽうです。減量するにはどのような点に気を使えば良いのかを考えます。	講義前までにテキストの第8章を熟読しておくこと。	4時間
第14回	これからのエネルギー 石油、石炭が枯渇するに変わり、新エネルギーが提案されています。どのようなエネルギーを使用しようとしているのか、その長所、短所について考えます。	講義前までにテキストの第14章を熟読しておくこと。	4時間
第15回	総括 環境科学について、どのようなことを習得したかを振り返ると同時に、今後環境を保全するために何をしたらよいかを考える。	再度、環境科学入門の教科書を読み返す。	4時間

授業科目名	暮らしと環境				
担当教員名	福嶋 実				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	・講義は、随所に問いかけを行うなどして、一方的にならないよう留意する。 ・可能な限り具体的事例をあげ、また必要に応じてDVDやパワーポイント等を用いて、理解の助けにする。 ・適宜、演習とレポートで理				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は、①生態系の成り立ちを通じて人間と環境のかかわりを理解して、これまでの経験や警鐘について学ぶ。次いで②水と大気環境、廃棄物、感覚公害、放射線、化学物質に関わる現状と諸課題にふれ、環境要因による子供への影響解明の取り組みを学ぶ。さらに③地球温暖化やオゾン層破壊、熱帯林の減少などの現象と原因について学び、低炭素社会の実現に向けて何が出来るかを考える。本授業は、人間と環境との相互作用、身近な環境から地球環境に至る諸課題を学ぶことで、環境問題への関心と気づきの感性を高めることが目的である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	環境問題に関する知識	インターネットなどマスメディアや書籍の情報をもとに、環境問題の具体的内容が理解できる。
汎用的な力		日常生活の場から、環境に関する問題点や改善点に気づくことができる。
1 . DP4. 課題発見		気づきをきっかけとして、理解を深めるための情報収集など、新たな行動・実践につなげることができる。
2 . DP6. 行動・実践		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とする。30分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻で1回の欠席とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の方法	評価の割合	評価の基準
期末試験	50%	： 環境や環境問題に関する基礎知識を選択式・論述式で問い、理解の正しさ、表現の的確さで評価する。
授業時間外学習	30%	： 主に予習につながる課題を提示してレポートを求める。また、各回授業について振り返りシーの作成を求める。提出物について、課題の内容の理解の程度、まとめとその表現の適切さにより評価する。
受講状況	20%	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語など授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・川合真一郎・張野宏也・山本義和 著 環境科学入門ー地球と人類の未来のために、化学同人、2011。
- ・久里徳泰・佐巻健男・平山昭彦 編著 新訂地球環境の教科書10講、東京書籍、2014。
- ・川添慎浩 編 健康と環境の科学、講談社、2014。
- ・平成29年版環境・循環型社会・生物多様性白書、環境省、2017。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は大歓迎。授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：minoru.fukushima@nifty.com
メールには必ず氏名と所属、学籍番号を記入すること。

授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	ガイダンス、環境とは何か、環境問題とは何か 全体的な授業計画、成績評価方法、注意事項等の説明を行う。また、「環境」や「環境問題」など基本的な用語について認識の共有を図る。	高校教科書や教材プリントなどを用いて、環境・環境問題について復習し理解を深めること。	4時間
第2回	人間と環境のかかわり 生態系の仕組みや生態系サービスを学び、人間は環境の一つの要素であり、環境なしでは生存できないことを理解する。	高校教科書や教材プリント、必要に応じてインターネットなどを用いて、予習・復習を行い、理解を深める。その促進のために宿題の課題を提示するので、レポートにまとめて提出すること。	4時間
第3回	わが国が経験した公害問題に学ぶ 高度経済成長期に発生した4大公害病を取りあげ、発生した原因、被害が拡大した背景、解決への道筋を学び、繰り返さないための方策を考える。	高校教科書や教材プリント、必要に応じてインターネットなどを用いて、予習・復習を行い、理解を深める。その促進のために宿題の課題を提示するので、レポートにまとめて提出すること。	4時間
第4回	環境問題を主導した3大書籍 「沈黙の春」(Silent Spring)、「成長の限界」(Limits to Growth)、「奪われし未来」(Our Stolen Future)を取りあげ、各著者が訴えたこと、社会への影響をまとめて、気づきと感性の重要性を学ぶ。	該当の書籍、あるいは事前配布の教材プリントやインターネット情報を用いて、内容を予め把握しておくことが望ましい。	4時間
第5回	暮らしと水 水の重要性、利用実態、水循環、水質汚濁と現状と課題について学び、水環境の望ましい姿とは何かを考える。	平日頃、身近な水環境をどのように捉え、考えているかを、発表できるようにまとめておくこと。これを宿題としてレポート提出を求めることがある。	4時間
第6回	暮らしと大気 大気汚染の現状、および光化学オキシダントや浮遊粒子状物質の生成メカニズムについて学び、日常生活とのかかわり考える。	平日頃、身近な大気環境をどのように捉え、考えているかを、発表できるようにまとめておくこと。これを宿題としてレポート提出を求めることがある。	4時間
第7回	暮らしと廃棄物 廃棄物の種類と処理責任、適正処理の手順について理解し、3Rに基づく循環型社会形成の取り組みを学び、食品廃棄物と食品ロスの問題を通して日常生活の留意点を考える。	各自が行っているゴミの分別方法と、それらが何処に運ばれ、どのような処理が行われているかを調べておくこと。	4時間
第8回	暮らしと感覚公害 人の感覚を刺激して、不快感やうるささとして受け止められる公害を感覚公害といい、騒音、振動、悪臭が該当する。感覚公害の規制手法および苦情件数からみた感覚公害の実態について学び、とくに生活型の感覚公害についてはモラルに依るところが大であることを理解する。	日常生活の中で、感覚公害として不快に感じた事例を、発表できるようにまとめておくこと。	4時間
第9回	暮らしと放射線 私たちは放射線と共に生きている。宇宙や大地、身体の中にある放射性物質による放射線からは逃れることはできない。広義には、太陽光や電波も放射線の一種である。放射線と正しく付き合うために、その基本的な知識を学ぶ。	高校教科書などを活用して、原子の構造や電界、磁界について復習し、家庭で使う電化製品の種類をまとめておくこと。	4時間
第10回	暮らしと化学物質 日常使っている製品は化学物質の様々な性質を利用して作られ、豊かで快適な生活に欠かせない。その一方で、扱い方を誤ると、人の健康や生態系に悪影響を及ぼす恐れをもっている。この点を念頭に置いて、化学物質による環境汚染の現状と課題、化学物質管理の国内と国際的な動向について学ぶ。	例えば、化粧品または塗料を取りあげ、どのような目的でどのような化学物質が使われているかを調べて、発表できるようにまとめておく。	4時間
第11回	環境要因が子供たちの成長・発達に与える影響、エコチル調査 特に化学物質の曝露や生活環境が、胎児期から小児期にわたる子どもたちの健康にどのような影響を与えているかを明らかにするための、子どもたちの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)が行われている。このいわゆるエコチル調査について、調査の背景や内容、進捗状況について学ぶ。	教材プリントやインターネット情報を活用して、エコチル調査とは何かを調べ、発表できるようにまとめておくこと。これを宿題としてレポート提出を求めることがある。	4時間
第12回	地球環境問題、その1 地球温暖化、オゾン層破壊 地球は人間だけでなく全ての動植物にとってかけがえのない場所であるが、人間の生活や経済活動によって地球環境に大きな影響を及ぼし、その深刻さは年々増している。そこで、まず地球温暖化とオゾン層破壊を取りあげ、原因、発生メカニズム、想定される人の健康および環境への影響、将来予測について学ぶ。	地球環境問題の種類と相互の関連性を調べて、レポートにまとめて提出すること。	4時間
第13回	地球環境問題、その2 熱帯林の減少、砂漠化、生物多様性など その1に次いで、とくに地球環境問題は各々が単独に存在するのではなく、根底に先進国の経済活動と開発途上国の貧困、人口増が絡んだ問題であり、相互に複雑に関連していることに留意しながら、熱帯林の減少、砂漠化、生物多様性の劣化などについて、実例をまじえながら学ぶ。	地球環境問題の種類と相互の関連性を調べて、レポートにまとめて提出すること。	4時間

第14回	<p>低炭素社会の実現に向けた取り組み</p> <p>“パリ協定”の発効によって、世界は低炭素社会の実現に向けて動き出した。将来的にどのような社会が実現するのか、そのために何をしなければならないのかを理解し、我々一人ひとりも、国際社会の一員としての責任を果たし、具体的な行動を起こすことの重要性を学ぶ。</p>	<p>教材プリントやインターネットを活用して、パリ協定の合意内容、各国の目標、実現への道筋などについて、予習しておくこと。また、日常生活の中でこの動きにコミットできる行動を考えておくこと。</p>	4時間
第15回	<p>まとめと補足</p> <p>講義全体の要約と補足を行う。また、授業に参加して良かった点、改善すべき点などを出し合う。</p>	<p>授業を振り返り、理解できた点、出来なかった点をまとめ、良かった点、改善すべき点等をまとめておく。</p>	4時間

授業科目名	基礎化学				
担当教員名	牧野壮一				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義形式で、教科書、配布プリント、映像教材を併用して授業を行う。また、授業内容の習得を促すために演習問題を解く時間を設けるとともに、習得度を確認するための小テストを実施する。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、栄養学科一回生に開講し、栄養士としての専門的な学びに必要な基本的な化学力を修得することを目的とします。まず、中等教育の化学の知識を再確認することから始めます。その後、栄養士に必要な生命活動を理解するための知識を理解するとともに、大学において知っておきたい一般教養としての化学的知識を学びます。同時に、食に関係した身の回りの化学現象にも触れ、化学の面白さを学びます。特に、栄養士として必要な化学計算力の向上を重要なミッションとしています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	栄養士としての化学力の習得	栄養士として必要な化学知識を学ぶ
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		化学知識の不足な箇所を自分で発見し、補う努力に努める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験

評価の基準

： 定期試験期間中に、化学の知識の程度を筆記試験により評価する。

60%

小テストおよび振り返りノート

： 各単元終了後、翌週に小テストを行う。講義のまとめた振り返りノートの提出と小テストの点数を総合的に評価する。

30%

受講状況

： 授業への積極的参加や授業態度（授業の妨げになる私語やマナーなどで減点）を独自のルーブリックをもとに評価する。

10%

使用教科書

指定する

著者

松井徳光・小野廣紀著

タイトル

・ わかる化学

出版社

・ 化学同人

出版年

・ 年

参考文献等

中等教育で使用した化学の教科書や図説など。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日午前中
場所： 栄養第一研究室
備考・注意事項： メールでの質問も受け付けます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 講義全般や成績評価法などについての説明、プレテスト	プレテストにより自分の化学の知識の不足部分を把握し、復習をする。 4時間
第2回	食品の中身を知る① 食品を構成している物質の構成	講義内容を振り返り、復習する。 4時間
第3回	食品の中身を知る② モルの概念を知る、小テスト	講義内容を振り返り、復習する。 4時間
第4回	栄養士に必要な単位と基本計算(1)	講義内容を振り返り、復習する。 4時間

栄養士に必要な単位換算、割合、パーセント (%)、小テスト			
第5回	栄養士に必要な単位と基本計算(2) 比重、廃棄率、小テスト	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第6回	栄養士に必要な単位と基本計算(3) 簡単な濃度計算、小テスト	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第7回	栄養士に必要な溶液の濃度計算① %濃度、小テスト	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第8回	栄養士に必要な溶液の濃度計算② モル濃度、小テスト	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第9回	まとめのテスト ここまでのまとめのテストと解説	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第10回	食品の状態を知る 固体・液体・気体について	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第11回	食品内で起こる変化 酸と塩基、中和反応、小テスト	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第12回	食品とエネルギー 小テスト	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第13回	酸化と還元 酸化と還元の意味、小テスト	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第14回	レポート作成 簡単な化学実験を通してレポートをまとめる、小テスト	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第15回	まとめ、演習 まとめのテストと解説	定期試験に備え、振り返りを行う。	4時間

授業科目名	暮らしと経済				
担当教員名	竹内正人				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	経済学の基礎を学ぶため、講義形式で行う。講義は主にスライドを用います。毎回テーマに合わせてサブノート（プリント）を配布し、覚えて欲しい項目や重要な内容を自ら書き入れることでノートが完成します。講義				

開放科目の指示：「可」

授業概要

この講義では日常の暮らしの中から身近なテーマを選び、それを経済学敵視点、特にミクロ経済学及びマクロ経済学の視点を中心に解説します。経済学の基礎を学ぶことで、身近な話題の中から、社会の大系をつかみ、①経済的合理性を持った思考を構築できるようになります。またそれによって②新聞やニュースに出てくる経済記事、国・地方公共団体の政策、企業の活動に関する記事内容が理解できることで、自らの現状認識及び将来の方向性を見定めることができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会人としての必要な経済学的知識と教養	新聞やニュースなどの情報を理解し、社会生活に役立てることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		毎回配布した資料から、社会生活における課題を発見し検討できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の提出物

50%

期末試験

50%

評価の基準

： 各回3点満点。授業内容が理解できていれば2点。独自の見解が示されていれば3点。不足があれば1点とする。10回以上の提出で+5点。

： 経済学の基礎知識とそれを用いて経済学的見解を述べる論式問題を出題する。評価方法は以下の視点。
①経済学の知識を正しく理解しているかどうか
②課題に対し経済学的思考をベースに回答できているかどうか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『マンキュー経済学入門』（2008）（N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社）
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎日の新聞やニュースに関して注意をはらってください。日ごろ見落としがちな小さなニュースの中にも実は大きな経済問題が含まれている場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限

場所： 研究室53（竹内研究室）

備考・注意事項： 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。オフィスアワー以外でも研究室に在室の時は対応いたします。気軽に質問にきてください。

授業計画

回数	ガイダンス・経済学とは		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	講義の進め方 経済学の成り立ち。経済学的視点などこれから経済学を学ぶ上での基本的な注意点を提示する。	経済学を学ぶことによって何を得ることができるか、経済学の目的について考えておくこと。	4時間
第2回	物価について考えてみよう！	商品には定価があっても同じ商品が店によってなぜ価格が違うのかを考えておくこと。	4時間

	価格はどうやって決まるのか？ 梅田やホテルで飲むコーヒーは何故価格が高いの？ 価格と価値の違いや価格の決定について学ぶ。		
第3回	需要と供給って何？ 経済学における財とサービスの定義 市場原理と需要と供給の意味や仕組みについて学ぶ。	公共料金は何か価格が決まっているのかを 考えておくこと。	4時間
第4回	暮らしと税金を考えた！ 税金は何のためにあるのだろうか？ 税金が上がるとどうなるか？ 税金の種類 公共事業と税金など税の必要性和仕組みについて学ぶ。	所得税や消費税について考えておくこと。	4時間
第5回	効用と限界効用について考える。 効用って何？予算って何？ 予算内でいかに効率的に満足度を高めるには？ など人間の行動と経済的制約について学ぶ。	食事の一口目がなぜ美味しいのか考えておく こと。	4時間
第6回	満足とその限界を考える。限界効用と無差別曲線 1 人間の満足度を、グラフを用いて理解する。そのうえで無差別曲線 という曲線と予算制約線との関係を解説する。	人間の欲望どこまで大きいのか？なぜどこか で我慢できるのか？を考えておくこと。	4時間
第7回	価格と満足を考える。限界効用と無差別曲線 2 価格が上がると満足度はどうなるだろうか？無差別曲線につい て振り返りながら、予算制約線との関係について学ぶ。 無差別曲線の特徴と予算制約線	人間の満足度と価格の関係をあらためて考える こと。	4時間
第8回	豊かさって何？ 暮らしの指標とGDP 日本の経済を示す様々な指標を示しながらGDPについて解説する。 またGDPの数値が大きければそれで良いのかも考える。 キーワード：GDP 投資 消費 輸出 輸入 貯蓄 インフレ	どうすれば人間は、日本は豊かになるのか を考えておくこと	4時間
第9回	幸せって何？ 幸せについて経済学視点で考えてみます？ お金があれば幸せか？どうすれば幸せになれるのかななどを議論す る。 キーワード：健康 負債 希望	人間にとって、あなたにとって幸せとは何か を考えておくこと。	4時間
第10回	結婚について考える。 結婚や少子化についても経済的視点で考える。 どうして結婚しない人が増えているのか？ 少子化の原因は？生 涯賃金など、結婚とその後の生活を交えながら結婚にまつわる制 度について経済的視点で考える。 キーワード：機会費用とその損失	なぜ、日本は少子化に向かっているのか？な ぜ晩婚化は進むのかを考えておくこと	4時間
第11回	経済人とレモン 情報の非対称性下の市場について学ぶ。 他に、埋没コストや流動性のわなといわれる市場における経済活 動を阻害する要因等について考える。サンクコスト、レモンの原 理について。映画や住宅市場を例に考える。	映画館でつまらない映画を最後まで見続ける かどうかを考えておくこと。	4時間
第12回	経済発展と環境問題を考える。 暮らしが豊になるにつれてゴミなどの廃棄物が大量に出でてく る。経済発展と環境保護はどんな関係にあるのかを考える。 キーワード：外部経済性	日本は経済が発展している国なのに、何故 空が美しいのかを考えておくこと。	4時間
第13回	大都市と大企業 大量につくると何故価格が安くなるの？ どうして都会に人が集ま るの？ キーワード：規模の経済 集積の経済	あなたはなぜ、大阪に勉強にきているの か。大都会に住む有利さは何かを考えておく こと。	4時間
第14回	産地と消費地 たとえば醤油の産地はなぜ竜野市や小豆島だったのだろうか？ ビール工場はどうして吹田なのだろうか。 門真や守口にはどうして家電メーカーがあったのだろうか？ 消費地と産地について考えます。	スーパーで売っている冷凍食品の工場はどこ になるのか？なぜそこになるのかを考えてお くこと	4時間
第15回	経済効果って何？ まとめ 最近話題の経済効果についてその意義や測定の方法を学びま す。さらに、AKB48やたま駅長など具体的な事例をもとに経済効 果のもつ重要性を解説する。 最後にこの講義のまとめ、重要ポイントについて解説する。	あなたが買い物をすると、だれがどのように して収入を得るのかを考えてみること	4時間

授業科目名	社会福祉と暮らしの法			
担当教員名	中川陽子			
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数 2
授業形態	教科書を用い、板書をしながらポイントを押さえます。各自ノートをつくり、授業のメモをし配布プリントなどの補助教材も貼りつけるようにしてください。			

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業では、身近なところで起こっている社会福祉の課題、具体的な社会福祉の法制度・しくみ、社会福祉の理念や歴史、マンパワー、援助の方法・技術などをテキストにそって解説します。講義内容は、みなさんの生活にかかわるものであり、知識があれば問題に直面したときに役立ちます。理論だけではなく、具体的な事例もあげていきます。みなさんが社会福祉とはなにかを理解し、生活に役立てていくことが目標です。豊かな生活を送ることができるように、また社会人になってからもその知識を生かせるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	福祉学分野の基礎知識	社会福祉全般の基礎的理解と社会問題における課題を理解し説明することができる
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		社会福祉における法制度の今後の課題について現状を踏まえて理解することができる
2 . DP8. 意思疎通		他人の意見を踏まえて社会福祉に関する自分の意見や主張を伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法	評価の割合	評価の基準
授業内課題	40%	授業最終回に基礎的な理解に関する問題と自身の社会福祉に関する考察についての課題に対して40点満点で評価する。
振り返りシート	30%	各回の振り返りシートを0から3点で評価する。
受講状況	30%	各回への授業への積極的な態度（発表質問など）や受講マナー（携帯電話や私語の有無）を総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
三好禎之	初めての社会福祉論	法律文化社	年

参考文献等

書名：社会福祉を学ぶ第2版
著者名：山田美津子・稲葉光彦 編
出版社：みらい

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。授業内のマナーを守り、積極的に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業外での質問は、コミュニケーションカードに書いてください。用紙は、授業開始前に希望者にお配りします。

授業計画

授業外学修課題にかかるとの目安の時間

第1回	ガイダンス—授業の進め方、社会福祉の理念をとらえる— シラバスの説明 自分自身のライフステージと社会福祉の理念、人権の尊重について考えます。	自身のライフプランが記述できるよう準備しておく	4時間
第2回	家族の変容と社会福祉—多様な生き方を支える— 家族形態の変化とそれに伴った社会福祉のありかた、ライフステージについて考えます。	振り返りシートの作成	4時間
第3回	日本における福祉職の形成過程—国家資格の専門職の必要性— 日本における社会福祉の変遷をたどり、社会福祉専門職の成立、課題について考えます。	振り返りシートの作成	4時間
第4回	保育士に求められる専門性—専門性を高めるために— 家族形態の変化や女性の社会進出による子育ての変化とそれにかかわる法制度、専門職の課題について学びます。	振り返りシートの作成	4時間
第5回	介護職に求められる専門性—安全で安心な質の高いサービス提供のために— 急速にすすむ高齢化の現状と介護にかかわる課題について考えます。	振り返りシートの作成	4時間
第6回	専門職の課題と制度対応—事件・事例・判例から学ぶ— 人材の不足による社会福祉の課題を明らかにしどのように制度が改正されているかを知り、今後我々の世代のすべきことを考えます。	振り返りシートの作成	4時間
第7回	現代の社会福祉法制度体系—基礎・改革・課題— 社会福祉六法と社会福祉法について概要を理解し、社会福祉の基本構造、類型を学びます。	振り返りシートの作成	4時間
第8回	子育て支援と社会福祉—社会的支援の確立を目指して— 子育て支援施策の推移と子ども家庭福祉サービス、しくみを理解し、今後の課題について考えます。	振り返りシートの作成	4時間
第9回	介護への支援と社会福祉—高齢者を取り巻く課題を理解する— 高齢者を取り巻く状況、高齢者福祉サービスについて介護保険法の改正から現状を学びます。	振り返りシートの作成	4時間
第10回	社会福祉と地域の変貌—地域福祉の推進— 地域社会を取り巻く環境の変化による新たな生活課題について考えます。	振り返りシートの作成	4時間
第11回	社会福祉行財政と社会福祉施設—提供主体の多元化と社会福祉財政の特徴— 社会福祉サービスの提供主体とその考え方、仕組みについて理解し、財政的な課題や社会福祉施設の現状を学びます。	振り返りシートの作成	4時間
第12回	社会福祉における相談援助と利用者保護—法制度におけるQOLとのギャップ— 社会福祉専門職の役割について理解し、補助教材で相談援助の方法を学びます。	振り返りシートの作成	4時間
第13回	社会福祉と権利擁護—苦情解決、第三者評価、成年後見制度、福祉オンブズマン— 虐待防止法の類型、虐待の定義から当事者の権利を守るための各制度、しくみを理解します。	振り返りシートの作成	4時間
第14回	諸外国における社会福祉の動向—海外の保育と介護— 各国の社会福祉施策の概要について知り、今後日本の社会福祉について考えます。	振り返りシートの作成	4時間
第15回	専門職における社会福祉の課題と展望—次世代を担うジェネラリストへの期待— 専門職の人材確保の動向と政策について学び、これまでの授業の総括をします。 最後に、記述問題を含む試験を行います。	すべてをファイルまたはノートに綴じ、最終の考察やまとめをする	4時間

授業科目名	暮らしと経済				
担当教員名	森 茂治				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	スクリーンを活用した説明・講義を中心に行います。授業内で、経済に対する関心事項をアンケートし、質疑や討議の機会に、できるだけ関心事項について説明していきます。テーマごと資料を配布し、小レポート				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、自立した暮らしを築いていくために、「経済社会」と「人生の豊かさ」の関係について、自身の言葉で考えていく手がかりを持つことを目指します。その為に、授業の前半では、経済社会の仕組みや制度、原理となる考え方などの基礎知識や視点を資料やビデオを使って学習します。講義の後半では、現実的な経済環境や経済政策の実態を調べ、現状や将来の動向について自らの認識を深めます。そこから、「豊かさ」や「幸せ」について、レポートや討議により自身で考える力を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	市場経済に関する知識と社会変化に関する理解力	提示資料やインターネットによる情報などから、市場経済の仕組みや成り立ちが理解できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		提示する資料を基に、経済社会の変化をつかみ、自らの経済活動の課題を検討できる。
2．DP7. 完遂		社会の問題を自らの問題として考え、レポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小レポート	20%	： 内容の妥当性と論理構成について独自のルーブリックに基づき3段階で評価します。
課題レポート	40%	： 各回（第4回、第10回、第13回、第15回）の提出レポートは、内容の妥当性と自らの意見の表明の有無のついて、独自のルーブリックに基づき3段階で評価します。
定期試験	40%	： 講義内容に準拠した設問の解答60%、社会変化への対応に関する自由記述の設問の解答40%として評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

What's 経済学第3版 辻正次ほか 有斐閣アルマ
日本経済論・入門 八代尚宏 有斐閣
その他の文献は、適時、授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業前後での質問を歓迎する。連絡を取りたい場合は非常勤講師室に連絡をすること。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	経済の姿・活動を概観 私達の暮らしが経済社会の中に成り立っていることを理解する視点を提示し、経済の仕組みを概観します。	経済に関する自身の関心事項をレポートする。 4時間
第2回	「市場」の働き 「新美南吉」の童話を題材として、「市場」に生きることの原則について学びます。	「経済を見る3つの目」について論旨を整理する。 4時間

第3回	市場メカニズムと経済思想 ビデオ学習を中心に「需要と供給」と価格の基本的なメカニズムを再確認し、経済思想の潮流について理解を深めます。	指定する経済の学習サイトから、講義に関連した事項を学習する。	4時間
第4回	通貨・貨幣と金融機関の役割 通貨・貨幣（お金という情報）の働きと金融機関の役割について学びます。	「日本銀行」ホームページを閲覧し、「お金」の役割についてレポートする	4時間
第5回	家計の働き 家計の働き、日常の「やりくり」が経済社会の基盤になることを学びます。	資料を読み、「労働すること」について自分の想いを整理する。	4時間
第6回	合理的な経済行動の原理 家計行動の前提となる合理的な経済行動の原理について学びます。	配布資料をもとに知識を整理し、「物価」の現状を調べる。	4時間
第7回	値段と価値、効用（満足）の理解 ビデオ学習を中心に「値段と価値、効用（満足）の最大化」の原理を学び、日常での選択行動について考えます。	指定する経済の学習サイトから、講義に関連した事項を学習する。	4時間
第8回	企業の役割と日本の産業構造 経済社会における企業の役割を学び、日本の産業構造や労働市場を概観します。	提示する資料を基に、労働環境の現状を学習する。	4時間
第9回	景気変動と日本経済の現状 マクロ経済という大きな観点から「景気」や日本経済の現状について考察します。	指定する経済の学習サイトから、講義に関連した事項を学習する。	4時間
第10回	政府の役割と経済政策 政府の役割と現実的な経済政策に関心に向け、経済の課題を身近なものとして理解します。	提示する資料を基に、日本の経済環境と経済政策についてレポートする	4時間
第11回	税の仕組みと経済制度 税の仕組みを通じて日本の財政実態と経済制度について学びます。	指定する経済の学習サイトから、講義に関連した事項を学習する。	4時間
第12回	暮らしに関わる世界経済 貿易の働きを学び、日常生活の立場からモノ・カネの国際取引の実情を考察します。	指定する経済の学習サイトから、講義に関連した事項を学習する。	4時間
第13回	経済格差の現実 世界と日本の経済格差の実態に目を向け、「自助・共助・公助」について考えます。	「自助・共助・公助」について自身の考えをレポートする。	4時間
第14回	自立した暮らし 社会の変化を見据え、自立した暮らしを築くための現実的な方法について学びます。	提示する資料を基に、社会の変化をつかみ、自身のライフコースを考える。	4時間
第15回	豊かさ幸せ 「経済的豊かさ」の追求と「心豊かな暮らし」ないし「幸せ」の実現について考えます。	「経済的豊かさ」と「幸せ」の関係について、自身の考えをレポートする。	4時間

授業科目名	アジアの未来と日本			
担当教員名	今井孝司			
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数 2
授業形態	・基本は座学で、コンピュータや動画、DVDを用いた授業展開をしますが、途中3回のグループワークを設けています。・グループワークは演習に準じる形式になります。・座席は指定します。			

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は、アジア地域の概況と問題点、近未来的にどのように変動していくかを理解することを目的とします。第1に日本とアジアの関係を人流に絞って講義を進めます。近年アジアからの訪日者数が急激に伸びた理由も言及します。第2に今後の世界情勢は暴発するイスラームと中国の動向がカギを握っています。その概略が理解できるように授業を進めます。第3に訪日者数が増加している台湾、マレーシア、タイの概要と日本との関係を理解できるように授業を進めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	データを用いて、日本とつながりが深い東アジア諸国事情を理解する。	授業でとりあげた国の政治・文化・宗教に関するベーシックな知識を身に付ける。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		新聞やネットニュースで取り上げられる東アジア諸国の問題点の根底にある問題を指摘し、簡潔な文章にまとめることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
定期試験	: 客観式テストを実施します。 50%
授業内・外課題	: 8回各5点配点の授業時間内提出、宿題とする課題を実施します。検索スキル、文章のまとめ方、自分の意見がどのくらい書かれているかを評価します。 40%
小テスト	: 2回各5点配点の客観式テストを実施します。 10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ジャン＝クリストフ・ヴィクトル『最新 地図で読む世界情勢 これだけは知っておきたい世界のこと』（CCCメディアハウス、2016年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応します。
アドレス：euage923[at]atmark[dot]ican.zaq.ne.jp 今井孝司

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	講義方針の伝達と簡単なクイズの実施 ・アジアと日本社会に関するクイズを出題する。 ・常識クイズは成績に加味しない。	アジア諸国の所得と都市間の距離について調べる 4時間
第2回	アジアの範囲：アジアの地理および基礎データを認識する ・アジア地理の基礎事項、主要国の首都、人口、一人当たりGDPの順位、通貨を知る。	アジアの国の位置と国名、首都名を覚える（課題ではない） 4時間
第3回	出入国統計：日本人のアジア出国者数とアジアからの入国者数	第2回講義内容についての小テスト実施 4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人のアジア域内渡航先と訪日外国人の国籍別人数から、日本とアジア諸国間の人流を理解する。 ・小テスト①：第2回授業分の理解度確認テストを実施する。 ・課題③：関西を訪問する外国人観光客のニーズは何かについて、インターネット等から情報を収集し、400字程度にまとめ、次回提出する。 		
第4回	在日外国人：日本のエスニック問題 <ul style="list-style-type: none"> ・政府政策および社会経済の変化が外国人の日本定住状況に影響を与えていることを理解する。 ・国籍と就業分野、失業率の相関関係について理解する。 ・日系ブラジル人はなぜ製造業に多く就業していたかを理解する。 ・「ニューカマー」と「オールドカマー」の違いを理解する。 	在日外国人の概況に関するデータの記入 時間内課題	4時間
第5回	アジアの宗教：アジアの宗教分布と衝突 <ul style="list-style-type: none"> ・世界の宗教地図を地政学的手法で読み解く。白地図を色分けする。 ・アジアの複雑な宗教地図を俯瞰し、そこに潜在する中国と韓国の宗教問題を理解する。 ・イスラームの人口増は将来世界にどのような影響をもたらせるか、中東から欧州へイスラーム教徒が流入する背景、各地イスラーム教徒の原理回帰指向など、理解しにくいイスラーム世界について基礎的な知識を得る。 	世界地図上において、世界三大宗教の地域区分を覚える（課題ではない）	4時間
第6回	イスラームの掟：イスラーム女性のドレスコードとスポーツ進出への挑戦 <ul style="list-style-type: none"> ・イスラームにおける女性の地位について、結婚、ドレスコード、外出、スポーツ、自動車の運転などの制限について、非イスラームの者としてどうとらえたらよいか。想像を働かせる。 	ドキュメンタリー「ニッポン中古品」鑑賞の上、設問への解答と意見論述 時間内課題	4時間
第7回	中国の暴発：一党独裁政治と高度経済成長・米国の覇権争い <ul style="list-style-type: none"> ・米国がパワー・ダウンする一方で、パワーを誇示し始めた中国。中国が行動を起こした先で様々な外交トラブルが発生している。 ・ここでは「南沙諸島軍事基地建設」、「アジアインフラ投資銀行」、「爆買いと街でのトラブル」をとりあげる。 ・周辺国との歴史およびの社会事情から検証を行ない、米国と覇権争いをするに至った過程を探る。 	中国の政治経済戦略に関する質問への解答 時間外記述課題	4時間
第8回	華僑・華人：アジアのチャイニーズ・ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ・中国人の人間関係構造を知る。 ・小室直樹の中国社会理論からチャイニーズ・ネットワークの本質を考える。 	中国人は取引においてなぜ「最も信用がおける」と「約束を平気で破る」という二つの評価があるのかまとめておく（課題ではない）	4時間
第9回	女工哀歌：グローバル経済を下支えした存在とは <p>◎ミカ・X、ペレド監督『女工哀歌』鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国広東省のジーンズ工場を盗み撮りしたドキュメンタリーの鑑賞。 ・価格競争のコストダウンは、生産現場の最前線にのしかかった。 ・労働年齢に至らない少女を雇い、低賃金と長時間労働を強いられる女工たち。しかし彼女達を苦しめている本当の存在はわからないようになっていく。 	ドキュメンタリー『女工哀歌』鑑賞についての設問 時間外記述課題	4時間
第10回	ネット言語：急変するインターネット上の使用言語 <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年インターネット上で使用される言語に大きな異変が起きている。その理由をデータに基づき講師が読み解く。 ・読み解き残しておいた項目について受講生に考えてもらう。 	インターネット使用言語に関する課題 授業内に記入・提出課題	4時間
第11回	マレーシア：民族問題をかかえた、先進国間近な国 <ul style="list-style-type: none"> ・「ワワサン2020」というスローガンを掲げ、あと5年後の先進国入りを目指すマレーシア。 ・3つの主な民族はそれぞれあまり干渉しないで生活するという「複合国家」を続けてきた。 ・しかし世界情勢が民族意識に目覚めはじめたのと時を同じくして、民族のいがみ合いが始まった。 ・それぞれの民族がどういう経緯でこの地にいるのか、どういう職種につき、所得はどうなっているのか。パワーバランスはどうか。 ・以上は講義する。 	マレーシアの魅力とは何だろうか。ネット検索などで自分なりに精律しておく（課題ではない）	4時間
第12回	エンタテイメント：韓国とシンガポールのエンタテイメント…氏名のカタカナ表記がもたらせたこと <ul style="list-style-type: none"> ・韓国芸能人の氏名表記が漢字からカタカナへと変わったタイミングから、日本人にとっての位置づけがあこがれの対象となった。 ・その伏線にシンガポール人ディック・リーの存在があったことをひも解く。 ・ディック・リーからシンガポールの管理社会についてひもといていく。 	韓国・シンガポールのサブカルチャーに関する設問 時間外記述課題	4時間
第13回	台湾社会文化：台湾社会のエスニック構造解題と観光開発 <ul style="list-style-type: none"> ・戦後台湾は政治エスニックを軸に社会分断されたことを理解する。 ・一方で台湾は国連を脱退してから、政治的に国際社会から孤立し、厳しい外交政策が強いられている。 ・これらの契機とその過程について理解する。 	授業内容に関する設問と、ネット検索により解答する 時間外課題	4時間
第14回	タイ社会文化：産業の高度化と社会リスク	マレーシア・台湾・タイに関する小テスト	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・目覚ましい経済発展を遂げているタイ社会。製造業と農業、観光業も好調である。 ・しかしたびたび発生する大規模なデモによる「政情不安定」、工業団地を飲み込む「大洪水」というカントリーリスクがある。 ・だが、社会に根付く最も大きな問題は「南北格差」である。 ・以上は講義する。 		
第15回	<p>成熟の日本：日本は凋落しない？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後国力が衰退していくといわれている成熟社会日本。 ・しかし経済発展しなければならないという呪縛から解放され、物質主義、効率主義から脱出し、精神的な付加価値が高い日本を満喫する。 ・既存の価値観から離れ新しい価値観を創出することで、世界もうらやむ日本になるのではないかという提案をおこなう。 	<p>自分にとって日本とは何だろう。日本国籍を持つ者も持たない者もあるいは自ら国籍を選択した者も、頭の中で整理しておく(課題ではない)</p>	4時間
第16回	<p>定期試験の実施</p>		4時間

授業科目名	日本事情				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	日本事情の基礎を学ぶため、講義が中心となります。しかし、一方向的な講義に終わるのではなく、第6回、第10回、第15回には講義内容を踏まえた発表や議論を取り入れます。発表内容をまとめ				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①日本の社会や文化について学び理解を深めるとともに、②日本や自分の母国、他の留学生の母国との比較を行うことで、広い視野に立って考察できるようになることを目指す。また、③自分の母国について紹介し、意見交換することによって、自分の意見を正確に伝えることができ、④他の人の発表を聞いて、主張を正確に把握できるようになることを目的とする。全15回のうち、第6回、第10回、第15回には講義内容を踏まえた発表や議論を取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	日本の社会・文化の理解	日本の社会や文化を理解した上で、自身の考えを述べるができる。
汎用的な力		他人の意見を踏まえて日本の社会や文化に関する自分の意見を伝えることができる。
1．DP8. 意思疎通		日本や自身の母国の社会や文化について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP4. 課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

発表	30%	： 発表（第6回・10回・15回）について、各回10点で評価し、合計30点とする。具体的な評価は、全学ルーブリックに基づいて行う。
小レポート	30%	： 授業内容を踏まえて書かれているか、自分の意見が書かれているか等の点から、各回10点で評価し、合計30点とする。
期末試験	40%	： 日本の社会や文化に関する理解度について40点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・「日本事情」プロジェクト『話そう考えよう初級日本事情』（株式会社高山、2013年）
- ・国際交流基金『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第11巻「日本事情・日本文化を教える」』（ひつじ書房、2014年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

第1回	オリエンテーション—日本事情とは—	「日本事情」で学びたいテーマを考える。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	-------------------	---------------------	-------------------------

	「日本事情」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、日本事情の概要について学ぶ。		
第2回	生活（１）「住所を覚える」「電話をかける」「手紙を出す」 住所、電話、手紙について学び、日本の基本的な日常生活文化への理解を深める。	タスク①「住所をおぼえましたか」タスク②「電話番号をおぼえましたか」に取り組む。	4時間
第3回	生活（２）「日本の家に住む」「あなたのまわり」 日本の家、店や地区について学び、日本の基本的な日常生活文化への理解を深める。	タスク①～④に取り組む。	4時間
第4回	生活（３）「買い物をする」「銀行へ行く」「食事に行く」 買い物、銀行、食事について学び、日本の基本的な日常生活文化への理解を深める。	タスク「食事のとき気をつけましょう」に取り組む。	4時間
第5回	生活（４）「乗り物に乗る」「仕事をする」 乗り物、仕事について学び、日本の基本的な日常生活文化への理解を深める。	タスク「あなたの町のバスの乗り方はどれですか」に取り組む。	4時間
第6回	生活のまとめ 自分の母国と比較しながら、日本の生活について考えたことをまとめて発表する。	発表内容を小レポートにまとめる。	4時間
第7回	地理（１）国土、山と川 日本の国土、山と川について学び、基本的な日本の地理についての理解を深める。	タスク①②に取り組む。	4時間
第8回	地理（２）気候、日本の一年 日本の気候、年中行事について学び、基本的な日本の地理についての理解を深めます。	タスク①～③に取り組む。	4時間
第9回	地理（３）人口 日本の人口について学び、基本的な日本の地理についての理解を深める。	タスク①～③に取り組む。	4時間
第10回	地理のまとめ 自分の母国と比較しながら、日本の地理について考えたことをまとめて発表する。	発表内容を小レポートにまとめる。	4時間
第11回	社会（１）衣服、食物、住居 日本の衣服、食物、住居について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深めます。	タスク①「話しましょう」タスク②「原料を知っていますか」タスク③「家の賃貸契約のとき、何にどのくらいかかりますか」に取り組む。	4時間
第12回	社会（２）出生率と平均寿命、ライフ・サイクル、結婚と離婚 日本の出生率と平均寿命、ライフ・サイクル、結婚と離婚について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	タスク「話しましょう」に取り組む。	4時間
第13回	社会（３）日本人の一日、便利さとゆとり、教育 日本人の一日、便利さとゆとり、教育について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	タスク「考えましょう」に取り組む。	4時間
第14回	社会（４）労働と賃金、貯蓄 労働と賃金、貯蓄について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	タスク「日本で一人暮らしをする、一ヶ月でどのくらいかかるでしょう」に取り組む。	4時間
第15回	社会のまとめ、「日本事情」まとめ 自分の母国と比較しながら、日本の社会について考えたことをまとめて発表する。また、本授業に参加して日本に対する考え方がどのように変化したのか考える。	発表内容を小レポートにまとめる。	4時間

授業科目名	美学				
担当教員名	田中美子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義中心に進めます。写真（OHP使用）や音楽（CD使用）、DVD、芸術性の高い絵本などをたくさん紹介します。ノートを用意してください。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

「美学」は「哲学」です。絵画（絵本も含む）、音楽、舞台芸術、遺跡、自然美などの具体的な作品を紹介しながら、その「美（すばらしさ、すごさ、かっこよさ、おもしろさなど）」を、言葉にして考えます。すこし難しい言葉も登場しますが、何度も授業に参加しているうちに、そうした言葉が自分でも使えるようになってきます。すぐに諦めてしまわずに、がんばってみてください。また今年度は、日本の伝統的な文化についても、多めに紹介する予定です。海外に友人や仕事仲間を増やしたい人には、とくにおすすすめしたいと思います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	日本的感性の自覚	日本人によくあるものの見方や感じ方を、他の国や地域と比較しながら、理解できる。
汎用的な力		自分の関心を、他の人に向けて、分かりやすく説明できる。
1．DP8. 意思疎通		他の人の発表をしっかりと聞いたり、それに対して関心を持ったりすることができる。
2．DP10. 忠恕の心		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

振り返りシートの提出

60%

学期末の発表

40%

評価の基準

： 授業の内容の「まとめ」と「考察」が、ともに書けていること。

： 自分の関心を他の人に向けて分かりやすく発表し、その内容（発表原稿）をレポートとして提出すること。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

今道女信『美について』（講談社現代新書）
 佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会）
 小穴晶子『なぜ人は美を求めるのか』（ナカニシヤ出版）
 田中久文『日本美を哲学する』（青土社）
 増田正造『能の表現』（中公新書）
 増田正造『世阿弥の世界』（集英社新書）
 出川直樹『人間復興の工藝』（平凡社ライブラリー）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したいときは、自宅の電話にて受け付けます(9:00-21:00)。番号は、改めてお伝えします。

授業計画

第1回

美という理想

美学は哲学です。哲学は真善美といった理想について考える学問です。

美は真や善とどのように違うのか、授業ノートをまとめなおしたり、参考文献を読みながら、考えましょう。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	ミメーシス（模倣的再現） この世にありそうでない理想を表現することについて、考えます。	身のまわりにミメーシス的な表現がないか、授業ノートをまとめ直ししながら、考えましょう。	4時間
第3回	リアリズム（写実主義） この世にある美を表現することについて、考えます。	身のまわりにリアリズム的な表現がないか、授業ノートをまとめ直ししながら、考えましょう。	4時間
第4回	エクスペリオン（表現、表出） 個人の内面を表現することについて、考えます。	身のまわりにエクスペリオン的な表現がないか、授業ノートをまとめ直ししながら、考えましょう。	4時間
第5回	ディスカッション さまざまな表現が、ミメーシス、リアリズム、エクスペリオンのどれに当てはまるかを、一緒に考えます。	三つの表現の違いについて、まとめ直しをおきましょう。他の人の意見と、それに対する自分の意見も、まとめ直して、ノートに記録しておきましょう。	4時間
第6回	西洋の美、東洋の美 西洋の美意識と、東洋の美意識の違いを、それぞれの風土から考えます。	授業ノートをまとめ直したり、参考文献を読んだりして、それぞれの美意識の違いを考え直しましょう。	4時間
第7回	能の表現 日本的な表現の特徴を、能から考えます。	能について、調べてみましょう。また、映像資料などがあれば、見てみましょう。	4時間
第8回	狂言の表現 能と比べながら、狂言を紹介します。	狂言について調べてみましょう。また、映像資料などがあれば、見てみましょう。	4時間
第9回	折り紙にかくされた思想 日本独自の遊びである折り紙の歴史をひもときながら、折り紙に込められた思想を紹介します。	授業ノートをまとめ直しながら、折り紙と能や狂言の共通性を探してみよう。折り紙で遊んでみましょう。	4時間
第10回	ディスカッション 日本の伝統芸能などについて、自分の知っていることを、挙げてみましょう。どのようなところが良い（美しい）か、意見を出し合ってみましょう。	他の人の意見と、それに対する自分の意見をまとめ直し、授業ノートに記録しておきましょう。	4時間
第11回	芸術の力（西洋） 芸術が人生の力になることを、旧約聖書から考えます。	授業ノートをまとめ直しながら、美や芸術に自分がはげまされた経験を思い返してみよう。	4時間
第12回	芸術の力（東洋） 芸術が大切にされてきたことを、孔子の思想から考えます。	授業ノートをまとめ直しながら、社会のなかで美や芸術がもつ力や役割について考えてみましょう。	4時間
第13回	「美しい」と「きれい」 「美しい」とたんなる「きれい」の違いを考えます。	自分にとって、「美しい」と「きれい」なもの、その違いに注意しながら考えてみましょう。	4時間
第14回	学生による発表（前半） 自分にとっての美（いいと思うもの）について、発表しましょう。	自分の発表の準備をするとともに、他の人の発表を授業ノートに記録しておきましょう。	4時間
第15回	学生による発表（後半） 自分にとっての美（いいと思うもの）について、発表しましょう。	自分の発表の準備をするとともに、他の人発表を授業ノートに記録しておきましょう。	4時間

授業科目名	暮らしと金融				
担当教員名	宮宇地俊岳				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	基本的に板書やプロジェクターを用いた講義形式である。受講生には発言等を通して講義への積極的な参加を期待します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

経済活動において金融が果たす役割は極めて重要であり、それは企業のみならず、皆さんの日々の生活（物価、海外旅行）や人生設計（結婚・出産、住宅ローン、預貯金、保険、年金、）にも影響を与えうるものです。これからの人生を生きるうえで、資金計画を検討する機会があるため、金融に関する知識は必須と言えるでしょう。そこで、本講義では、金融システム、金融機関の役割、金融商品などについて、その構造と概要を理解するとともに、社会生活（仕事や生活）に応用する基礎力を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	金融論領域の基礎的知識に関する理解	金融機関の役割や金融商品の概要について理解し説明することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		金融に関するニュースをもとに、その現状と課題を理解することができる。
2．DP5. 計画・立案力		人生において今後必要となる資金準備に関する大まかな計画を自身で設計することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題	： 各回の講義について、金融に関する知識と問題意識の有無を確認する課題を出すので、その理解度を評価する。
小課題	： 資金計画に関する理解度を0～20点で評価する。
定期試験	： 金融商品、政府が展開する社会保険制度等の概要についての理解度を評価する。
	60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要があれば、講義内で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	非常勤講師室
場所：	授業終了後
備考・注意事項：	授業終了後、非常勤講師室で質問を受け付けます。また、メールアドレスを教えるので、メールによる質問も受け付けます。

授業計画

回	講義概要、授業計画、成績評価基準の解説およびテキスト指示について	経済新聞を読み、金融問題を収集してくる。講義中に紹介するテキストの該当部分の通読 (pp. 20~25)。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	講師の紹介を行う。今後の講義の進め方と、金融の知識が必要とされている現状とその重要性について学ぶ。		4時間
第2回	あなたの将来の暮らしは大丈夫か？（1）－人生設計と必要になるお金の話；結婚・出産・子育てを中心に－	自身の人生設計と必要資金のシートの作成・その1	4時間

	将来の資金設計の概念整理を行ったうえで、結婚・出産・子育て（生活費）について、どのような支出項目があり、どの程度の資金が必要になってくるかについて学ぶ。		
第3回	あなたの将来の暮らしは大丈夫か？（2）－人生設計と必要になるお金の話；子育て・住宅ローンを中心に－ 将来に必要な資金計画のうち、子育て（学資）について、学資保険や教育ローンの知識について学ぶ。人生で最大の買い物と言われる住宅購入時に活用することになる、住宅ローンの概要について学習する。	自身の人生設計と必要資金のシートの作成・その2	4時間
第4回	あまっただお金の活かし方－間接金融と直接金融の長所と短所について－ お金が余った主体から、お金が不足する主体へ資金を融通することを金融というが、その形態には2種類存在する。それぞれの金融形態の概要を学ぶとともに、メリット・デメリットも学ぶ。	直接金融・間接金融に関する課題への取り組み。講義中に紹介するテキストの該当部分の通読（pp. 26-30）	4時間
第5回	なぜ紙キレ（お札）でモノが買えるのか？－貨幣の3つの機能、貨幣の歴史、電子マネーについて－ 現代の人間社会では、なぜ紙切れでモノを購入することができるのだろうか。そもそもお金（貨幣・紙幣）とは、どのような価値があるのだろうか。貨幣の歴史と機能を学びながら、貨幣の役割について学習する。	電子マネーがもつメリット・デメリットについて課題に取り組む。	4時間
第6回	銀行窓口の“ウラガワ”－銀行の種類と役割、金融仲介・信用創造・決済－ 金融を担う主体の1つである「銀行」について、その種類、機能について学習する。また、銀行が果たす機能の1つである決済業務の中から、小切手決済や手形決済についても学習する。	授業で配布する、手形・小切手決済に関する課題に取り組む	4時間
第7回	人生のリスクについて考えてみよう！（1） 損害保険 金融を担う主体の1つである「損害保険」について、その取扱い商品の機能、保険料決定のメカニズム等について学習する。また、リスクを低減させたり、分散させたり、回避することについての概念の整理も行う。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読および練習問題の取り組み（pp. 68-69, 100-112）	4時間
第8回	人生のリスクについて考えてみよう！（2） 生命保険 金融を担う主体の1つである「生命保険」について、その取扱い商品の機能、保険料決定のメカニズム等について学習する。生命保険では、健康状態や職業についての「告知義務制度」が存在し、その意義と重要性についても学ぶ。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読（73-87）	4時間
第9回	銀行にお金を預けるだけじゃモッタナイ！？－証券市場の概要；証券取引所、株式と債券、発行市場と流通市場－ 金融を担う主体の1つである「証券会社」について、その業務内容を学ぶ。また、証券（株式・債券）の概要と、それらを取り扱う証券市場・証券取引所についても学習する。債券については、「債券格付け」の意義についても学習する。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読（114-129）	4時間
第10回	株式会社ってなんだろう？－株式会社の仕組み、株式と権利－ 証券の中でも、株式についてより掘り下げて学習を進める。具体的には、株式会社の機関構造と株式に与えられた法的な権利について学習をする。多くの学生が卒業後、なんらかの会社（株式会社であることが圧倒的に多い）で働くうえで、そのメカニズムを学ぶことは重要となる。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読（130-138）。講義で指定する株式銘柄の株価動向の調査。	4時間
第11回	なぜ、ファッションブランドは高いのか？－外国為替相場と外貨建預金について－ 外国為替相場と外貨の取引の概要（取引所、為替手数料、為替リスク等）について学習する。外貨建金融商品のメリット・デメリット、為替の変動要因等についても学習する。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読（140-147）。講義で指定する通貨の為替相場動向の調査	4時間
第12回	人生の思わぬ落とし穴に備えよう（1） 労働保険 民間保険会社が展開する保険ではなく、政府が展開する公的な社会保険のうち労働保険（労災保険・雇用保険）について学習する。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読（33, 40-44）。配布する正誤問題への取り組み。	4時間
第13回	人生の思わぬ落とし穴に備えよう（1） 健康保険 民間保険会社が展開する保険ではなく、政府が展開する公的な社会保険のうち健康保険（健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療費制度）の概要を学ぶ。あわせて、介護保険制度についても学習する。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読（34-39）。配布する正誤問題への取り組み。	4時間
第14回	フリーターは圧倒的に損！？－公的年金制度の概要－ 職業別に所属する基金が異なる「年金」について、その機能と制度概要について学習する。年金制度は、老後の生活だけでなく、障害年金や遺族年金といった側面も合わせもつことを理解することが重要である。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読（45-66）。	4時間
第15回	公的年金制度の補論、講義内容の総括 第14回の公的年金制度について、言及しきれていない部分の解説を行う。これまでの講義内容について、各回の重要トピックを中心に触れる形で、おさらい学習を行う。	講義の前半部分への理解を問う小課題への取り組み	4時間

授業科目名	アジアの未来と日本				
担当教員名	全 恵松				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

韓国をはじめとするアジアの国々の親しみやすいキーワードを通して、文化、習慣、生活をわかりやすく紹介し、アジアに対する理解の幅を広げ、将来、関連業界で活躍できるよう異文化コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的とする。なお、授業で取り上げるアジア関連のキーワードについて、学生自らがまず関連情報や資料を集め、ペアワークを通して互いの意見を考え、二人で協力し一枚のレポートを毎回提出することによって「物の見方」の理解力をより深化させることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

アジア諸国の社会と文化に関する知識

目標：

アジア諸国の親しみやすいキーワードから一歩踏み込んだ歴史的・社会的な背景に触れることにより異文化に対する理解を幅を広げることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP8. 意思疎通

アジア関連のキーワードについて、日本の文化と比較して説明できる。

様々な情報から必要な情報入手し、組み立て、わかりやすく伝えることができる。

与えられたアジア関連のキーワードについて、毎回、ペアで情報を収集しレポートにまとめることによって、協力することと相手の違う考えを理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・その他(以下に概要を記述)

授業は、まず、準備してきた課題をペアワークでレポートにまとめる(30分)→授業(40分)→授業を参考にペアレポートを補充し提出/テーマによってはペア発表やディベートもあり(20分)*4色ボールペンを準備すること。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内ペアワークレポート14回

評価の基準

: 授業内におけるペアワークへの積極的な参加、ペアレポートのわかりやすさについて50点満点で評価する。

50%

受講状況

: 課題準備や授業態度(私語や携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点)を独自のルーブリックを基に評価する。

20%

期末レポート

: 学園共通ルーブリックに基づいて評価する。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。また、ペアワークのための予習を重視する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： その他連絡を取りたい場合はEメールで (snoopyk11@naver.com). Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画			授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	オリエンテーション（アジア文化のイメージをつかむ） ①講師紹介を行う。②授業の進め方について説明を行う。③学生たちのアジアのイメージからキーワードを取り出し、今後授業で行うペアワークの予行練習を実施する。	次回授業のテーマである「餅」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第2回	「餅」 ①アジア諸国の代表的な食べ物として昔から今まで食べている「餅」について取り上げる。特に儀礼と餅の関係について映像等を交えて説明を行う。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「茶」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第3回	「茶」 ①第1回に続き、アジアの食文化として「茶」を取り上げる。インド・中国の茶の始まりから茶の移動について説明し、アジア諸国に根付いてきた茶の文化について紹介する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「市場」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった市場についてまとめる。	4時間
第4回	「市場」 ①アジアを旅する際にもっとも人気のある場所である「市場」について、アジア諸国の市場を取り上げ、受講生たちによる観光資源として市場についての考えを交えながら、その歴史的な背景とともに紹介する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「アジアの信仰」について、特に仏教を中心に日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第5回	「アジアの信仰」 ①「観音菩薩」は、大乘仏教が伝わった中国、台湾、日本、韓国、ベトナムにおいて古代より広く信仰を集めている。ここでは各国の観音菩薩信仰について詳細な紹介を行い、東アジアの宗教観について考えたい。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「社会貢献する宗教」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった市場についてまとめ提出する。	4時間
第6回	「社会貢献する宗教」 ①主に、台湾と韓国の尼僧の社会福祉活動の現状を紹介し、社会におけるその影響力について考える。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「韓流ドラマと日本の町おこし」について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった場所についてまとめる。	4時間
第7回	「韓流ドラマと日本の町おこし」 ①ここでは観光資源として「町おこし」の事例を取り上げる。とりわけ韓国ドラマの撮影地協賛を通してアジアから多くの観光客を誘致した秋田県や宮崎県の試みを紹介する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「日本の漫画」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容についてまとめる。	4時間
第8回	「日本の漫画」 ①韓国、台湾、中国の若者を中心に日本語の人気が増している。その背景には日本の漫画の影響があり、日本語学習に留まらず日本への旅行・留学へと繋がっている。ここではアジアの若者にもっとも人気のある日本の漫画を紹介するとともにインタビュー資料を通して日本の漫画の魅力について考えたい。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「今、アジアの映画がおもしろい！」について、まずその①台湾の映画について関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第9回	「今、アジアの映画が面白い！」 その①台湾映画 ①近年、アジア諸国主催の映画祭が増え、非常に面白い映画を多数制作している。授業では特に人気を集めている台湾の主要作品と監督を紹介する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「今、アジアの映画がおもしろい！」について、その②インドの映画について関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第10回	「今、アジアの映画が面白い！」 その②インド映画 ①近年、アジア諸国主催の映画祭が増え、非常に面白い映画を多数制作している。授業では特に人気を集めているインドの主要作品と監督を紹介する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「K-POPと韓国の教育」について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間

第11回	「K-POPと韓国の教育」 ①今では大衆文化のコンテンツとして定着したK-POPは日本の若者の間にも非常に関心が高い。ここではK-POPの概要を説明し、その背景として密接に関係している韓国の教育事情について説明する。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「K-Beauty」について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第12回	「K-Beauty」 ①従来フランスが主導権をとっていた化粧品産業が、今は韓国、日本、中国を中心とするアジアに移行している。特に、韓国は「美」に対する拘りが強い。ここではアジア国々の女性の社会進出の背景を踏まえながら、とりわけ、韓国社会における「美」意識を就職競争に結び付けて考えたい。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「英語教育」について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第13回	「英語教育」その① ①韓国の国営放送局が製作した「韓国人と英語」というドキュメンタリーを紹介し、英語勉強に苦悩しながらも海外志向が強い韓国の若者について、学生たちの討論を交えながら考えたい。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	①前回の授業内容およびペアワークのレポートを踏まえながら英語教育について自分の考えをまとめる。 ②最終課題として、今までの授業でやってこられた方法を用いて、自らアジア関連のキーワードを決め、情報を収集し、伝わりやすい内容にまとめ提出する。	4時間
第14回	「英語教育」その② ①韓国の国営放送局が製作した「韓国人と英語」というドキュメンタリーを紹介し、英語勉強に苦悩しながらも海外志向が強い韓国の若者について、学生たちの討論を交えながら考えたい。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「お一人様について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第15回	「お一人様」 ①「??(ホンバブ・一人ご飯)」、「??(ホンシル・一人酒)」は、最近、韓国で一般的に定着した日本での「お一人様」にあたる新語である。このような言葉を手掛かりに韓国の社会の家族形態の変化、高齢化の問題について考えたい。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	最終課題として、自らアジアと関連するキーワードを決め、情報を収集し、相手にわかりやすく伝えるようまとめる。	4時間

授業科目名	人権と社会				
担当教員名	石井基博				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	基本的に講義形式で行います。また、積極的な態度が身につくように質疑応答や、意見発表・グループディスカッションおよびグループごとの発表などの学生同士の意見交換といった協同学習の形態、ビデオ鑑賞など				

開放科目の指示：「可」

授業概要

様々な人権問題の考察を通じて、人権（差別問題）についてのより高い問題意識を持つとともに、社会的責任力と倫理的判断力を養い、社会の一員として差別のない社会に向けて実践的に取り組めるようになることが、この科目の目標です。この授業では、前半で「人権」の基本的な意味や日本国憲法における人権規定とその実際上の問題点について理解を深めます。後半では、現代の主要な人権の問題について、人権の歴史をふり振り返りながらその知識と課題を理解・修得し、人権（差別）問題について私たち自身の問題として考えていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	人権（差別）問題に関する知識と課題	人権（差別）問題についてより高い問題意識と倫理的判断力を身につけることができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	人権（差別）問題についての自らの意見の表明	他者の立場・価値観を理解できるとともに、人権（差別）問題についての自分なりの見解を表明できる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		人権問題・差別をなくすためにどのように取り組めばよいかを考え、自らの提案・具体策を提示できる。
2．DP6. 行動・実践		人権の視点から、現代社会の文化・制度を理解でき、社会の一員として差別のない社会の形成に貢献できる。
3．DP8. 意思疎通		相手の意見・考え方を理解できるとともに、自分の見解を適切な表現力・記述力で表明できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・その他（以下に概要を記述）
ワークシートによる小テスト（および次回の課題としての不正解問題の練習）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60%	： 授業で取り上げたテーマについて人権の専門知識を用いて説明し、かつ自分の意見・考えを述べる。
授業ごとの振り返りシート	15%	： 授業でえた人権についての専門知識、グループワークでの他者の意見、表明した自分の見解などについて記述する（毎回1点の15点満点）。
授業ごとのワークシート	15%	： 不正解問題を練習して次回の課題として提出する（毎回1点の15点満点）。
中間レポート	10%	： 人権に関する資料を読んで1200字程度のレポートを提出する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

横藤田誠・中坂恵美子著『人権入門〔第2版〕—憲法／人権／マイノリティー』（法律文化社、2011年）
古橋エツ子編『新・初めての人権』（法律文化社、2012年）
その他の参考文献は授業中にその都度紹介します。また、適宜授業のテーマについての資料を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 授業の前後に教室で質問に答えます。
Eメールでの質問は、zumwoh175@yahoo.co.jp（冒頭はゼット、hの後はエル）に送付する。
氏名と学籍番号を記入のこと。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<p>現代社会と人権（授業の到達目標と進め方について）</p> <p>20世紀における人権問題の取り組みの伸長と人権侵害との両側面について考えます。</p>	20世紀における人権問題の取り組みの伸長と人権侵害との両側面についての内容を整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第2回	<p>「人権」とはどういうことを言うのか</p> <p>「人権」の基本的な意味について確認するとともに、その由来についても理解します。</p>	「人権」の基本的な意味についての内容を整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第3回	<p>人権問題を考える（1）差別と人権（グループディスカッションと発表）</p> <p>私たちの身近な人権や差別の問題について、グループに分かれてディスカッション（討論）し、その後はグループごとの発表をしてもらい、さらに考えを深めます。</p>	グループディスカッション（討論）とその後のグループごとの発表の内容を振り返って整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第4回	<p>日本国憲法における人権①日本国憲法における人権規定</p> <p>日本国憲法における基本的な人権規定の内容について理解します。</p>	日本国憲法における基本的な人権規定の内容を整理し、資料を読みながら復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第5回	<p>日本国憲法における人権②人権規定の実態（問題点）</p> <p>日本国憲法における基本的な人権について、十分に守られていない問題点について検討します。</p>	日本国憲法における人権規定の問題点について整理し、資料を読みながら復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第6回	<p>人権問題を考える（2）「いじめ」について（グループディスカッションと発表）</p> <p>いじめの問題について、グループに分かれてディスカッション（討論）し、その後はグループごとの発表をもらい、さらに考えを深めます。</p>	いじめの問題についてグループディスカッション（討論）とその後のグループ発表の内容を振り返って整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第7回	<p>現代の様々な人権（1）子どもの人権①「いじめ」</p> <p>学校での子どもの人権、特に「いじめ」の問題について、そのタイプと特性や解決策などを考えます。</p>	学校での子どもの人権、特に「いじめ」のタイプと特性や解決策などについて整理し、資料を読みながら復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第8回	<p>現代の様々な人権（1）子どもの人権②体罰と校則</p> <p>中間レポート資料配布 学校での子どもの人権のうち、体罰と校則の問題について考え、検討します。</p>	学校での体罰と校則の問題について整理し、資料を読みながら復習する。また、配布した人権に関するレポート資料を通読するとともに、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第9回	<p>現代の様々な人権（1）子どもの人権③子どもの権利を守るために</p> <p>学校での子どもの人権を含め、子どもの権利が守られるために必要な配慮について考え、検討します。</p>	子どもの権利が守られるために必要な配慮について整理し、復習する。また、配布した人権に関するレポート資料を読んで考えたことについて1200字程度のレポートを作成するとともに、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第10回	<p>人権問題を考える（3）ビデオ鑑賞・グループディスカッションと発表</p> <p>人権問題（障がい者の人権）についてのビデオを鑑賞して、その後内容についてのグループディスカッション（討論）と発表を行います。</p>	人権問題（障がい者の人権）についてのビデオ鑑賞のグループディスカッション（討論）とその後のグループ発表の内容を振り返って整理し、復習する。また、配布した人権に関するレポート資料を読んで考えたことについて1200字程度のレポートを完成させるとともに、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第11回	<p>現代の様々な人権（2）障がい者・患者の人権①障がい者の歴史</p> <p>中間レポート提出 障がい者の人権の歴史を振り返って、その取り組みの意義について考えます。</p>	障がい者の人権の歴史やその取り組みの意義について整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間

第12回	<p>現代の様々な人権 (2) 障がい者・患者の人権②障がいとは何か</p> <p>障がい者の人権問題について、障がいとは何かという観点からその問題の理解をさらに深めます。</p>	<p>障がい者の人権問題について、障がいとは何かという観点からその問題を整理し、資料を読みながら復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間
第13回	<p>現代の様々な人権 (3) 部落差別問題①被差別身分の社会的起源</p> <p>部落差別問題について、被差別身分が歴史の中でどのように生み出されたかをその社会的起源にさかのぼって考えます。</p>	<p>部落差別問題に関して、被差別身分が歴史の中でどのように生み出されたかというその社会的起源について整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間
第14回	<p>現代の様々な人権 (3) 部落差別問題②近代社会と被差別部落</p> <p>近代社会における部落差別の撤廃の取り組みについて理解するとともに、その差別問題について考えます。</p>	<p>近代社会における部落差別の撤廃の取り組みについて整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間
第15回	<p>現代の様々な人権 (4) 戦争と人権</p> <p>戦争における人権侵害について検討しながら、平和的生存権の意義を理解します。</p>	<p>戦争における人権侵害と平和的生存権の意義について整理し、資料を読みながら復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	小宮山直子				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	本授業では、出席者の発言を期待しています。授業では、必要に応じてレジュメや資料を配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。各				

開放科目の指示：「可」

授業概要

この授業では、日本国憲法のまずはその成立過程から学びます。そして、憲法の基礎的知識を条文や憲法判例を通して習得し、社会における多様な問題について、憲法の視点から、自分の力で考える能力を身につけることを目標とします。「憲法」「法」は難しいというイメージがあるかもしれませんが、授業では、できるだけ身近な素材を取りあげて検討していきますので、憲法とわたしたちの日常生活との関わりについて考える機会になります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

憲法の意義、日本における憲法の歴史、日本国憲法の内容・諸問題を条文や判例を通して学ぶ。

目標：

日本国憲法の基本原理及び基礎知識を修得し、これからの社会生活を生きる力とする。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

わたしたちの日常生活と憲法との関係を理解し、社会における諸問題について自分の意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末テスト	50%	： 全期間の内容を範囲とした試験を行う。憲法に関する基礎知識を理解している、その基礎知識を用いて提示された課題について自身の意見を含めて論述することができるかという観点を中心に評価します。
中間レポート	10%	： 前半の授業内容に関連するレポートを作成・提出する。課題に対して適切に論述され、かつ独自の見解がしめられているかという点を中心に評価します。
小テスト	10%	： 学期中複数回抜き打ちの小テストを行い、語句が理解できているかについて評価します。
授業内小レポート	30%	： 各回の授業内容を踏まえて、課題に対して適切に論述され、かつ独自の見解がしめられているかという観点を中心に評価します。全体で10回実施。

使用教科書

指定する

著者

高見勝利（編）

タイトル

・ あたらしい憲法のはなし

出版社

・ 岩波書店（岩波現代文庫）

出版年

・ 2013年

参考文献等

芦部信喜『憲法（第6版）』岩波書店
 駒村圭吾編『プレステップ憲法』弘文堂
 『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』有斐閣
 『セレクト六法』岩波書店
 その他の文献については適宜授業内で提示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。新聞などの各メディアを通じて、多様な社会問題に関心をもつよう心がけましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 講義室

備考・注意事項： 授業前後に講義室で質問に応じます。

授業計画			授業外学修課題にかかかる目安の時間
第1回	<p>「憲法」とは？</p> <p>受講上の注意点などについて説明する。私たちの生活と「憲法」の関係を考えてみる。憲法を含む、日本法の全体構造および日本国憲法の構造を学習する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。特に日本法全体における憲法の位置づけを確認する。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第2回	<p>「世界」の「憲法」の成立と歩み</p> <p>欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。特に立憲主義の特徴について各自でまとめる。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第3回	<p>「日本」の「憲法」の成立と歩み</p> <p>日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。特にペアテ草案の意義について。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第4回	<p>「日本国憲法」の基本方針・基本構造</p> <p>日本国憲法の基本原理および基本構造（統治の基礎と人権の基礎）を確認する。 日本国憲法における「天皇」制と国民主権</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：国民主権、平和主義、基本的人権の保障。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第5回	<p>法律はどうやって作られ、運用されるのか？</p> <p>18歳選挙権が実現される今、国会の役割、選挙権の意義を考える。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：国会の役割、参政権の意義。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第6回	<p>裁判所の役割とは？</p> <p>日本の裁判はどのような組織のもとで、どのように行われているのか。裁判所が法律を審査するとは？一違憲審査制を検討する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：最高裁判所、違憲審査。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第7回	<p>憲法のもとに保障される人権とは？</p> <p>日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：「人権」の歴史。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第8回	<p>表現の自由が保障される理由は？</p> <p>自由権①——「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：自己実現、自己統治、知る権利。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第9回	<p>被疑者・被告人に保障される権利とは？</p> <p>自由権②——もし逮捕されたら？近年の冤罪事件を検討しつつ、憲法で保障される刑事手続きにおける被疑者・被告人の権利を考える</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：被疑者・被告人の権利、冤罪事件。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第10回	<p>「最低限の生活」の保障とは？</p> <p>社会権①——社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の経済格差の問題、貧困問題を考えてみる。教育権の意義を考える。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：社会権の歴史、生存権、貧困。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第11回	<p>教育・労働をめぐる権利とは？</p> <p>社会権②——教育を受ける権利、労働者に保障される権利について学ぶ。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：教育権の意義、労働者の権利、正規雇用と非正規雇用。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第12回	<p>法の下での平等とは？</p> <p>憲法上の「平等」の意味は？14条・24条をめぐる近年の重要判例を学びつつ、家族をめぐる法や諸問題を憲法を通して検討する。ジェンダーと法。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：平等をめぐる重要判例、ジェンダー。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第13回	<p>自分のことはすべて自分で決められるのか？</p> <p>新しい人権と「自己決定権」について考えてみる。こどもの権利について検討する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：自己決定権、子どもの権利。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第14回	<p>これまでの「平和」・これからの「平和」について考える</p> <p>戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：「平和」と9条。次回に該当するテキスト部分の通読。</p>	4時間
第15回	<p>憲法改正とは？改正をめぐる諸問題</p> <p>憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：憲法改正、国民投票</p>	4時間

授業科目名	文学・歴史・宗教				
担当教員名	三上聡太				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	こちらが事前に配布するテキストを、しっかり読んできていることを前提に授業を進める。またレジュメもその都度配布するので各自で管理すること。これらは最終レポートの作成に必要となる。授業は視覚資料など				

授業概要

人々の価値観が多様化している現在、人文科学をとりまく状況は大きく変化してきている。この授業では「文学」や「歴史」といった分野にあえてこだわらず、領域横断的なものの考えかたを学ぶ。具体的には日本の近代を小説やアニメから見てゆく。またそこに内在化された思想についても見てゆく。学問における真理の探究にはさまざまなアプローチが可能であることを理解し、ひとつの方法や立場にとらわれない柔軟な思考力を身につけることがこの授業の目的である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

人文科学に関する幅広い教養を身につける。

目標：

日本の近代史、文学史、思想史(「宗教」を含む)のおおまかな流れを理解できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通
3. DP10. 忠恕の心

テキストを鑑賞するだけでなく、精読によって問題点を見つけることができる

自分の意見を述べるだけでなく、論拠のあるレポートを書くことができる。

ものごとくに良心と良識をもって向き合うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がない場合、最終レポートの提出が場合は放棄とみなし、成績評価を「S」とする。

成績評価の方法・評価の割合

小発表

評価の基準

： 毎回1、2名ずつ小発表を行う。課題意識をもち、全体に向けた発表としてしっかり成立している場合を10点とする。5段階で評価する。

10%

小レポート

： 毎回400字前後の小レポートを書く。授業内容を理解し、テキストの問題点を見つけて自分なりの意見を提示している場合を3点とする。計15回で評価する。

45%

最終レポート

： 引用や注釈、あるいは参考文献などが示されており、提出物としてしっかり成立している場合を45点とする。5段階で評価する。

45%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

木村一信ほか編『日本近代文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1997年7月）。他については授業内に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。この時間にならざるテキストを読んでおいてください。これが人文科学、とくに文学を学ぶにあたっての最低限のルールです。また質問やわからないことがあれば、そのままにせずに関心を持ってください。よいアドバイスがもらえるはず。大学での「学び」の半分は学生の主体性によって成り立っています。みなさんの積極的な学びに期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜12:00～13:00

場所： 講師室(中央館1F)

備考・注意事項： 月曜日の12:00～13:00をオフィスアワーとする。

授業計画

授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	<p>オリエンテーションと「文学・歴史・宗教を学ぶことの意義」を考えよう</p> <p>人文科学の基礎的な方法論を学び、文学・歴史・宗教を学ぶことの意義について考える。高校までの「文系」教科の内容をふり返りつつ、この授業の進めかたや、授業ごとの小レポートの書きかたについて説明する。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。またこのシラバスを読み、半年間の授業計画を立てる。</p>	4時間
第2回	<p>森鷗外「舞姫」</p> <p>日本の「近代化」について学び、この小説が「石炭」というキーワードからどのように読みかえられるのかを考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。</p>	4時間
第3回	<p>徳永直「島原女」</p> <p>日本人の「海外進出」について学び、それがどのような人々によって支えられていたのかを、「からゆきさん」から考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。</p>	4時間
第4回	<p>呂赫若(ろかくじゃく)「逃げ去る男」</p> <p>台湾の「植民地近代」とその問題点について学び、この小説が「麻薬」というキーワードからどのように読みかえられるのかを考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。</p>	4時間
第5回	<p>梶井基次郎「檸檬(れもん)」</p> <p>「モダニズム」に二つの意味があることを学び、この小説の主人公が「消費社会」の到来にどのような息苦しさを感じていたのかを考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。</p>	4時間
第6回	<p>金史良「光の中に」</p> <p>「ディアスポラ」について学び、「在日文学」における「母」のイメージとその揺らぎが何を意味しているのかを考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。「富士正晴記念館」について調べ、可能な限り足を運ぶ。</p>	4時間
第7回	<p>富士正晴「帝国軍隊における学習・序」</p> <p>茨木市ゆかりの作家について学び、「落伍兵」たちが描いた戦争と、そこに込められたメッセージについて考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。</p>	4時間
第8回	<p>太宰治「待つ」</p> <p>文学における「抵抗」のありかたについて学び、戦時下に掲載不可とされたこの小説が読者に何を訴えているのかを考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。</p>	4時間
第9回	<p>水上勉「リヤカーを曳いて」</p> <p>歴史における「証言」とその問題点について学び、なぜ作者が終戦の日を「歴史的瞬間」として語ることを拒んできたのかを考える。</p>	<p>調べ学習を行う(内容は授業中に指示する)。</p>	4時間
第10回	<p>今村昇平「ゆきゆきて、神軍」</p> <p>ドキュメンタリー映画を視聴し、「暴力」はなぜ連鎖するのか、またその連鎖の中で失われるものは何なのかを考える。また最終レポートについて課題を発表する。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。最終レポートの作成に取り組む。</p>	4時間
第11回	<p>遠藤周作「沈黙」</p> <p>日本の「戦後」について学び、この小説が「神」をテーマに投げかけている問いとは何なのかを考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。最終レポートの作成に取り組む。</p>	4時間
第12回	<p>目取真俊「ブラジルおじいの酒」</p> <p>「国内植民地」について学び、沖縄のさまざまな「記憶」が何を語りかけているのかを考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。最終レポートの作成に取り組む。</p>	4時間
第13回	<p>村上春樹「羊をめぐる冒険」</p> <p>「国民国家」とその問題点について学び、「羊」から北海道のどのような歴史が立ち現れてくるのかを考える。</p>	<p>今回のテキストを読み、その内容を理解する。最終レポートの作成に取り組む。</p>	4時間
第14回	<p>松村栄子「僕がかぐや姫」</p> <p>「ジェンダー」について学び、現在の社会が「男性」「女性」という性別にそれぞれどのような役割を規定しつづけているのかを考える。</p>	<p>調べ学習を行う(内容は授業中に指示する)。最終レポートの作成に取り組む。</p>	4時間
第15回	<p>新海誠「君の名は。」ほか</p> <p>ジャパニメーションを視聴し、「大きな物語」が失われた現在、どのような物語が再生産されつづけているのかを考える。最終レポートを提出する。</p>	<p>授業で習った内容をプリントを見ながら復習する。また半年間の学びをふり返る。</p>	4時間

授業科目名	人間学				
担当教員名	荒木秀夫				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義は板書もしくはPowerPointを用いて行い、必要に応じプリント配布による説明が主体となります。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

人間学は「人間とは何か」「いかに生きるべきか」という問いに総合的に答えるために、哲学や倫理学を土台に科学や宗教学などの成果をふまえて、多面的に考えようとする講義です。人間とは何か、という本質に関する問いかけから始めて様々な人間観を概観した後、20世紀に登場した文化的人間観について詳しく考えていきます。主題自体は難しそうですが、出来るだけ具体的な例を用いて受講生と一緒に考えていきたいと思っています。なお、授業計画は受講者の興味関心の領域やレベルによって、適宜変更することもあります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	古代・中世・近代の代表的な人間観を知ることによって、現代人の生き方を考える	過去の事例に学び、これからの自分の生き方に生かす
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		人間の本質を知り、自分をみつめる
2．DP6.行動・実践		自分の行動の源泉を知り、これからの生き方に生かす
3．DP9.役割理解・連携行動		人間とは何かについて考えることで、自分が果たすべき役割を知る

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 講義期間中にレポート作成の指導を行い、期間内に提出してもらいます

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- レポートは必ずコメントをつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

レポート	20%	： 求められている要素を過不足なく記述した上で、自分の観点から論述できているかを問います
ノート	10%	： 講義中にノートをきちんと内容を漏らさず書いているかを問います
期末論述試験	70%	： 講義内容を踏まえて、論理的に必要な項目を説明できるかを問います

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特定の参考書は指定せず、必要に応じて教室で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所：
備考・注意事項：特に質問がある場合は、授業中に申し出てくれれば対処します

授業計画

第1回

講義ガイダンス 人間学とは何か

受講する際の基本的な注意点を説明します
人間学とは何か、どのような学問なのかについて説明します

講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

第2回	人間観の類型 古代～中世～近代 人間が世界をどのようにとらえてきたか、という世界観の変遷について 神・自然・人間の三者の関係を中心に講義します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第3回	代表的な人間観（1）～古代 古代における人間観を「ホモ＝サピエンス」という概念を中心に説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第4回	代表的な人間観（2）～中世 西欧中世における人間観を「ホモ＝レリギオーオス」という概念を中心に説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第5回	代表的な人間観（3）～近代 近代における人間観を「ホモ＝ファーベル」という概念を中心に説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第6回	近代の人間観の課題 「ホモ＝ファーベル」という概念が現代にまで続く様々な問題を内包していることを具体的な問題に即して説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第7回	19世紀以降の新たな人間観（1）ニーチェ 19世紀の人間観の特徴をニーチェの「ディオニュソス型人間」という概念を中心に説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第8回	19世紀以降の新たな人間観（2）フロイト 19世紀の人間観の特徴をフロイトの「無意識」の問題を中心に説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第9回	20世紀の人間観（1）ホイジンガとカイヨフ 20世紀において提示された文化的社会学的人間観である「ホモ＝ルーデンス」を中心に説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第10回	20世紀の人間観（2）社会学的人間観 何故「ホモ＝ルーデンス」という概念が提唱されたのか、その時代的背景を含めて説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第11回	20世紀の人間観（3）遊びの定義 「ホモ＝ルーデンス」の中心となる「遊び」をめぐる問題について説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第12回	20世紀の人間観（3）遊びの分類とその意味 カイヨフの「遊び」の分離」を説明した後、それが何を指しているものであったかについて説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第13回	レポート作成日 「遊び」の定義を踏まえて、自分の生活を見直すレポートを作成してもらいます レポートの書き方は授業中に個別指導します	授業中にレポート作成が完了しなかった場合は、自宅で完成させること	4時間
第14回	20世紀の人間観（4）まとめ 20世紀の人間観が目指した新たな人間観の意味と、それをこれからの自分にどう生かしていくべきかについて説明します	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	1時間
第15回	全体のまとめ 講義全体のまとめと復習を行います	講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	4時間

授業科目名	人間と文化				
担当教員名	桂 春蝶				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	伝統芸能のワークショップ、実演、解説を通し、プレゼン技術、話し方、自己表現、それらの向上のためのノウハウを落語家・桂春蝶もしくは様々な分野のゲストを迎えお教えします。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

落語を中心とした伝統芸能を通して、日本の伝統文化・古典的表現法を学び、プレゼン技術・自己表現力・コミュニケーション能力を向上させ、日本の文化に理解を持ち、国際化する社会で活躍する人材の育成を目的とする。具体的には、担当教員の落語家・桂春蝶による落語の実演、その他プロによる講談・浪曲などの伝統芸能の実演を体験する。実演後、表現技術向上に際しての経験談を聞くことで、伝統芸能・伝統文化への理解を深める。また、そのノウハウを応用して、自己表現のワークショップを実施することで表現力の向上を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	伝統芸能に関する知識	実演の鑑賞を通して、伝統芸能の表現法を理解できる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		理解した伝統芸能の表現法を自己表現に応用できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 芸能表現に対して真摯な態度で鑑賞できていること、毎回の自己表現への積極性を評価する。

50%

毎回の小レポート

： 毎回の授業のまとめとして小レポートを提出しますが、内容の豊かさと独自性についても評価する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・醒酔笑 (安楽庵 策伝著)
- ・米朝落語全集

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	自己表現入門（1） 自己紹介 自己紹介をする、または他人の自己紹介を聞き、その構成や手法を分析することで表現についての理解を深めます。	自分の好きなものについて様々な角度から紹介できるよう準備する。 4時間
第2回	自己表現入門（2） 好きなものの紹介 好きなものを紹介する、または他人の好きなものの紹介を聞き、その構成や手法を分析することで、正確な情報伝達に必要なものを学びます。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。 4時間
第3回	伝統芸能の体験（1） 落語を聞きましよう 桂春蝶が上方落語の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の落語の音源を聴く。 4時間

第4回	伝統芸能の表現法（1） 落語の表現を理解しましょう 上方落語の表現のノウハウ、経験談を聞くことで、表現力を向上させます。	落語に関する書籍を読む。	4時間
第5回	伝統的表現法の応用（1） 落語の表現を使ってみましょう 落語的表現を用いて小噺やジョークをつくり発表することで、表現法の定着を図ります。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第6回	伝統芸能の体験（2） 講談を聞きましょう 講談の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の講談の音源を聴く。	4時間
第7回	伝統芸能の表現法（2） 講談の表現を理解しましょう 講談の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	講談に関する書籍を読む。	4時間
第8回	伝統的表現法の応用（2） 講談の表現を使ってみましょう 講談的表現を用いて過去の出来事を発表することで、表現法の定着を図ります。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第9回	表現法の優越性と限界を学びましょう 落語と講談という二つの似て非なる芸能の表現法を比較することで、表現法の適性を学びます。	自分の住む地域でなされている地域寄席について調べる。	4時間
第10回	伝統芸能の体験（3） 浪曲を聞きましょう 浪曲の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の浪曲の音源を聴く。	4時間
第11回	伝統芸能の表現法（3） 浪曲の表現を理解しましょう 浪曲の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	浪曲に関する書籍を読む。	4時間
第12回	伝統的表現法の応用（3） 浪曲の表現を使ってみましょう 浪曲的表現を用いて最近興味のあるニュースを発表することで、表現法の定着を図ります。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第13回	討論会に参加して、自己表現方法を考えましょう 討論会を実施し、自分の意見を的確に表現するために必要なものを学びます。	今まで学んだ表現法を使って自己紹介できるようにする。	4時間
第14回	自己表現応用（1） 自己紹介しましょう これまで学んだ表現法を駆使し自己紹介をします。また、自己表現入門（1）の時からどのように変わったかを分析することで、自分にとって得意な表現法を体得します。	今まで学んだ表現法を使って好きなものの紹介をできるようにする。	4時間
第15回	自己表現応用（2） 好きなものの紹介をしましょう これまで学んだ表現法を駆使し好きなものを紹介をします。また、自己表現入門（2）の時からどのように変わったかを分析し、伝統的な表現法から新しい表現をしていく可能性について学びます。	今まで学んだ表現法をあらゆる場面で実践する。	4時間

授業科目名	日本の食文化				
担当教員名	小関佐貴代				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可」

授業概要

近年、欧米からは日本食が健康食であると評価されており、日本食レストランが流行っています。しかし、皆さん自身の食生活は本当に健康的でしょうか？この授業では、日本食とはどのようなものであるかを学び、皆さんの将来において、健康を維持できるように食事を設計する力を養います。まず、皆さんの食生活を振り返り、現在も使っている食材の伝統文化を探し、「文化としての食」「食べる楽しみの食」「作る楽しみの食」の知識を学びます。日本食が本当に「健康食」となるように日常の食事をどうすべきかを考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常の食生活を振り返る機会を持ち、日本に生まれ育っていることを省みて、自身が健康な生涯を送れるように食生活を設計する意識を養います。

目標：

自分自身の食生活を健康維持できるように設計できる基礎知識を習得します。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

自分の食生活を振り返り、改善すべきことを見出し、改善方法を考える力を養います。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回のレポート

評価の基準

： 毎回の授業開始時にプリントを配布しますが、授業内に必要事項を書き込み、授業のまとめを記入して提出します。

5点×15回=75点

75%

授業外課題

： 授業外課題（お弁当作り）

5点×2回=10点

10%

定期試験

： 全授業の総まとめとしての15点満点の定期試験を実施します。

15%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「調理と文化」（朝倉書店）、「食の世界」（二宮書店）、「日本の食文化」（放送大学教育振興会）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業内課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。また、授業外課題（自作のお弁当持参）に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限（13：00-14：30）、

場所： 栄養第3研（中央館2階）

備考・注意事項： オフィスアワーは、水曜日3限（13：00-14：30）、場所は栄養第3研（中央館2階）です。授業や会議以外の時間には、栄養第3研究室にいますので、いつでも来室してもらって良いです。

授業計画

第1回

今日の朝ごはんから、日本食を考えましょう

次の週末までの7日間、朝食の取り方を意識して、改善できたことをまとめて次週に提出すること。

授業外学修課題にかかると目安の時間

4時間

	<p>①これぞ、和食の朝ごはんのイメージを絵に書きます。 ②日本旅館の朝食を見ます。 ③あなた自身の今朝のごはんを書きます。 ④ご飯またはパンを朝食にしている理由（メリット）を考えて、書きます。 ⑤ニューヨークとロンドンの典型的な朝食を見ましょう。 ⑥朝食に何を加えると良いか、ヒントを講義します。 ⑦自分の朝食をどのようにすると良いかを考えてプリントに記入します。 ⑧将来的には、朝食を和食と朝食のどちらにしたいかを書いて、プリントを提出します。</p>		
第2回	<p>大好きなお弁当から、健康的な食生活になっているかを検証しましょう。 ①一番好きなお弁当の絵を書きます。 ②隣りの人と絵を交換して、お弁当の評価（和食と洋食のポイントをつける）をします ③ポイントが付けられたお弁当を見て、健康的な和食のお弁当になっているかを考えます。 ④お弁当に勧めたい工夫を講義します。 ⑤簡単な和食弁当を考えて、プリントに書き、提出します。 ⑥来週に作って持参するお弁当を考えます。</p>	自分で作れる和食弁当を考えて、次週には作って集まります。	4時間
第3回	<p>現代の日本人として欠かせない行事と食を考えましょう。 ①作ってきたお弁当の写真を撮って、メールに添付して送信します。 ②1 から12月の行事と行事食について知っていることを書きます。 ③1 から12月の行事と行事食について講義します。 ④通過儀礼と食についても知識を持ちます。 ⑤ハレとケの食事を理解し、今の皆さんの食事と比べます。 ⑥将来、絶対に作りたいと思う行事食とそれを選んだ理由を書いて、プリントを提出します。</p>	御家の郷土料理をインタビューしてくるごと、来週の授業開始時に書きます。	4時間
第4回	<p>日本の郷土料理を知りましょう ①お家の郷土料理を書きます ②北海道、東北、関東地方の代表的な郷土料理を紹介します。 ③甲信越、東海、北陸、近畿地方の代表的な郷土料理を紹介します。 ④中国、四国、九州、沖縄地方の代表的な郷土料理を紹介します。 ⑤あなたが書いた、郷土料理はどこのものですか？ ⑥どんな食材を使って、どのように調理しますか？ ⑦隣りの人に紹介してみよう。 ⑧御家の郷土料理（なければ、自慢料理で良い）を再現できるようにまとめて提出します。</p>	お家の方に、神様や仏様にお供えているものをインタビューして記録してきましょう。	4時間
第5回	<p>宗教と食の関りを理解しましょう ①お家の神仏へのお供え物を書きます。 ②神殿へのお供え物と食材を理解します。 ③神事と私たちの食との関りを考えます。 ④仏殿へのお供え物と食材を理解します。 ⑤神仏への供え物と私たちの食の関りを考えます。</p>	来週までの1週間にご飯や米を使ったお菓子を食べたかを記録することが課題です。	4時間
第6回	<p>米の食文化を理解して、活用しましょう。 ①授業開始時に、1週間に食べた米を使った食べ物を書きます。 ②米は、いつからどのように日本で作られてたかなどに興味を持ちます。 ③外国では、米はどのように食べているのかなどに興味を持ちます。 ④米を使った食文化の発展を理解します。 ⑤米の栄養的特徴を理解します。 ⑥一週間の食べたお米は、どの食文化を受け継いでいるかを考えて、まとめたプリントを提出します。 ⑦食べてみたい米料理やお菓子を挙げて、その理由も書きます。</p>	来週までの1週間に小麦を使ったお料理やお菓子を食べたかを記録することが課題です。	4時間
第7回	<p>小麦や雑穀の食文化を理解して、活用しましょう。 ①授業開始時に、1週間に食べた小麦粉を使った食べ物を記録します。 ②小麦は、いつからどのように日本で作られてきたか、などに興味を持ちます。 ③米と小麦の違いを理解します。 ④パン発祥の歴史の知識を持ちます。 ⑤小麦粉を使った食文化の発展を理解します。 ⑥小麦の特徴と食材としての利用方法を理解します。 ⑦五穀についての理解を深めます。 ⑧食べてみたい小麦料理やお菓子を挙げて、その理由もプリントに書いて提出します。</p>	お家でよく食べる野菜をたくさん使った料理と食材をインタビューして記録してきましょう。	4時間
第8回	<p>身近な野菜の歴史と食文化を理解しましょう ①インタビューした野菜の食材を記録し、日本の原産野菜に印をつけます。 ②身近な野菜の伝来について興味を持ちます。 ③日本原産の野菜を確かめます。 ④身近な野菜の調理法に興味を持ちます。 ⑤野菜の加工技術（保存技術）についても講義します。 ⑥将来、作りたい野菜料理を挙げて、その理由もプリントに書いて提出します。</p>	来週までの一週間に大豆を使ったお料理やお菓子を食べたかを記録することが課題です。	4時間
第9回	<p>大豆の食文化・豆の種類、栄養について知識を広めましょう</p>	お家の自慢の魚を使ったお料理やお菓子を食べたかを記録することと自慢の魚料理をインタビューすることが課題です。	4時間

	<p>①授業開始時に、1週間に食べた豆を使った食べ物を記録します。</p> <p>②大豆は、いつからどのように日本で作られてきたか、などに興味を持ちます。</p> <p>③大豆と小豆の栄養的な特徴の違いを理解します。」</p> <p>④大豆を使った料理や加工食品について知識を広げます。</p> <p>⑤世界の豆料理に興味を持ちます。</p> <p>⑥食べてみたい豆料理やお菓子を挙げて、その理由もプリントに書いて提出します。</p>		
第10回	<p>魚介類と藻類の歴史と文化を理解しましょう</p> <p>①自慢の魚料理を記録します。</p> <p>②魚肉料理の歴史を知ります。</p> <p>③魚業の歴史を知ります。</p> <p>④魚の旬と料理に知識を広げます。</p> <p>⑤世界の魚料理と和食の違いに興味を持ちます。</p> <p>⑥藻類の調理方法に興味を持ちます。</p> <p>⑦食べてみたい魚料理を挙げて、その理由もプリントに書いて提出します。</p>	来週までの1週間に飲んだお茶とお菓子の種類と量を記録することが課題です。	4時間
第11回	<p>お茶の歴史と文化を理解します</p> <p>①1週間に飲んだお茶の種類を記録します。</p> <p>②茶葉の生産と分類について理解します。</p> <p>③日本茶の特徴と種類について知識を深めます。</p> <p>④日本茶の生産地と特徴への知識を深めます。</p> <p>⑤茶会と茶懐石について知識を広めます。</p> <p>⑥茶会と和菓子について知識を広めます。</p> <p>⑦和菓子の歴史と発展について理解します。</p> <p>⑧1週間に飲んだ日本茶の回数と和菓子の種類と量から考えて、今後、飲みたいお茶とお菓子を挙げて、その理由もプリントに書いて提出します。</p>	お家で使っている調味料を記録してきます	4時間
第12回	<p>日本と世界の調味料への知識を広げましょう</p> <p>①よく使い調味料を書きます。</p> <p>②基本5味と栄養素の関りを理解します。</p> <p>③味の組合わの効果を理解します。</p> <p>④日本の味「うまみ」を理解します。</p> <p>⑤日本の食文化を支える伝統調味料(味噌、醤油など)を理解します。</p> <p>⑥世界と日本の調味料の違いを理解します。</p> <p>⑦世界と日本の香辛料の違いを理解します。</p> <p>⑧お家の調味料の中から、今後必ず使いたい調味料や香辛料を挙げて、その理由もプリントに書いて提出します。</p>	来週までの1週間に食べたご飯、パン、麺類の回数を記録することが課題です。	4時間
第13回	<p>食材と食文化の発展の関りについて理解します</p> <p>①貴方が、1週間に食べたご飯、パン、麺類の回数を記録し、貴方の主食が何かを確かめます。</p> <p>②米と小麦の硬さの性質について理解し、粒食文化と粉食文化の違いを理解します。</p> <p>③粒食と粉食の副菜への影響を理解します。</p> <p>④粒食と粉食の食器や食事道具への影響を考えます。</p> <p>⑤今後の貴方にとって何を主食とするかを示し、その理由もプリントに書いて提出します。</p>	来週までの1週間に使った冷凍食品、レトルト食品、インスタント食品の種類や回数を記録することが課題です。	4時間
第14回	<p>変化している日本の食事情について理解しましょう</p> <p>①1週間に利用した冷凍食品の種類や回数を書きます。</p> <p>②変化する子供の食卓を理解します。</p> <p>③日常食の外食化について理解します。</p> <p>④中食産業の発展状況を理解します。</p> <p>⑤今後、どのようなことに気を付けて食事内容を設計したいかを考えて、プリントにまとめて提出します。</p> <p>⑥次週のお弁当を考えます。</p>	今回のまとめを実践するお弁当をもって、次週に集合します。	4時間
第15回	<p>魚の保存食について理解しましょう</p> <p>①お弁当の写真を撮って、メールで送ります。</p> <p>②お弁当の工夫点を記録します。</p> <p>③よく食べる(好きな)寿司の絵を書きます。</p> <p>④寿司の発祥から発展の歴史を理解します。</p> <p>⑤発酵すしや馴れ寿司について理解します。</p> <p>⑥早すしについても理解します。</p> <p>⑦定期試験に向けて、注意事項を説明します。</p>	定期試験に向けて、授業プリントを復習しておくこと	4時間

授業科目名	ホスピタリティー論				
担当教員名	今井孝司				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	・基本は座学で、コンピュータや動画、DVDを用いた授業展開をしますが、課題作成時には積極的な発言を求めます。・座席は指定します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

「ホスピタリティー」は他者を快く受け入れる「もてなしの精神」であり、訪れた人を歓待することを価値あることとする「行動規範」です。本授業では、まずサービスとホスピタリティーの違いを理解します。次に茶道・華道という日本文化に内在するもてなしの心や所作、ビジネス、店舗・旅館、テーマパークにおけるもてなしのシステムを、事例研究を通じて理解を進めます。授業を通じて皆さんが訪れる店のサービスのクオリティや店員などの所作などについて観察眼が養えるところまで指導します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

茶道・花道のホスピタリティー、商人あるいは店舗のホスピタリティー、そしてテーマパークのホスピタリティーなどから、現代の「おもてなし」について授業を進めていく。

目標：

日常生活におけるめりはり、非日常生活における癒しの演出方法について理解し行動にうつすきっかけとなる授業とする。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

現代の商業的癒しと、日本伝統文化に根付く癒しの相異と両者の利点を体感できる一歩とする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	50%	: 客観的テストによる評価。
提出課題	40%	: 時間内提出、翌週提出を含め各5点計8回の課題を出す。ワープロ仕上げによる記述課題も含まれる。
小テスト	10%	: 各5点客観方による2回の小テストを実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

星野克美『もてなし文化』ルネッサンス』…絶版のため購入不可能（購入の必要なし）適宜印刷し配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は授業の前後にもこたえるが、メールでも対応する。
アドレス：euage923[アットマーク]ican.zaq.ne.jp 今井孝司

授業計画

回	授業の進め方、評価方法等について簡単なクイズ実施	課題1：ホスピタリティーの語源を調べ、翌週提出	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・一般常識クイズを出題する。 ・クイズは成績に加味しない。 	課題1：ホスピタリティーの語源を調べ、翌週提出	4時間
第2回	「ホスピタリティー」と「もてなし」の概念と用語について <ul style="list-style-type: none"> ・見えるもてなしと見えないもてなしを理解する。 ・ホスピタリティーとサービスの違いについて理解する。 	課題2：「二十四節季」について調べ、翌週提出（ワープロによる記述）	4時間

第3回	もてなしに関する高度な人間関係—日本と中国の逸話に学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・石田三成による豊臣秀吉へのもてなし。 ・趙州禪師による「喫茶去」。 ・日本人の四季感覚；「室礼」とは何か。 	課題3：豊臣秀吉が千利休を切腹させた理由を調べ、300字程度でまとめ、翌週提出（ワープロ仕上げ）	4時間
第4回	茶道ともてなし—「いま・ここ」 <ul style="list-style-type: none"> ・一座建立。 ・一期一会。 ・「命がけ」のもてなし。 	茶道三千家いずれかのホームページを検索、目を通しておくこと（課題ではない）	4時間
第5回	茶道ともてなしの例—アレックス・カー氏と田中一光氏のもてなし（ビデオ上映） <ul style="list-style-type: none"> ・「型」を踏まえた「型破り」の極意。 ・創意工夫をこらしたもてなし。 	課題4：ビデオを観て、登場人物2名の「もてなし」について、どのように感じたか。400字程度で記述する（両者の比較でも構わない） 時間内提出	4時間
第6回	ビジネスのもてなし (1) 本田妃世氏のホスピタリティ観 <ul style="list-style-type: none"> ・「モノ」と「コト」のもてなし。 ・商人としてのもてなしの極意。 ・苦情から学ぶもてなし。 ・環境整備と「客寄せおどり」と「客追いおどり」。 	小テスト：客追い踊り、客寄せ音頭とは何か 記述による小テスト実施	4時間
第7回	ビジネスのもてなし (2) 客寄せ踊りと客追い踊り（フィールド・マーケティング理論） <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド・マーケティングの理論と実践について。 ・コンシェルジュの機能を理解する。 	課題5：スーパーマーケットのサラダバーの成功理由と失敗へと転じた理由について記述する 時間内課題	4時間
第8回	店舗と老舗旅館、料亭のもてなし <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル接客ともてなしの相違。 ・事例研究。 	配布した「虫食いレジュメ」をすべて埋める	4時間
第9回	茶とコーヒーの歴史文化—西歐 <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの上流社会が紅茶をたしなむ理由とは。 ・「悪魔の飲み物」コーヒーが西歐文化に取り入れられた過程—投機対象のコーヒー、もてなしの紅茶。 	配布した「ティー」と「チャ」の言語マッピングを色分けしておく（課題ではない）	4時間
第10回	喫茶店のもてなし <ul style="list-style-type: none"> ・沼田元氣氏の喫茶店観。 ・角山榮の「茶ともてなしの文化」。 ・1970年代地方都市の喫茶店文化（さだまさしの楽曲にあたる）。 ・ジャズ喫茶文化。 ・名古屋喫茶店文化事情。 	課題6：喫茶店の「スーベニール」を最低1品收拾し、写真に撮りプリントアウトしたものにコメントをつけて翌週提出	4時間
第11回	いけばなのおもてなし (1) 神と仏といけばな—ビデオ上映 <ul style="list-style-type: none"> ・いけばなのルーツ。 ・古代神道のカミ意識、仏教供花の技術。 ・池坊専好までのいけばな。 ・「花合わせ」のたのしみ。 	課題7：「これが癒しの花だ」と感じたいけばな、あるいはフラワーアレンジメント作品の写真をプリントアウトし、なぜそう感じたかというコメントを添えて翌週提出	4時間
第12回	いけばなのおもてなし (2) 現代社会のいけばなのホスピタリティ—ビデオ上映（再映） <ul style="list-style-type: none"> ・庶民が花を楽しめた江戸時代。平和な社会と余裕ある階層。 ・自由花と立花・生花。 ・料亭、旅館で好まれたタテへ展開する花。 ・タテの展開からヨコの展開へ—盛花のインパクト。接客空間の変化から。 ・家元が家元制度を否定する。 	課題8：指定するいけばなに関する論文を読み、いけばなの今後の可能性について論述し、翌々週提出（ワープロによる記述）	4時間
第13回	ホスピタリティの理論 (1) もてなし文化のニューパラダイム <ul style="list-style-type: none"> ・「ホスピタリティ」という言葉が語られ始めた時代の理論の構築について知る。 ・日本文化に内在するさまざまなホスピタリティ。 	配布したテキストのコピーを、ノートに簡略にまとめておく（課題ではない）	4時間
第14回	ホスピタリティの理論構築 (2) 人と自然のもてなしシステム <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究：テーマパーク、レジャーランド、ホテルで展開されるホスピタリティ。 	配布したテキストのコピーを、ノートに簡略にまとめておく（課題ではない）	4時間
第15回	ホスピタリティの理論 (3) 空間と装置のもてなしシステム <ul style="list-style-type: none"> ・自然に対して「開く（融和する）」日本文化、「閉じる（闘う）」西洋文化。 ・日本家屋の仕組みと道具。 	13～15回のホスピタリティ理論に関する小テスト実施	4時間
第16回	定期試験の実施		4時間

授業科目名	ホスピタリティー論				
担当教員名	島 雅則				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義とグループワークによる協同学習				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

ホテルに代表されるサービス産業の事業経営の両輪は、ホスピタリティーとマーケティングです。本講義では、その車の両輪の一つであるホスピタリティーの本質を、皆さんが実際に接客現場で経験する事例を題材にグループワークの中で理解を深めます。実際のホテルパーソンの生の話を聞き、与えられた課題の解決策も議論してもらいます。ホスピタリティーが業界、業種あるいは職種を問わず普遍的存在であることを実感してもらうこと、また和のおもてなしをベースにしたグローバルに通用するホスピタリティーとは？皆さんと一っしょに考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ホスピタリティーに関する基本知識	コミュニケーション、接客の場面で、その知識を行動で実践できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ホテル業の理解と業界動向	就活に備えて、職業理解を深めることができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		学修したホスピタリティーを学内外を問わず実践できる。
2．DP8. 意思疎通		協同学習や討論の中で、円滑なコミュニケーションを取ることができる。
3．DP10. 忠恕の心		ホスピタリティーの学修と実践を通じて、心を共有できる人間に成長できる。

学外連携学修

有り（連携先：株式会社ロイヤルホテル）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ 見学、フィールドワーク
- ・ 課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	50%	： 授業内容を良く理解できていること。基礎知識を用い、社会人になってからの自己目標を明確かつ前向きな取り組みの形で表現できているかという観点から評価する。
振り返りシート	30%	： その日の授業内容の要約（ミニッツシート）で授業理解度と要約力の向上を評価します。
授業とグループワークへの参加度	20%	： 講師の質問に対する回答や、ワーク中の積極的な意見発表、リーダーシップで評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

力石寛夫著 『ホスピタリティー（サービスの原点）』（商業界 2014年 第26刷）。その他の参考文献は授業の中で随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。日々ホスピタリティーを意識した生活を心がけ、毎回学んだことを実践し続けることで観察力が研ぎ澄まされ、自己成長につながります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日：4限、5限

場所： 島研究室（西館）

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、shima@osaka-seikei.ac.jp宛に学籍番号、氏名を記入し送付してください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	オリエンテーション、ホスピタリティーに関する基礎知識 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認します。ホスピタリティーとは何か？講師より一つの習得の道筋を示します。 グループワーク（アイスブレイク）	サービス現場の観察ポイントを決め、良い事例、悪い事例を収集し、報告書を作成する。 4時間
第2回	目標設定とその進捗管理 授業外課題について第1回目のグループで討議・発表。目標の設定と管理の方法について学ぶ。（ペアワークを実施）	サービス現場事例の収集継続。ホスピタリティーの語源についてネットや書籍で調べてくる。 4時間
第3回	ホスピタリティーの原点を知る ホスピタリティーの語源にさかのぼり、その本質を掴む。各自が調べた内容をグループワークの中で深化させます。	サービス現場事例の収集継続。サービスとホスピタリティーの違いを調べ、今までの収集事例を分類してみる。 4時間
第4回	サービスとホスピタリティー① ～その違いを知る～ サービスとホスピタリティーについて、それぞれの位置付けを理解する。いままでの収集事例をグループワークで整理する。	サービス現場事例の収集継続（ホスピタリティー事例のみ）ホスピタリティーと判断した理由を明記する。 4時間
第5回	サービスとホスピタリティー② ～事例発表～ グループワークの中で、皆さんの集めた生の事例を討議・発表し、サービスとホスピタリティーの本質を掴む。	サービス現場事例の収集継続（ホスピタリティー事例のみ）「コーチング」についてネットや書籍で調べ、課題用紙にまとめてくる。 4時間
第6回	コーチングとホスピタリティー① ～技法を学ぶ～ コミュニケーションスキルの一つであるコーチング技法を学ぶ。（ペアワークを実施）	サービス現場事例の収集継続（ホスピタリティー事例のみ）コーチングスキルを実践し、その結果を別途用意する用紙にまとめてくる。 4時間
第7回	コーチングとホスピタリティー② ～実践事例を共有する～ 皆さんが実践したコーチング事例をグループワークの中で共有・議論し、発表する。	「職業能力評価基準」（第7回の授業の最後で説明する）のHPでホテル業の職務について調べてくる。 4時間
第8回	ホテルの仕事を知る 「職業能力評価基準」を用いてホテル業の職務について理解する。	興味を持った職務（複数可）についてさらに知りたい内容を質問事項としてまとめてくる。 4時間
第9回	ホテルの現場を体感する（学外授業） 実際のシティホテルを訪ね、その仕事やお客様の動きを観察する。	ホテル現場体験をレポートにまとめる 4時間
第10回	ホテルパーソンの話を聞く（外部講師） ホテルの現場責任者に日々のホスピタリティー事例について講義いただく。 ※第10回、11回の授業は講師の予定により日程が変わることがあります。	ホテルパーソンから出された課題について、自分の考えをまとめてくる。 4時間
第11回	グループワークで理解を深める。 前回の外部講師の授業で出された課題についてグループワークで解決策を討議し、発表する。	2回のセッションの振り返りシートを作成する。 4時間
第12回	CS（顧客満足度）とES（従業員満足度） CSとESを学び、その相互関係とホスピタリティーとの関係性について理解する。	授業で学んだ内容の中で最も興味を持ったテーマに関し、ネットや書籍で調べ、レポートを作成する。 4時間
第13回	和のおもてなしとホスピタリティー 和のおもてなしとホスピタリティーの関係を知り、グループワークでそれぞれの長所と短所をまとめる。	サービス現場事例の収集継続（和のおもてなし事例）和のおもてなしに関して、ネットや書籍でさらに調べ、その課題と問題点に関してレポートを作成する。 4時間
第14回	グローバル・ホスピタリティー 日本と海外での接客現場でのホスピタリティー行動や考え方の違いを学び、グループワークの中で、今後の日本のホスピタリティーのあり方を討議し、発表する。	サービス現場事例の収集継続（外国人客への対応事例）いままで収集したサービス現場でのホスピタリティー事例を整理し、最終授業でのグループワークでの資料とする。 4時間
第15回	総括と振り返り 今後日本のサービス産業でのホスピタリティーはいかにあるべきか？その道筋をグループワークでの討論を通じて提案する。	これまで学んだすべての内容について整理し、定期試験に備える。 4時間

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	浅野法子・麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、本学での学びにスムーズに移行できるよう、建学の精神を学ぶとともに、図書館等の学内諸施設の有効な活用の仕方や、授業の受講方法等、基本的な学習スキルを身につけることを目的としています。また、グローバルコミュニケーション学科の学びの導入として、「大阪」をテーマとした課題解決型の授業を行います。大学での学びの基礎となるスキルや力を身につけるため、情報収集力、言語能力、構成能力の習得を目指します。さらに社会人の基盤となる共同力の習得も合わせて目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、学科での学びをテーマとした知識・展開力	情報収集、言語能力、構成能力、共同力を身につける。
汎用的な力		
1．DP10. 忠恕の心		相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2．DP4. 課題発見		収集した資料から「大阪」をテーマとした課題を発見することができる
3．DP5. 計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる
4．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5．DP5. 計画・立案力		自分の担当箇所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：黒門市場）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

基本課題	15%	： 課題に対して概ね解答できていれば1回1点とし、15点満点で評価する。
テーマ課題	70%	： 毎回の課題に対して授業内容を踏まえていれば4点。加えて独自の見解が示されていればプラス評価を行う。
事後課題	15%	： 課題に対して概ね解答できていれば1回1点とし、15点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「知へのいざない——大阪成蹊短期大学で学ぶ」FD委員会・初年次教育教科書作成部会
そのほか、授業時に適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野：水曜3限、麻島：○曜○限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間	
第1回	成蹊マインドを学ぶ ・「成蹊」の由来とその意味を学びます。 ・大阪成蹊で何をどのように学べるかを学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第2回	グローバルコミュニケーション学科での学びについて（1） 1) 基本課題 2) 学内の施設・設備等を知る①学内の施設・設備等を知る	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第3回	グローバルコミュニケーション学科での学びについて（2） 1) 基本課題 2) 学内の施設・設備等を知る②図書館の利用方法	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第4回	テーマ「大阪」：大阪の風土と自然（1） 1) 基本課題 2) グループワーク ・情報収集 3) 講義を聴く心構えを身につける。 ・ノートやメモのとり方を学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第5回	テーマ「大阪」：大阪の風土と自然（2） 1) 基本課題 2) グループワーク ・新聞記事を読み、内容を理解、要約文を作成する ・お互いの文章をチェックしあう ・質問の仕方を学ぶ 3) 発表	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第6回	黒門市場について調べよう 1) 基本課題 2) グループワーク ・情報収集をする 3) 発表の仕方を学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第7回	黒門市場について調べたことをまとめよう 1) 基本課題 2) グループワーク ・意見交換やディベートの方法を学ぶ 3) 発表	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第8回	黒門市場見学 フィールドワークを通して意見をまとめる	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第9回	黒門市場の見学の成果をまとめる 1) 基本課題 2) グループワーク 見学でわかったことをグループ内で共有 3) 発表	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第10回	テーマ「大阪」：大阪の文化（1） 1) 基本課題 2) グループワーク ・情報収集をする 3) レポートの書き方を学ぶ	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第11回	テーマ「大阪」：大阪の文化（2） 1) 基本課題 2) グループワーク ・情報収集をする 3) 発表	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第12回	テーマ「大阪」：大阪の今を知る（1） 1) 基本課題 2) グループワーク ・情報収集をする 3) 発表 母語としての日本語表現について考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第13回	テーマ「大阪」：大阪の今を知る（2） 1) 基本課題 2) グループワーク ・情報収集をする 3) 発表	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第14回	3つのテーマをまとめてみよう 1) 基本課題 2) グループワーク ・3つのテーマで見つけた「大阪」についてまとめ、グループごとに発表準備をする 3) 発表	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第15回	企画発表会 1) グループごとの企画発表会 2) 教員による講評	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	4時間

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	竹内正人				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施します。				

不可

授業概要

観光学科での学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として建学の精神「桃李ものいわざれど下おのずから道をなす」を理解し、建学の精神を身に付けます。授業では、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」）の修得を目指します。さらに社会人の基盤となる共働力（プレゼンテーション力）の修得も併せて目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、観光をテーマに知識・展開力	情報収集、言語能力、構成能力、共働力を身につける。
汎用的な力		
1．DP10. 忠恕の心		相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2．DP4. 課題発見		収集した資料から観光業界の課題を発見できる。
3．DP5. 計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる
4．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5．DP7. 完遂		自分の担当カ所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：関西国際空港 ホテル阪急インターナショナル）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。毎回、基本課題、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組む。基本課題として、忠恕に関する行動のまとめと常識力問題を問うミニテストを行う。また次回課題と常識問題を事後課題として配布する。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
基本課題	: 課題に対して概ね解答できていれば1回1点とし15点満点で評価する。
15%	
テーマ課題	: 毎回の課題に対して授業内容を踏まえていれば4点。加えて独自の見解が示されていればプラス評価を行う。
70%	
事後課題	: 課題に対して概ね解答できていれば1回1点とし15点満点で評価する。
15%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「知へのいざないー大阪成蹊短期大学で学ぶ」FD委員会・初年次教育教科書作成部会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3時限目

場所： 竹内研究室

備考・注意事項： 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
オフィスアワー以外でも研究室に在室の時は対応いたします。気軽に質問にきてください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	成蹊マインドを学ぶ 1) 基本課題 2) 成蹊短期大学で学ぶとは ①成蹊マインドとは ②学園のブランド意識 ③5運動 3) ワーク 「私の中の成蹊マインド」 4) グループワーク 発表	事後課題「観光について」「常識問題」 4時間
第2回	観光について調べてみよう 1 1) 基本課題 2) 観光・旅行について ①調べ方を学ぶ ②ワーク 調べてみよう ③発表	事後課題「調査方法」「常識問題」 4時間
第3回	観光について調べてみよう 2 1) 基本課題 2) データのまとめ方を知ろう ①グラフや表の活用方法とまとめ方 ②調べた観光データでグラフや表をつくらう ③グループワーク 調べたものをグラフや表を使ってまとめよう ④発表 PC教室を活用	事後課題「他グループとの比較」「常識問題」 4時間
第4回	観光について話を聞こう 1) 基本課題 2) 講演「旅の楽しみ」 3) 講演内容をまとめる	事後課題「観光の定義と楽しみ」「常識問題」 4時間
第5回	観光についてまとめてみよう 1) 基本課題 2) グループワーク：旅の楽しみ、そのための条件、共感項目などをまとめる。 3) 発表	事後課題「空港に関して資料を見る」「常識問題」 4時間
第6回	空港(交通)について調べよう 1) 基本課題 2) 旅行の移動手段としての交通期間の特性を考える 3) 空港について調べる 利用者 会社 どんな仕事があるのか	事後課題：「常識問題」 4時間
第7回	空港(交通)についてしらべたことをまとめよう 1) 基本課題 2) グループワーク ①空港の機能 ②空港の役割 ③働く場としての空港 3) 見学スポットについてまとめる 4) 発表	事後課題：見学のポイントのまとめ 常識問題 4時間
第8回	空港見学 空港施設見学 空港スタッフ見学	空港見学レポート 4時間
第9回	空港見学の成果をまとめる 1) 基本課題 2) グループワーク 見学でわかったことをグループ内で共有 3) 発表	事後課題：常識問題 4時間
第10回	ホテル(宿泊)について調べよう 1) 基本課題 2) 宿泊の種類 役割 宿泊業の基本サービスや多様なサービスについて 3) ホテルを調べよう	事後課題：「調べた結果の確認」「常識問題」 4時間
第11回	ホテルについて調べたことをまとめよう 1) 基本課題 2) グループワーク ホテルの機能 役割 サービス 利用するホテル 働くホテル 3) グループ内での発表 4) ホテル見学の事前ポイントを整理する	事後課題：常識問題 4時間
第12回	ホテル見学 ホテル見学 フロント 客室 結婚式場 ホテルスタッフとその役割 テーブルマナー	ホテル見学のレポート 4時間
第13回	ホテル情報をまとめる 1) 基本課題 2) グループワーク ホテルの機能と役割 (旅を楽しむために必要な機能や役割) 3) 発表	事後課題：常識問題 4時間
第14回	3つのテーマをまとめてみよう 1) 基本課題 2) グループワーク 3つのテーマで見つけた旅を楽しむ要素を活用してグループ旅行を企画する	事後課題：常識問題 4時間
第15回	企画発表会	結果の確認 4時間

- 1) グループごとの企画発表会
 - 2) 学生相互の講評 教員による講評
 - 3) 投票と評価
-

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	福永栄一・長澤直子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	少人数での講義、討論、発表、クラスを合同にしての講義など、各回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施する。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、建学の精神のもとに、短期大学での学びをスムーズに始めるための基礎力と思考力を養うことを目標とします。高校生活から大学生活へ移行することによる感覚のずれを無くしていくとともに、大学におけるレポート作成に必要な情報検索や文章表現等の知識と、実際のレポート作成技能を身につけます。また、知的書評合戦にも取り組み、プレゼンテーション能力を向上させるほか、課題図書読書の読書によってキャリアについても同時に考えていく機会を持ちます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	アカデミック・スキルとして、情報収集力や文章力を身に付ける	課題に沿った参考文献を収集することができる。決められた形式に沿って、感想文やブックレポートを書くことができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		毎回の細かな課題に対して対応し、行動・実践することができる。
2．DP7. 完遂		本を読み、内容を理解して課題レポートを指定された体裁に沿って書くことができる。
3．DP10. 忠恕の心		「桃李成蹊・忠恕」の精神を体現できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。期間中10回のミニ課題、および最終レポートで評価します。それぞれの点数とその基準は、以下のとおりとします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
・ ミニ課題（課題図書感想文、図書の検索等） 50%	： 感想文は誤字脱字がなく、文体が統一されていて、自分の言葉で表現できているか否かについて評価します。
・ 最終レポート 50%	： ブックレポートの体裁に沿って書けているか否かについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。参考文献が信頼性に欠けるものは減点し、図表の使用は加点するものとします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
桑田てるみ 編	・ 「学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版—スキルを学ぶ21のワーカー—」	・ 実教出版	・ 2015年
中沢孝夫	・ 「就活のまえに 良い仕事、良い職場とは？」	・ 筑摩書房（ちくまプリマー新書）	・ 2010年

参考文献等

「知へのいざない—大阪成蹊短期大学で学ぶ」 FD委員会・初年次教育教科書作成部会編

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

細かな課題が多数課せられますが、丁寧に取り組むこと。また、提出期限をきちんと守ること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 福永：水曜日3限／長澤：金曜日4限
場所： 研究室（西館5F）
備考・注意事項： アポイントのある方を優先します。

授業計画			授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	成蹊での学び、短期大学での講義に臨んで 「成蹊」の由来とその意味について学びます。その上で、本学において何をどのように学べるかを理解します。また、講義をさく心構えを身につけると同時に、ノート・メモのとり方についても学びます。	自分に必要なスキルは何かを考え、ノートに目標を立てます。	4時間
第2回	成蹊の施設・設備等を知る 学内の施設・設備を知るために、学内ツアーを実施します。学生生活に必要な施設利用について、自分で判断できるように理解を深めます。	課題図書（就活のまえに）の1章を読み、感想文を書きましょう。／学内各所の場所と働きを確認します。学校周辺の環境にも関心を持ちましょう。	4時間
第3回	図書館の活用 図書館へ行って、図書館の利用方法や本の検索方法を学びます。	課題図書（就活のまえに）の2章を読み、感想文を書きましょう。／実際に、図書館で1冊本を借りましょう。	4時間
第4回	レポート・論文とは何か レポートを書くための基本ルールを学びます。また、参考文献リストとは何かということについても学びます。	課題図書（就活のまえに）の3章を読み、感想文を書きましょう。	4時間
第5回	情報収集力をつける 情報収集力を身に付けるために、大学図書館のみならず、公共図書館の存在についても学びます。また、電子図書館の利用や、インターネットにおける有用な情報サイトの活用についても学びます。	課題図書（就活のまえに）の4章を読み、感想文を書きましょう。／課題図書以外の文献を1件以上見つけてきましょう。	4時間
第6回	読解力をつける (1) 前回までの情報収集において収集した文献の中で、レポートに利用できるものとできないものを取捨選択する方法について学びます。信頼できる情報か、そうでない情報かの見分け方を理解します。	課題図書（就活のまえに）の5章を読み、感想文を書きましょう。／課題図書以外の文献に関して取捨選択をしましょう。	4時間
第7回	読解力をつける (2) 文献をじっくりと読む方法について学びます。また、図表やグラフの読み取り方についても学びます。	課題図書（就活のまえに）の6章を読み、感想文を書きましょう。／与えられたレポート課題に対して、使える文献を揃えましょう。	4時間
第8回	要約力をつける まず、要約とは何かということ学びます。その上で、具体的な文章要約の方法を理解し、要約ができるようになります。	課題図書（就活のまえに）の7章を読み、感想文を書きましょう。／課題図書の指定された章を要約しましょう。	4時間
第9回	批判的思考力を身につける 大学での学習ではとても重要な、批判的思考力を身に付けます。まずは、疑問点に「つつこみ」を入れてみる練習をします。	課題図書を批判的に読み、「つつこみどころ」を見つけてまとめましょう。／知的書評合戦（ビブリオバトル）へ向けて、本を読みましょう。	4時間
第10回	表現力をつける レポート執筆に必要な、論理的な表現方法について学びます。また、執筆上の重要なルールとなる引用表現の記述方法や、参考文献の記述方法についても学びます。	最終レポートへ向けて、課題図書のどの章を元にしてレポートを書くかを検討するため、今一度課題図書を読み返しましょう。／知的書評合戦（ビブリオバトル）へ向けて、本を読みましょう。	4時間
第11回	ブックレポートの書き方を学ぶ 今回の課題となる「ブックレポート」の構成について学びます。また、実際のブックレポートの例を見て、書き方を学びます。	課題図書から1つの章を選択し、ブックレポートのテーマを決めましょう。／知的書評合戦（ビブリオバトル）へ向けて、本を読みましょう。	4時間
第12回	ブックレポートを書いてみる 課題図書を軸として、これまでの授業の中で収集してきた課題図書以外の参考文献の内容も参照しながら、実際にブックレポートを書いてみます。	ブックレポートを書き進めましょう。／知的書評合戦（ビブリオバトル）へ向けて、プレゼンの準備をしましょう。	4時間
第13回	知的書評合戦 (1) 知的書評合戦（ビブリオバトル）の予選を実施します。5分間のトークで、1人1冊、各自が紹介したい本の内容をより魅力的にプレゼンテーションします。	ブックレポートを書きすすめましょう。／友人に紹介された本を読んでみましょう。	4時間
第14回	知的書評合戦 (2) 前回に引き続き、知的書評合戦（ビブリオバトル）の決勝を実施します。	ブックレポートを書きすすめましょう。／友人に紹介された本を読んでみましょう。	4時間
第15回	ブックレポートを振り返る 実際に書いたブックレポートの修正点を知り、実際に修正してみます。	友人に紹介された本を読んでみましょう。／前期の学びを振り返り、反省点と後期への改善点を挙げましょう。	4時間

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	谷口信子・橋本弘子・弓岡仁美・小川 彩・井ノ上恭子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	クラス単位で、同じ内容の講義および演習を行う。毎回「今週の忠恕」について記入し、毎回プリント課題を提出する。毎回、授業開始時に漢字検定の過去問題と朝日新聞ワークシートに取り組む。				

開放科目の指示「不可」

授業概要

本科目は、2年間の学びに必要な力を段階的に身につけることによりプレゼンテーション力を身につけて、社会から求められる、共働できる素地を持った人材を育てることを目的とする。学びの流れは大きく3つに分けられ、①建学の精神に基づく学びの姿勢の確立、②情報収集や読み書きによる学びの基盤となる能力の修得、③社会人の基盤となる共働力となる共働力の修得である。栄養学科では、社会人になるために必要な会話力、文章表現力、自分の考えを相手に伝える力を専門性と関連付けて実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	建学の精神および忠恕を理解して、大学での学びの基礎的な力を学ぶ。	大学生として学びの姿勢を確立できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	栄養士として社会に出るうえで必要な力を身につける。	社会人の基盤となる力を身につけることができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		会話やあいさつ、文章表現など学んだことをすぐに行動できる。
2．DP10. 忠恕の心		相手を思いやり、相手の立場に立って物事を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	40%	: 授業内で取り組む課題を40点満点で評価する。
授業外レポート	40%	: 授業時間外で取り組む課題を40点満点で評価する。
受講状況	20%	: 積極的な参加、身についたことの実践状況などを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田上貞一郎・田中ひさよ、管理栄養士・栄養になるための国語表現（萌文書林、2012）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日3時限
 場所： 各研究室
 備考・注意事項： 昼休みに各教員の研究室で対応します。

授業計画

第1回	成蹊マインドと学びの姿勢を築く 建学の精神、忠恕について理解し、実践するためにはどうすればよいか考える。	どうして栄養士になろうと思ったか作文する。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--	-----------------------	-------------------------

第2回	よい聞き手になる ペアワークによって自己紹介を行い、相手を紹介する形で発表する。	次週の予習プリントをする。	4時間
第3回	栄養士に必要な会話表現 話し方の基本や日常使っている「ていねい語」「敬語」と思っている会話文を読んで、正しい敬語を学ぶ。	復習と次回の学習に向けて配布プリントを使った予習	4時間
第4回	栄養士に求められる文章表現 朝日新聞の天声人語を書き写し、文章の基本的な書き方を学ぶ。校外実習の実習ノートを想定し、1日にあった出来事を日誌形式で記録する。	1週間の出来事を書き留める。	4時間
第5回	自分の考えを人に伝える① 入学して1か月の感想を作文し、発表する。	次週の予習プリントに取り組む。	4時間
第6回	栄養士に必要な文章表現（応用編） 校外実習や就職活動を想定して、手紙の形式について学ぶ。実際に出身高校の先生に近況を報告する手紙を書く。	手紙の完成	4時間
第7回	共働する力を身につける①J A鳥取との連携授業 J A鳥取との連携授業を通して、グループで共働する力を付ける。	次週の予習プリントに取り組む。	4時間
第8回	共働する力を身につける②J A和歌山との連携授業 J A和歌山との連携授業を通して、グループで共働する力を付ける。	次週の予習プリントに取り組む。	4時間
第9回	食育講座 東淀川区保健福祉課との連携で、食育講座を実施する。	次週の予習プリントを読んでくる。	4時間
第10回	物事を客観的にみる ディベート方式で、テーマについて自分の考えを客観的に述べる練習をする。	ピンポンディベートのプリントに取り組む。	4時間
第11回	講演を聞く～管理栄養士の仕事～ スポーツ界で活躍する管理栄養士の話を聞き、内容をまとめる。	授業後のレポート作成	4時間
第12回	自分の考えを人に伝える② 入学して3か月の自分を客観的にみて、成長したと感じる点について考え、グループワークでまとめる。まとめたことを発表する。	次週のプリントを読んでくる。	4時間
第13回	図書館を利用する 図書館を利用して、情報検索をする。A：行事食 B：郷土料理（日本） C：世界の料理	情報収集したことをまとめる。	4時間
第14回	グループで調べたことをまとめる 先週調べたことをグループでまとめ、発表する。	個人レポートの作成	4時間
第15回	プレゼン大会 クラス代表で選ばれたグループによるプレゼン大会を行う。	10年後の自分について作文する。	4時間

授業科目名	ビジネスコミュニケーション				
担当教員名	森 茂治				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	毎回テーマを設定し、パワーポイントやレジメを使い、実践的な知識を学びながら、討議やスピーチ演習等を行います。第6回・第7回はグループ単位で発表をおこないます。第14回は個人のプレゼンに挑戦してもら				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、就職や社会参加に取り組む基盤的な力を養うために、対人関係におけるコミュニケーション力の基本を考察し、グループワークや発表を通じて、現在の自分自身のコミュニケーション力の課題に気づき、それを乗り越える手がかりを学びます。そのうえで、「ビジネスの場」におけるコミュニケーションの基本ルールや『聴く・伝える』スキルを養います。授業の後半では、「自分のセールスポイント」を認識するワークを行い、各人がプレゼンテーションに挑戦し、学習の成果を確認し合います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	対人コミュニケーション力とビジネス活動の基本スキル	ビジネスシーンを想定し、自身のセールスポイントを他者に伝えることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		ペアワークや討議により自身のコミュニケーション力の課題に気づくことができる。
2．DP8. 意思疎通		グループワークにより他者の意見を聴き、自身の考えを正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

グループワークへの取組み

評価の基準

- ・グループワークで積極的な役割を評価：5段階で評価
- ・個人レポートにおける情報の収集・整理内容と意見：5段階で評価

15%

個別レポート

- ・4回の課題レポートで、関連する情報を集め、分析的に整理をする。(各5点)

20%

プレゼンテーションのワーク作成と発表

- ・講義におけるワークに対する真摯な取組み態度(ワーク完成) 10点満点
- ・発表態度と内容の工夫 10点満点

25%

定期試験

- ・講義におけるコミュニケーションやビジネス社会の基礎的な知識の理解度を確認(60%)、論述式の問題は、前向きな取組み意識が自分の言葉として表現・記述できているかを評価する。(40%)

40%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。授業内において、適時、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業前後での質問を歓迎する。連絡を取りたい場合は非常勤講師室に連絡をすること。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間
第1回	コミュニケーション力の基本 社会生活におけるコミュニケーションの原理について考えます。	現在の自身のコミュニケーション力の現状・課題についてレポートを作成する。 4時間
第2回	自己開示と自己紹介の実践	自己開示の理論を復習し、「自分のアピールポイント」を整理し、掘り下げる。 4時間

	自己開示の原則について学び、「1対多」の自己紹介を実践します。		
第3回	好意的な印象と共感の獲得 「好意的な印象」がどのように形成されるか検討・整理し、言語と言語以外のコミュニケーション手法等について学びます。	① 書店やネット等で自分が気になる自己啓発やコミュニケーションスキルに関する書名を探し、レポートする。	4時間
第4回	他者への関心と人間関係 「他己紹介」を行い、相手を知ること（関心を持つこと）の重要性を学び、人間関係のあり方について討議します。	② 日常生活でコミュニケーションが上手くいかなかった体験とその理由をレポートする。	4時間
第5回	日常のコミュニケーション課題と克服策 アンケートによるコミュニケーション課題を整理し、グループで克服策を調べ、発表準備をおこないます。	ポジティブ・リスニングの手法を復習する。グループ毎に課題に関する情報を収集・整理する。	4時間
第6回	グループワーク発表① 「初対面の人と気軽に話ができる」・「第一印象を向上させる」テーマについてグループで発表し、全員で内容を掘り下げます。	グループワーク報告書、および、個人レポートを作成する。	4時間
第7回	グループワーク発表② 「スピーチや発表が苦手を克服する」・「相手を気遣いながら、自己主張を行う」テーマについてグループで発表し、全員で内容を掘り下げます。	グループワーク報告書、および、個人レポートを作成する。	4時間
第8回	ビジネス活動におけるコミュニケーションの特徴 ビジネス組織や運営の基礎的な仕組みを理解し、ビジネスパーソンのコミュニケーションの基本を学びます。	人事部とはどんな仕事をするのか、採用面接時の評価事項を調べ、レポートする	4時間
第9回	組織（チーム）のコミュニケーション 組織（チーム）で仕事を進めるために必要なコミュニケーションの基本を学びます。	インターネット等から、「ホウ・レン・ソウ」活動を整理し、理解する。	4時間
第10回	「売り手と買い手」のコミュニケーション 売り手と買い手の関係を理解し、接客サービスと営業活動のコミュニケーションについて学びます。	接客用語の基本についてレポートする	4時間
第11回	ビジネス活動における営業・セールスポイントの発想 ビジネス活動における「セールスポイント」の発想を参考にして、プレゼンテーションと説得の技法を学びます。	プレゼンテーション技法について実例を調べる。	4時間
第12回	「私のセールスポイント」を考える ワークシートを使い、自己の特徴や強み等を整理したうえで、「私のセールスポイント」を見つけ出します。	ワークシートの完成、自分らしさをどのように表現するかを検討する	4時間
第13回	発表シナリオを作る 「私のセールスポイント」を皆に発表するために、発表シナリオを作成します。	発表のシナリオを完成させ、内容を磨く。シナリオ声に出して発表練習を行う。	4時間
第14回	「私のセールスポイント」発表と検証 準備したシナリオを基に皆の前で発表を行い、アピール力の課題発見を行います。	自分を売込む力を向上させる課題を再確認する。	4時間
第15回	学習の振り返りと目標の設定 学習ポイントを振り返り、各自の今後のコミュニケーション力の向上の目標について考えます。	自身のコミュニケーション課題と今後の向上の取組み目標を整理し、レポートする。	4時間

授業科目名	コンピュータリテラシーB				
担当教員名	吉田澄江				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	配布プリントを使って操作手順を学び、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回の課題をステップアップ形式で進める				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータおよびOfficeの基本操作を理解していることを前提とし、Word・Excel・PowerPointの実践的な使い方（検定2級レベル以上）を学ぶ。主に、Wordは①ビジネス文書を短時間で効率よく作成するスキル②長文レポートの作成に活用できるスキル、Excelは①効率的な関数の使用②データベースの操作③高度なグラフの作成、PowerPointは①見栄えのするプレゼンテーションを効率的に作成するスキル②プレゼンテーションの設計～実施を学習する。実際のビジネス現場で使用頻度の高い機能を中心に、実践力・応用力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	情報リテラシー	Office (Word/Excel/PowerPoint) を活用して、目的に応じた文書・データベース・プレゼンテーションを効率よく適切に作成することができる。
汎用的な力		パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。
1 . DP4. 課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

単元ごとの課題	: タイピング 1ファイル (5点)、Word 3ファイル (10点)、Excel 6ファイル (15点)、PowerPoint 3ファイル (10点)、計40点	40%
アプリケーションごとの実技テスト	: Word (15点)、Excel (15点)、PowerPoint (15点)、計45点	45%
授業への取り組み状況	: 授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する	15%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編/FOM出版、その他授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

※本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※Word・Excel中級レベル以上の授業内容のため、初級レベルを習得している人のみ受講してください。
※毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。
ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業前後に質問対応します。 その他連絡が必要な場合はEメールで。（Eメールアドレス：yoshida-s@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

第1回 オリエンテーション／学内PCの操作確認

タイピング練習（10分間に入力できる文字数の目標を+200文字に設定）

授業外学修課題にかかると自安の時間

4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windows、Word、Excelの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について ・タイピングスキルチェック（10分間入力） ・タイピング練習ソフトを使った練習法 		
第2回	Word1 ～タイピングのコツとビジネス文書のフォーマット～ <ul style="list-style-type: none"> ・タイピング上達のコツ ・ビジネス文書フォーマットと効率のよい作成手順をマスターする ・ビジネス文書の作成 ・表の挿入と編集（罫線・網掛け・デザイン編集） 	Word課題①（ビジネス文書 検定2級問題）の復習	4時間
第3回	Word2 ～表現力をアップする機能を活用する～ <ul style="list-style-type: none"> ・オブジェクトの利用（図形作成・クリップアート・ワードアート） ・画像の加工 ・オブジェクトを利用した文書を作成する ・インターネット上の画像利用について 	Word課題②（チラシ作成～PDF保存）の復習	4時間
第4回	Word3 ～レポート作成に便利な機能を使いこなす～ <ul style="list-style-type: none"> ・ヘッダーとフッター／ページ番号／SmartArtグラフィック／図表番号などをマスターする 	Word課題③（長文レポート作成）の復習	4時間
第5回	Word4 ～長文レポート編集テクニック～ <ul style="list-style-type: none"> ・目次／見出し設定／脚注挿入／文書校閲などをマスターする 	ここまで学んだWord課題の復習および、応用課題（ビジネス文書 検定1級問題）への取り組み	4時間
第6回	Word 実技テスト/Excel1 ～Excelの基本操作を確認する～ <ul style="list-style-type: none"> ・Word 実技テストと解説 ・Excel 演算処理／絶対参照と相対参照／表の編集 	Word実技テストの復習／Excel課題①（絶対参照と相対参照）の復習	4時間
第7回	Excel2 ～データベースの操作と活用～ <ul style="list-style-type: none"> ・データベースとは？ ・データベースの分析と整理（集計・抽出・並べ替え・フィルターの利用） 	Excel課題②③（売上表作成・データベース編集）の復習	4時間
第8回	Excel3 ～様々な関数と関数のネスト～ <ul style="list-style-type: none"> ・様々な関数の活用 ・関数のネストをマスターする 	Excel課題④⑤（複数シートの操作・関数の利用）の復習	4時間
第9回	Excel4 ～高度なグラフを作成しよう～ <ul style="list-style-type: none"> ・データの視覚化に役立つ機能をマスターする（高度なグラフ作成・データバー・スパークライン・アイコン表示など） 	Excel課題⑥（高度なグラフの作成）の復習	4時間
第10回	Excel 実技テスト/Word・Excel の複合活用 <ul style="list-style-type: none"> ・Excel 実技テストと解説 ・WordとExcelの複合活用：Excelデータを利用したWord文書の作成 	Excel 実技テストの復習／WordとExcelの複合活用 練習課題	4時間
第11回	PowerPoint1 ～PowerPointの基本操作とプレゼンテーション作成～ <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointの基本操作 ・基本的なプレゼンテーションの作成 ・オブジェクト（表、グラフ、図形、グラフィック）を活用したプレゼンテーションの作成 	PowerPoint課題①（プレゼンテーション作成基本編）の復習	4時間
第12回	PowerPoint2 ～プレゼンテーションに特殊効果を設定しよう～ <ul style="list-style-type: none"> ・様々な特殊効果（アニメーション・画面切り替え効果）をマスターする 	PowerPoint課題②（アニメーションや特殊効果を含むプレゼンテーション作成応用編）の復習	4時間
第13回	PowerPoint3 ～プレゼンテーションの流れと実施のコツ～ <ul style="list-style-type: none"> ・資料の準備／話の組み立て／発表内容の検討 ・プレゼンテーション実施のコツ 	PowerPoint課題③（プレゼンテーション 検定2級問題）への取り組み	4時間
第14回	PowerPoint4 ～スライドショーに役立つ機能～ <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションのサポート機能 ・スライドのカスタマイズ ・目的別のスライドショー 	ここまで学んだすべての学習項目についての復習と課題提出	4時間
第15回	PowerPoint 実技テストと解説／総括 <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPoint 実技テスト ・実技テスト解説 ・ここまで学んだすべての学習項目についての総括（質疑応答） 	PowerPoint実技テストの復習／全課題の復習と提出	4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	上田和範				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	パソコンを用いた演習形式で授業する。必要に応じて資料をデータや印刷物で配布し、授業で作成したファイルの提出を求める。演習形式のため、課題の提出は必須とする。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

近年の情報化に伴い、職業現場においても家庭環境においてもコンピュータの一般化が当たり前の時代となっている。その中で、コンピュータの基本知識の理解と基本操作、情報処理能力の修得は必要不可欠となっている。この授業では、文書作成ソフトによるビジネス文書の作成やポスター作成、表計算ソフトによる情報の処理について演習形式で実用的な能力を学習する。また、コンピュータを用いた情報のデザインなど簡単な映像作品やWebサイトの構築によって、個々の表現力を養成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	コンピュータリテラシー	ビジネス文書の作成や表計算ソフトを用いて分析ができる。
汎用的な力		
1．DP6.行動・実践		各種ソフトの使い方や表現の工夫が出来、実践的な使い方ができる。
2．DP8.意思疎通		ソフトの使い方のみではなく、分かりやすい文章表現やデザインで表現できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の実習提出物	30%	： (2点×15回) 評価基準は実習内容を理解し、情報処理のスキルを身に付けられている:2点
提出課題	40%	： (10点×4回) 文章作成（ビジネス文書）、文書作成（ポスター）、動画作成（gifアニメ）、Webサイト（HTML） 評価の基準は①授業内容を理解して機能を使いこなしているか②オリジナルの表現や創意工夫がみられるか
実技試験	30%	： (10点×3回) 表計算（SUM・AVERAGEなど基本関数）、表計算（IF・VLOOKUP・COUNTIFなどの関数）、表計算（関数の応用とグラフ）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：ueda-ka@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と所属を書くこと。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス、コンピュータの基本的な使い方 授業の進め方の説明、タイピング、Webメール作成	2時間
第2回	文書作成①	4時間

	ビジネス文書の作成		
第3回	文章作成② ビジネス文章の作成	完成できなかった文書を完成させること	4時間
第4回	ポスター作成① ポスターの作成（練習）	Wordでの図や表の使い方を復習しておくこと	4時間
第5回	ポスター作成② オリジナルポスターの作成（課題）	ポスターを完成させること	4時間
第6回	表計算の基礎① 表計算ソフトの基本的な使い方	表計算ソフトの使い方を復習しておくこと	4時間
第7回	表計算の基礎② 関数の活用（SUM・AVERAGE・MAX・MIN）	確認テストを行うため、復習しておくこと	4時間
第8回	表計算の基礎③ 関数の活用（絶対参照・ROUND・IF）	学習した関数を復習しておくこと	4時間
第9回	表計算の基礎④ 関数の活用（RANK・VLOOKUP・SUMIF・COUNTIF）	学習した関数を復習しておくこと	4時間
第10回	表計算の実践 検定問題の練習	授業内に行った未完了の課題を完成させること	4時間
第11回	Webサイトの作成① HTMLを用いたWebサイト作成の基礎	HTMLのタグについて学習しておくこと、授業内で残った課題の完成	4時間
第12回	Webサイトの作成② HTMLを用いたWebサイトの作成	HTMLのタグについて学習しておくこと、授業内で残った課題の完成	4時間
第13回	Webサイトの作成③ HTMLとCSSを活用したWebサイトの作成	HTMLのタグについて学習しておくこと、授業内で残った課題の完成	4時間
第14回	画像から動画の作成① 画像を合成させ映像作品を作る（gifアニメ）	未完了の課題を完成させること	4時間
第15回	画像から動画の作成② 画像を合成させ映像作品を作る（gifアニメ）	未完了の課題を完成させること	4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	吉田澄江・寺田亜佐				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	配布プリントを使って操作手順を学び、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回ステップアップ形式で進めるので、欠開放科目の指示：「不可」				

授業概要

コンピュータ（Windows）の基本操作は理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作法を学んだ上で、情報化社会に対応するスキルとして①情報モラルとセキュリティ②Eメールとインターネットのルールとマナーを習得する。そして、ビジネスで活用できるスキルとして①タッチタイピングをマスターする②Office（Word・Excel）の実用的な使い方を習得する。Word・Excelは、実際にビジネスの現場で利用できる題材を使って、実践的に学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

情報リテラシー

目標：

情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集、Officeの活用まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見

パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

単元ごとの課題	40%	: タイピング 3ファイル（10点）、Word 5ファイル（15点）、Excel 7ファイル（15点）、計40点
アプリケーションごとの実技テスト	40%	: Word（20点）、Excel（20点）、計40点
授業への取り組み状況	20%	: 授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編／FOM出版、その他授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

※本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。
ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業前後に質問対応します。その他連絡が必要な場合はEメールで。（吉田：yoshida-s@osaka-seikei.ac.jp／寺田：terada@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

第1回	オリエンテーション／学内PCの操作確認	タイピング練習／キーと指の対応を予習	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---------------------	--------------------	-------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windowsの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について ・タイピングスキルチェック（10分間入力） ・タイピング練習ソフトを使った練習法 		
第2回	コンピュータの活用1 ～タッチタイピングをマスターする～ <ul style="list-style-type: none"> ・タイピングの基本/キーと指の対応 ・ローマ字入力スピードアップ術 ・タイピングソフトを使用した練習法 ・入力目標を設定する 	タイピング練習（10分間に入力できる文字数の目標を+200文字に設定）	4時間
第3回	コンピュータの活用2 ～効率のよい入力法でスピードアップする～ <ul style="list-style-type: none"> ・効率のよい入力を行うための変換技 ・ショートカットキーを使いこなす ・便利な機能の活用（変換モード/辞書ツール/IMEパッド） 	タイピング課題の復習（10分間入力の再チェック）	4時間
第4回	コンピュータの活用3 ～情報化社会に対応するスキルとは～ <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルとセキュリティ ・インターネットを使いこなす ・Eメールのルールとマナー 	ビジネスメールの作成と送信/Word基本操作の予習	4時間
第5回	Word1 ～ビジネス文書を作成する（基本編）～ <ul style="list-style-type: none"> ・入力と編集の基本 ・文字と段落の書式設定 ・ビジネス文書の基本フォーマット 	Word課題①（ビジネス文書基本編）の復習	4時間
第6回	Word2 ～表作成とビジネス文書（応用編）～ <ul style="list-style-type: none"> ・表の挿入と編集（罫線/網掛け/デザイン編集） ・表を含むビジネス文書作成 	Word課題②（ビジネス文書応用編）の復習	4時間
第7回	Word3 ～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～ <ul style="list-style-type: none"> ・表現力をアップする機能 ・オブジェクトの利用（図形作成/クリップアート/ワードアート） ・オブジェクトを利用した文書作成 	Word課題③（チラシ作成）の復習	4時間
第8回	Word4 ～実践テクニックと地図作成～ <ul style="list-style-type: none"> ・Word実践テクニック（テンプレートの活用/線種とページ罫線と網掛けの設定/図表と組織図） ・実践テクニックを活用したビジネス文書作成 ・地図作成とPDF変換 	Word課題④（地図作成～PDF保存）の復習	4時間
第9回	Word5 ～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> ・Word実技テスト ・実技テスト解説 	Word実技テストの復習/ここまで学んだWord課題の復習と提出確認/Excel基本操作の予習	4時間
第10回	Excel1 ～Excelの基本操作と表作成～ <ul style="list-style-type: none"> ・データ入力の基礎と手順 ・シートとセルの操作、書式設定 ・表の作成と編集 	Excel課題①②（売上表・管理表作成）の復習	4時間
第11回	Excel2 ～絶対参照/相対参照と関数を理解する～ <ul style="list-style-type: none"> ・演算処理 ・絶対参照と相対参照の違い ・関数の使い方と活用 	Excel課題③④（絶対参照と相対参照/基本の関数）の復習	4時間
第12回	Excel3 ～グラフの作成とデザイン編集～ <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの用途と種類、基本構成について ・各種グラフを作成する ・色々なデザインにアレンジする 	Excel課題⑤⑥（現金出納帳/様々なグラフ作成）の復習	4時間
第13回	Excel4 ～実践テクニックと複雑な関数～ <ul style="list-style-type: none"> ・Excel実践テクニック（関数の応用/関数のネスト/ワークシート/リスト/条件付き書式など） 	Excel課題⑦（関数の活用課題）の復習	4時間
第14回	Excel5 ～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> ・Excel実技テスト ・実技テスト解説 	Excel実技テストの復習/ここまで学んだExcel課題の復習と提出確認	4時間
第15回	Word/Excel 総括 <ul style="list-style-type: none"> ・WordとExcelの複合活用 ・Word/Excelの実践総合問題 	WordとExcel複合活用の練習（Word課題⑤）/全課題の復習と提出	4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	山田勅之				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータの基本知識の理解と基本操作、情報処理能力の修得することを目的とします。学内におけるコンピューターネットワーク環境の知識と操作法を学んだ上に、これからの学生生活、及び実社会で必要となるWordとExcel、Power pointを使って、その基礎的な技術を習得を目指します。また、Eメール利用とマナー、観光関連の文書やチラシなどの作成を通して、より実践的な力を身に付けるとともに、検定模擬試験問題にチャレンジして自身の実力を測ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	情報処理能力	ビジネスで活用できるスキルを習得する。
汎用的な力		
1．DP6.行動・実践		身に付けたスキルを用いて課題を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

配布プリントを使って操作手順を学び、実践力養成のためできるだけ多くの練習課題をこなしていきます。ステップアップ式に授業は進んでいくので、遅刻欠席は技術習得に支障を来すことを理解しておいて下さい。毎回「提出カード」に習得した技術などを記載して提出します。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎授業の課題提出に

評価の基準

：内容の完成度に応じて独自のルーブリックに基づいて評価します。

70%

「提出カード」

：内容に応じて全学ルーブリックに基づいて評価します。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『速攻！パソコン講座 Word&Excel 2010』マイナビ

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日2限

場所： 山田研究室（西館5階）

備考・注意事項： そのほか連絡を取りたい場合はEメール（yamada-n@osaka-seikei.ac.jp）で。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 学内におけるコンピューター環境の概要と使用方法の説明。 ドライブ、フォルダー、ファイルの確認、課題の保存、提出先の確認、Webメール作成。	校内のWebメールを実際に使用する。 4時間
第2回	コンピューターの基礎 タッチタイピングの基礎①。キーと指の対応。 タイピングソフトを使った練習。	タイピングの練習をする。 4時間
第3回	Word1 基本操作 基本操作（文字・文書の入力）。 文章入力の練習。	文章入力の練習をする。 4時間
第4回	Word2 編集の基本	書式設定について復習する。 4時間

	編集の基本。 文字と段落の書式設定。 文章入力の練習。		
第5回	Word3 表 表の挿入と編集（罫線、網掛け）。 ビジネス文書の作成。 Eメール利用とマナー。	表挿入の復習をする。	4時間
第6回	Word4 オブジェクトの基本 オブジェクトの利用。 表を含む文書の作成。	オブジェクトの復習をする。	4時間
第7回	Word5 オブジェクトの編集 オブジェクトを利用した文書の作成。 課題の作成。	オブジェクトの編集を復習する。	4時間
第8回	Word6 実践的練習 ハガキ、名刺の作成。	実際にハガキに文章を入れてみる。	4時間
第9回	Word7 旅程表 簡単な旅程表の作成。	ツアーパンフレットを見る。	4時間
第10回	Power Point 基本的な使い方。 プレゼンテーション用の作品を作成。	基本操作を復習する。	4時間
第11回	Excel1 基本 基本操作 シートとセルの基本操作 データ入力の基本	基本操作を復習する。	4時間
第12回	Excel2 データ入力 データ入力 書式設定 表の作成	書式設定を復習をする。	4時間
第13回	Excel3 関数 演算処理、関数。 練習問題（関数）	関数を復習する。	4時間
第14回	Excel4 グラフ グラフの作成 練習問題（関数）	グラフを復習する。	4時間
第15回	検定模擬試験問題 Word 文書入力問題（初級） Word文書・表作成問題（中級） Excel問題（初級）	検定模擬試験に挑戦する。	4時間

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	臼井達矢・紺谷武・阪野学・網谷綾香・範衍麗・松元早苗・永井伸人・阿部直美・熊谷綾子・塩見和利				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	少人数での討論、発表、クラスを合同しての講演など、各回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を受けます。				

開放科目の指示「可・不可」

授業概要

本講義は、まず大阪成蹊短期大学の学生として相応しい建学の精神等の「大阪成蹊マインド」について学びます。学びの基礎となる情報収集能力や言語能力、さらには構成能力などのスキル向上を目指します。学びがスムーズに始められるように、初年次教育の一環として本学の精神を理解し、情報を受・発信できる力の修得を目的とします。特に学びの基礎といえる「聞く力」と「読む力」及び、実習やレポート作成に必要な「書く力」の修得と向上に重点を置いて学んでいきます。また、将来の自己のキャリアについて考える端緒とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

保育の現場に出て十分に活躍できるように人間力の基となる知識や情報の集め方、文章の基本理解、コミュニケーションの取り方などを学びます。

目標：

幅広く教養と保育スキルを身につけ授業概要で述べている様々な力を身につけます。

汎用的な力

- 1 . DP10. 忠恕の心

学園の精神である忠恕の心とは何かを自分の生活に照らしながら考え実行する力をつけます。

- 2 . DP4. 課題発見

いろいろな資料を収集する中で現在自分が抱えている問題や社会が抱えている課題を発見することを目標とします。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

基礎となる力

30%

評価の基準

： 毎回の基本トレーニングの読み込む力・書ける力・表現する力を評価します

情報収集能力

30%

： 自ら集めてきた資料などをどのように整理し授業内で活用が出来ているかを評価します。

成蹊の精神

30%

： 忠恕の精神を自分なりに日常でどのように発揮しているのかあるいは日々考えているのかを学生の表現を通じて評価します。

授業への関心及び意欲

10%

： 授業そのものへの参加の仕方・発表の熱意などから総合的に判断します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』松本茂、河野哲也共著、玉川大学出版、2007年
その他は授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各教員による
 場所：
 備考・注意事項： 質問は授業の前後や各教員の研究室にて受け付けます。

授業計画			授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	成蹊マインドと学びを考えよう 「大阪成蹊短大で学ぶとは」の講義を聴きます 成蹊マインド 学園ブランドの意義 5 運動の意義と解説 忠恕の精神を考えます（話し合いと発表）	現代の子ども事情についての記事などをファイルします	4時間
第2回	保育や子どもについて情報を収集しよう パソコン以外で情報を得るにはどうすればいいかを探ります 調べることの出来るもの 情報を収集できる場所（図書館・資料館・博物館など） 調査の方法を知る 自分で調べてみる（子どもに関する気になるニュースなど） 第一グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します	調べたことをファイリングします。	4時間
第3回	調べたことをまとめて伝えましょう 保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします 集めた評論やニュースまたは社説などを自分なりに短い文章にしてみます 要約の仕方の指導を行います 第二グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを行い発表します。	授業での学びをファイリングします	4時間
第4回	講義をまとめる力を身につけよう 保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします 保育や教育に関する話を聞きます 話のポイントなどを的確にメモできる力を育てます。 前回の要約の方法に沿って講演の内容をまとめます 第三グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します	学んだことをファイルします	4時間
第5回	講義の内容について自分なりに考え意見を持とう 保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします 教師の講義の内容「生きる力（仮）・保育と私（仮）など」 講義の内容を要約だけでなく意見を持ってまとめます 講義から感じたことなどを表現します メモなどの短い文章などまとめます 第四グループ成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します	今後にも活用できるように内容をファイルします	4時間
第6回	まとめたものを発表できる力を身につけよう 保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします 先週まとめたものをグループで持ち寄ります。 グループで内容についての反論や意見や感想などを話し合います。 まとめたものを代表が発表します。 第五グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します	どのようなことを学んだか時間内のメモなどをスクラップしてまとめておきます	4時間
第7回	保育者の資質について学びます 保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします これからの保育者に必要なコミュニケーションについてトレーニングします 話し方・日本語の表現方法・親との会話・社会人としての常識など 第六グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します	学んだことをファイルしておきます	4時間
第8回	フィールドワーク幼稚園見学 幼稚園の施設環境などを見学します 保育者と幼児の関りを学びます 他の教科で事前学習などでの学習などと照らしあひながら見学します	学んだことを活用できるようにトリーとまとめておきます	4時間
第9回	幼稚園見学のまとめ 保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします 幼児のためにどのような配慮がされていたのかをグループで話し合います。 先生からの話をまとめておきます。 個人でレポートを作成し提出します。 第七グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します	人の意見も良く効いてファイリングしておきます	4時間
第10回	保育所について調べましょう	調べた内容についての意見などを箇条書きにしておきます	4時間

	<p>保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします</p> <p>図書館などで保育園について調べましょう 現在の問題点や保育者の意見など ネットではなく文章から調べて自分なりの興味や関心・課題を見つけます。 調べたことをメモやノートにします。</p> <p>第八グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します</p>		
第11回	<p>保育所について調べたこと文章にまとめます</p> <p>保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします</p> <p>保育所について調べた内容についてグループで発表しあいます 話し合いの結果気づいたり発見したことを簡単な文章にまとめます</p> <p>第九グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します</p>	いろいろな新聞の社説や評論を読んでもみます	4時間
第12回	<p>視覚教材から学びます</p> <p>保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします</p> <p>視覚教材DVDや録画教材をチェックを取りながら観ます 視聴したものに対して評論をしましょう 文章にまとめ評論にタイトルを付けて提出します</p> <p>第十グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します</p>	作った評論文を見やすくファイリングしておきます	4時間
第13回	<p>ディベートを体験します</p> <p>保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします</p> <p>ディベートを体験します。決められたテーマに沿って反対・賛成グループに分かれます</p> <p>賛成・反対の理由・意見をまとめます 発表して質問を受けます 審査員がどちらの言い分が正当化を評価します</p> <p>第十一グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します</p>	ディベートの体験をまとめておく	4時間
第14回	<p>キャリアデザイン</p> <p>保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします</p> <p>賛成派・反対派を入れ替えて討論を行います</p> <p>賛成・反対の理由・意見をまとめます 発表するし質問を受けます 審査員がどちらの言い分が正当化を評価します</p> <p>第十二グループが成蹊マインドを考える日常での成蹊マインドピックアップを発表します</p>	評価に対する感想をファイリングしておく	4時間
第15回	<p>将来のキャリアへのプロセスを描く</p> <p>保育に必要な専門用語などの基礎トレーニングをします</p> <p>これからどのような保育者・あるいは仕事をしたいかグループで話し合います グループの代表が発表します それに対して質問・感想を話します</p> <p>最終レポート：教員の出す課題を考えてレポートを書きます</p>	学生は期限までに課題を作成しファイルを完成します	4時間

授業科目名	英語会話 2				
担当教員名	J・ガーヴィー				
学年・コース等	1・2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	There will a variety of speaking , listening and writing activities in the class.				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

This course will focus on the basic of English. What you need when traveling abroad. This will be through games; quizzes and listening activities. It will make you for having the opportunity to learn practical your overall English ability. And moreover aims to provide for giving you get more chances to make good use of English for making communication with English expands students' potential possibilities.

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	具体的内容： 英語でのコミュニケーション力	目標： 日常的なことを英語で理解し、意思疎通することができる。
汎用的な力 1 . DP8. 意思疎通		自身の意見、考えを英語で表現し、他者に伝えられる英語力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

面接

50%

受講態度

50%

評価の基準

： 担当教員と英語による面接テストを行い、英語での理解力、発音、構成能力を独自のルールリングにおいて評価をする。

： 授業内における英語でのコミュニケーション力を独自のルールリングにおいて評価をする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Please buy a 100 yen notebook

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： Quest can be written down(in English or Japanese) and put into my post box in the office or given to Kyomuka.

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	This Course The first lesson is about this course and how you can pass this class	1時間
第2回	Classroom English In class we will talk about how to ask for help using English	1時間
第3回	Your Holiday Talking about your last holiday	1時間
第4回	Your partner`s weekend How to ask and answer questions about your last weekend .	1時間

第5回	Sports Asking and answering questions about your favorite sport.	Review Classroom English	1時間
第6回	Hobby Talking and asking questions about Hobbies	Review Classroom English	1時間
第7回	The Past Asking and answering questions about the past; where were you born etc	Review Classroom English	1時間
第8回	The Future What will you do next weekend	Review Classroom English	1時間
第9回	Favourite Things Ask and answer questions about your favorite things, things you like and dislike.	Review Classroom English	1時間
第10回	Shopping Asking and answering questions about your favorite shopping places etc .	Review Classroom English	1時間
第11回	Have you ever? Talking about experiences in your life ...Have you ever been to England ?	Review Classroom English	1時間
第12回	Describe your Room This lesson is about description; how to describe something to your partner	Review Classroom English	1時間
第13回	Review Students will review all the material in the course	Review Classroom English	1時間
第14回	A short Quiz and Reflection Basically this will be a test quiz about all the things we have covered in the course	Review Classroom English	1時間
第15回	Final Test and Reflection This is the final test in the course. It will be of (30) questions about you, your family and your hobbies . NOTE..THIS TEST IS 100% OF THE FINAL GRADE FOR THE CLASS...60% PLUS IS A PASS BUT 60% MINUS IS A FAIL.... TAKE NOTE !	Personal profile to be written about the person interview	1時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	澤田和也・山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	毎回パソコン教室にて演習形式で実施する。配布プリントをもとに、毎回のテーマに沿って基礎技術を習得し、演習形式でその技術を用いた提出課題を作成して提出する。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業の初期段階では、在学中にネットワーク環境を問題なく使いこなせるようになるため、PCの基本操作やメール、LANの基本構造について習得する。さらに在学中および卒業後に必ず必要となるパソコンのアプリケーションソフト（特にWord、Excel、PowerPoint）の最も基本的な操作について習得する。将来のアパレル・ファッション業界での業務を考慮し、情報収集力とプレゼンテーションのスキルも身につけるため、最終段階において上記アプリケーションソフトを総合的に利用し、特定の課題に対するプレゼンテーションを実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

パソコンの基礎的操作を通じ、与えられた課題に対して、必要な情報についてwebを通して入手出来るようになる。

目標：

Word、Excel、PowerPointの基本操作を通じ、情報収集に基づく整理とプレゼンテーションを行う。

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂

企画したテーマを達成するために、情報収集力を駆使し最後まで課題を最後まで完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業開始前にPCを起動しておくこと。
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の課題内容への取組み状況	45%	： 指示された内容について取り組んでいるかを判定
毎回の提出物の評価	30%	： 指定の課題に対して的確に実践できているかを判定
プレゼンテーション力	25%	： 指定課題内容を含んでいるか、分かり易い発表を行っているかを判定

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて授業内で適宜紹介。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業開始前にPCを起動しておくこと。
本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 澤田 月曜日（1限） 山下 火曜日（1限）
場所： 生活デザイン第1研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス（コンピュータスキルの向上に向けて） 学内におけるコンピュータやネットワーク環境の概要説明と使用方法について理解する。 授業における課題提出の方法を理解する。	4時間
第2回	Wordの操作1（文書の保存と印刷）	4時間

	基本的な文書の作成および保存、印刷の手法を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。		
第3回	Wordの操作2（文書作成） 文書作成におけるテクニック、表作成と書式操作について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	単語登録、特殊記号、インデント、行間設定など文書作成の基本テクニックを復習しておく。	4時間
第4回	Wordの操作3（資料作成と応用機能） 文書作成における頻度の高い応用機能について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	縦書きと横書き、段組み、文字の修飾など、機能性のある手法を復習しておく。	4時間
第5回	Excelの操作1（入力とシートの理解） 基本操作として、セルへのデータ入力、修正、移動、コピーについて習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバーの使い方を復習しておく。	4時間
第6回	Excelの操作2（演算・関数） 演算として数式の入力、関数使用・作成について習得する。 Excelを用いて表作成に関数機能を利用する能力を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	表計算の基礎となる演算方法を復習しておく。	4時間
第7回	Excelの操作3（グラフと資料の作成） グラフ作成方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	種々のグラフ作成と表示方法や機能について復習しておく。	4時間
第8回	PowerPointの操作1（デザインの基本） 基本操作として文字入力および体裁の変換方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバーの使い方を復習しておく。	4時間
第9回	PowerPointの操作2（図形描画の基本） 図形描画の手法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	オートシェイプ機能やレイアウトの基本ツールについて復習しておく。	4時間
第10回	PowerPointの操作3（プレゼンテーションの手法） プレゼンテーション機能について学ぶ。 PowerPointにExcelで作成した表やグラフを貼り付けることができる技術を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	背景設定やアニメーションの機能について復習しておく。	4時間
第11回	プレゼンテーション準備1（Word, Excel, PowerPointの総合理解） プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備。	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。	4時間
第12回	プレゼンテーション準備2（Word, Excel, PowerPointの総合理解） プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備を引き続き行う。	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションと講評の報告1（発表体験と講評練習） 前回までの授業で作成したプレゼンテーションファイルをもとに一人ずつ発表を行う。また、発表者のプレゼンテーションをもとに、それぞれの講評をまとめ提出する。	他人のプレゼンテーションについて、客観的な視線で講評できているかを再考しておく。	4時間
第14回	プレゼンテーションと講評の報告2（発表体験と講評練習） 引き続き、前回までの授業で作成したプレゼンテーションファイルをもとに一人ずつ発表を行う。また、発表者のプレゼンテーションをもとに、それぞれの講評をまとめ提出する。	他人のプレゼンテーションについて、客観的な視線で講評できているかを再考しておく。	4時間
第15回	プレゼンテーションに関する総括 全員の発表および講評の報告書をうけて、その内容を総括し、Word, Excel, Powerpointのプレゼンテーションに必要な能力を習得する。	自身で考えていることを正確に相手に伝えるためのプレゼンテーションに必要な、PCソフトの使用方法について総復習する。	4時間

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	松岡 依里子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	配布資料に基づき、解説し、ワークシートを使用します。また、グループディスカッションを行い、KJ法、ブレインストーミングなどのスキルを身につけ、発表を行います。毎回、テーマ別ミニレポートを提出し、次 開放科目の指示「不可」				

授業概要

建学の精神に基づき、大学生としての学びの方法、及び社会人基礎力をつけ、専門知識の学びと連動させるための学修力を高めることが目標です。授業では、大学でスムーズに学習できる基礎力と現代社会の諸問題に対応していきけるように、情報を収集し整理する力、文章表現力を向上させるとともに、グループディスカッションなどの協同学習を導入し、「聴く」「話す」「話し合う」ことで対話力をつけます。自らの考えを正確に伝え、多様な他者を受け入れるとともに、批判的思考法を学び、実践的な思考や表現を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	新聞や本についての論理的な分析をできるように学習する。	文章力、発表力をつける
汎用的な力		建学の精神や社会人マナーを身につける。 コミュニケーション力を鍛え、的確に自身を表現できるようにする。
1．DP10. 志願の心		
2．DP8. 意思疎通		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート	60%	： 課題について、独自のルーブリックに基づき、10点満点×6回で評価する。
プレゼンテーション	30%	： 発表による自己評価と独自のルーブリックに基づき、10点満点×3回で評価する。
最終レポート	10%	： 独自のルーブリックに基づき、10点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

藤田哲也 編著 大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために 北大路書房
向後 千春 18歳からの「大人の学び」基礎講座 北大路書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜3限
場所：	生活デザイン第2研究室
備考・注意事項：	生活デザイン学科メールおよび授業前後の質問及びオフィスアワーにて対応する。 Eメールでの質問の場合、件名「成蹊基礎セミナーについて；氏名；学籍番号」とすること。

授業計画

第1回	成蹊マインドと学びの姿勢を築こう	成蹊マインドを学生生活にどのように活かしていくか、レポートを書く。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	------------------	-----------------------------------	-------------------------

	成蹊基礎セミナーの授業の進め方や心構えなどの概要説明を行う。 建学の精神を理解し、将来のために自分自身が身に付けるべき知識や技能について考える。 大学生活でのマナー、社会的常識を学ぶ。また生活リズムについて理解する。		
第2回	ファッションコミュニケーション 自己表現を効果的に行うためのコミュニケーション技術を学ぶ。グループディスカッションにより、他者との効果的な関わり方について再考する。	振り返りレポートを作成する	4時間
第3回	ファッションブランドの歴史について調べてみよう ファッションブランドの本を読み、紹介する。また、その紹介された本の中で、読んでみたいと思った本を探し、内容をまとめる。(図書館利用)	読書レポートを作成する。	4時間
第4回	ファッションと社会の関係について調べてみよう 授業中にテーマを発表する。テーマをもとに、数冊の本あるいはインターネットを利用し、情報を集約し論理的思考に基づくレポートの書き方を学ぶ。	課題レポートを作成する。	4時間
第5回	ファッションの専門用語について調べよう 一般紙と業界紙など、新聞が社会に果たす役割について学ぶ。さらに、それぞれの記事の抽出し、要約する。グラフ、数字をに対する読み解きを学ぶ。	新聞のコンテンツを分析する。	4時間
第6回	ファッションの動向について調べてみよう① 一資料を収集する一 業界紙から、抽出した記事についての意見を書く。	論説文の要約と意見を書く。	4時間
第7回	ファッションの動向について調べてみよう②一資料の分析一 抽出した新聞記事について紹介し、意見交換を行う。	グループの意見を参照し、発表原稿を作成する。	4時間
第8回	ファッションの動向について調べてみよう③一まとめと発表一 調べた新聞記事および自分の意見、グループディスカッションをもとに、発表する。	プレゼンテーション評価シートを完成させる。	4時間
第9回	ファッションの動向と歴史との関係について考察しよう ファッションの動向と歴史を照合し、意見を書く。新聞の読書欄に投稿しよう。500字程度に意見をまとめる。	500字程度で意見文を作成する。	4時間
第10回	ファッション分析一エスノグラフィーの手法を用いて一 自分のファッションヒストリーを作成しよう。エスノグラフィー分析を行う。その際、ブレインストーミングを行う。	自分をあらわすエピソードを書く。	4時間
第11回	ファッションを通して、「自分とは何か」についてまとめる KJ法により、事象を整理する。	整理した内容について考察し、レポートにまとめる。	4時間
第12回	「ファッションと私」というテーマで発表しよう 「自分とは何か」について発表する。	発表について振り返りシートを作成する。	4時間
第13回	ファッションイメージ用語について調べる グループごとに、ブレインストーミングによりファッションイメージ用語を決める。 決めた用語について事象を書きだす。	事象を整理する。	4時間
第14回	ファッションイメージ用語の考察 テーマについての事象をKJ法により整理し、考察をまとめる。	発表原稿を作成する	4時間
第15回	ファッションイメージ用語の意味するものを学ぶ グループごとに発表し、シンボジウム形式で意見交換を行う。	前期の振り返りレポートを作成する。	4時間

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	山本友江・草尾賀子・田原 彩・板並晴美				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	4人の教員（山本）（草尾）（田原）（板並）が一定のプログラムにのっとりオムニバス形式で授業を進めます。調理Aクラス、Bクラス、製菓コース、フードコーディネーターコースの4クラスに分けての授業となり				

開放科目の指示「不可」

授業概要

調理・製菓学科で学ぶうえで必要となる基礎力を養います。皆さんは高校生から短期大学生になるわけで、当然求められるもの、学ぶ内容も変わってきます。この授業は2年間の短大生活が有意義なものとなるようサポートしていくものです。「建学の精神と行動指針」についての講義から始まり、情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」）、共働力（プレゼンテーション力）、数量的スキルについての学びが入ります。社会人として必須の基礎力を養う時間と考えてください。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、調理・製菓学科に必要な情報収集力、構成能力、共働力、数量的スキル、

目標：

調理・製菓学科に必要なスキルを上げる。

汎用的な力

- 1 . DP10. 忠恕の心
- 2 . DP4. 課題発見
- 3 . DP5. 計画・立案力
- 4 . DP9. 役割理解・連携行動
- 5 . DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から食の課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組む音ができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト	30%	: 各回に行う小テストで授業内容の理解度を独自のルーブリックで評価します。
レポート	20%	: 宿題の課題レポートの内容が主旨にあったものかで評価します。
授業での取り組み状況	30%	: 各回授業への積極的参加（発表や質問は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げとなる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
期末課題	20%	: 最終授業でファイルを回収します。配布プリントの課題を完成させて事後学習ができているかを独自のルーブリックで評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適時紹介いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 山本：オフィスアワーは月曜2限（10：40～12：10）調理研究室（本館3階）
草尾：オフィスアワーは月曜4限（14：40～16：10）フードコーディネーター研究室（本館3階）
田原：オフィスアワーは月・木曜（12：10～13：00）製菓研究室（本館3階）
板並：授業時間の終了後に講義教室もしくは非常勤講師室で受け付けます。

授業計画		授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	成蹊で学ぶということ（4クラス合同授業） 建学の精神を理解します。 自分の所属を正しく書けるようにします。	忠恕の精神を実行する。 4時間
第2回	「書くこと」の基本とノートの取り方を学ぶ（草尾） 基本的な文章の書き方と調理・製菓学科における講義、実習、実験等のノートの取り方および調理用語・製菓用語の専門用語について学びます。	授業内容を復習し、課題を完成させておく。 4時間
第3回	「書くこと」の実践と手紙・レポートの書き方を学ぶ（草尾） 手紙・レポートの書き方および調理用語・製菓用語を学びます。	授業内容を復習し、課題を完成させておく。 4時間
第4回	「書くこと」の実践とビジネス文書の書き方を学ぶ（草尾） ビジネス文書の書き方および調理用語・製菓用語を学びます。	授業内容を復習し、課題を完成させておく。 4時間
第5回	図書館を活用する（クラス単位授業） 当日示す課題について調べるために図書館に行きます。PCを使って実際に本の検索を行い、図書館をもっと活用できるようにします。	与えられた課題を完成させる。 4時間
第6回	コミュニケーションギャップについて ～ペアワーク～（板並） 自分のコミュニケーションの現状を知り、相手とのコミュニケーションギャップを最小限にする考え方を身に付けます。	学んだ事を日常生活で実践する。 4時間
第7回	信頼され印象に残る自己紹介 ～グループワーク～（板並） 相手を意識した自己紹介の構成を学び、非言語コミュニケーションの影響力を味方に、信頼され印象に残る自己紹介実践します。	学んだ事を日常生活で実践する。 4時間
第8回	グループ内のコミュニケーション ～体験学習～（板並） グループ内での自分や他者の動き、リーダーシップについて考えながら、協力して課題に取り組みます。	学んだ事を日常生活で実践する。 4時間
第9回	読解力を身につける（1）～時事ワークシート～（田原） 時事ワークシートを使って、読み取る力を身につけます。	授業内容を復習し、課題を完成させる。 4時間
第10回	読解力を身につける（2）～新聞記事～（田原） 要約について学び、食に関する新聞記事を実際に要約してみます。	授業内容を復習し、課題を完成させる。 4時間
第11回	読解力を身につける（3）～発表～（田原） 興味を持った記事を要約、自分の意見をまとめ、グループ内で発表します。	授業内容を復習をし、課題を完成させる。 4時間
第12回	前期終了に向けて（3クラス合同授業） 本学の試験システム、夏季休業、成績発表等について解説します。 あわせて後期共通科目の希望調査も行います。	定期試験に向けての学習計画を立てる。 4時間
第13回	調理に使う基本単位の確認（1）～見当について～（山本） 高校までに習った基本単位（容量、長さ）を調理に即して考えます。“見当をつける”ことをおぼえる。	身近な食材の重さ、大きさを調べてみる。 4時間
第14回	調理に使う基本単位の確認（2）～調理の現場に即して～（山本） 高校までに習った基本単位（容積、時間等）を調理の実践に応用して考えます。	計量スプーンで計れる量について実際に調べてみる。 4時間
第15回	計算に強くなる～計算（割合、%）（山本） 家庭料理技能検定の問題を使って実践に即した計算力を確かめるとともに、今後の学びの計画を考えます。	調理に関する計算で実践に即した計算力を養う。15回の授業の総まとめを行う。 4時間

授業科目名	海外語学演習（英語）				
担当教員名	妻木麻紀子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	留学先の国について、多様な角度から学び、現地での生活、学習などについて、自ら情報を収集することができるように指導します。				

可

授業概要

この授業は海外語学留学に行く学生のために、留学生生活をスムーズに開始し、現地での大学生活に適応して、積極的かつ有意義に留学期間を過ごすことができるよう事前に学ぶことで、成果をもって日本に帰国することができるようにすることが目標です。留学先の国について、生活習慣、食事、マナー、言語、気候などあらゆる角度から学び、現地での生活、学習などについて、学生自ら情報を収集することができるように指導します。

なお、本科目は語学留学と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

語学の基礎知識：留学を円滑に行うことができるよう、必要となる知識を身に付けることができる。

目標：

留学の基礎知識：出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性をもって高めることができる。

- 2 . DP7. 完遂

積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

事前授業における参加状況

評価の基準

： 授業内での積極的な発言および取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。

30%

留学中の生活・学習状況

： 現地大学のクラス・グレードおよび学生の研修報告シート。

40%

事後授業における到達状況

： レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せずプリントを配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。海外語学研修に参加する学生のみが履修可能。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項：授業の前後にも質問に応じる。

授業計画			授業外学習課題にかかると自らの時間
第1回	海外留学について学ぶ 留学の意義、目的などについて説明。	各自、留学の意味、目的について考える	4時間
第2回	英語の基礎的な学力を確認する 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック	4時間
第3回	英語の会話文例を学ぶ 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習など行う。	会話文例の復習、不明点のチェック	4時間
第4回	海外の生活習慣・文化について理解する 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック	4時間
第5回	海外語学留学（23日間） 留学先の大学・語学学校における研修。	留学先の大学・語学学校の課題	4時間
第6回	語学留学で習得したことを整理する 語学留学を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際の生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ	4時間

授業科目名	コンピュータリテラシーA				
担当教員名	吉田澄江・寺田亜佐				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	配布プリントを使って操作手順を学び、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回ステップアップ形式で進めるので、欠開放科目の指示「不可」				

授業概要

コンピュータ（Windows）の基本操作は理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作法を学んだ上で、情報化社会に対応するスキルとして①情報モラルとセキュリティ②Eメールとインターネットのルールとマナーを習得する。そして、ビジネスで活用できるスキルとして①タッチタイピングをマスターする②Office（Word・Excel）の実用的な使い方を習得する。Word・Excelは、実際にビジネスの現場で利用できる題材を使って、実践的に学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	情報リテラシー	情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集、Officeの活用まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。
汎用的な力		パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。
1．DP4.課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

単元ごとの課題	40%	: タイピング 3ファイル（10点）、Word 5ファイル（15点）、Excel 7ファイル（15点）、計40点
アプリケーションごとの実技テスト	40%	: Word（20点）、Excel（20点）、計40点
授業への取り組み状況	20%	: 授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編/FOM出版、その他授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

※本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。
ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業前後に質問対応します。その他連絡が必要な場合はEメールで。（吉田：yoshida-s@osaka-seikei.ac.jp/寺田：terada@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

第1回	オリエンテーション/学内PCの操作確認	タイピング練習/キーと指の対応を予習	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---------------------	--------------------	-------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windowsの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について ・タイピングスキルチェック（10分間入力） ・タイピング練習ソフトを使った練習法 		
第2回	コンピュータの活用1 ～タッチタイピングをマスターする～ <ul style="list-style-type: none"> ・タイピングの基本/キーと指の対応 ・ローマ字入力スピードアップ術 ・タイピングソフトを使用した練習法 ・入力目標を設定する 	タイピング練習（10分間に入力できる文字数の目標を+200文字に設定）	4時間
第3回	コンピュータの活用2 ～効率のよい入力法でスピードアップする～ <ul style="list-style-type: none"> ・効率のよい入力を行うための変換技 ・ショートカットキーを使いこなす ・便利な機能の活用（変換モード/辞書ツール/IMEパッド） 	タイピング課題の復習（10分間入力の再チェック）	4時間
第4回	コンピュータの活用3 ～情報化社会に対応するスキルとは～ <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルとセキュリティ ・インターネットを使いこなす ・Eメールのルールとマナー 	ビジネスメールの作成と送信/Word基本操作の予習	4時間
第5回	Word1 ～ビジネス文書を作成する（基本編）～ <ul style="list-style-type: none"> ・入力と編集の基本 ・文字と段落の書式設定 ・ビジネス文書の基本フォーマット 	Word課題①（ビジネス文書基本編）の復習	4時間
第6回	Word2 ～表作成とビジネス文書（応用編）～ <ul style="list-style-type: none"> ・表の挿入と編集（罫線/網掛け/デザイン編集） ・表を含むビジネス文書作成 	Word課題②（ビジネス文書応用編）の復習	4時間
第7回	Word3 ～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～ <ul style="list-style-type: none"> ・表現力をアップする機能 ・オブジェクトの利用（図形作成/クリップアート/ワードアート） ・オブジェクトを利用した文書作成 	Word課題③（チラシ作成）の復習	4時間
第8回	Word4 ～実践テクニックと地図作成～ <ul style="list-style-type: none"> ・Word実践テクニック（テンプレートの活用/線種とページ罫線と網掛けの設定/図表と組織図） ・実践テクニックを活用したビジネス文書作成 ・地図作成とPDF変換 	Word課題④（地図作成～PDF保存）の復習	4時間
第9回	Word5 ～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> ・Word実技テスト ・実技テスト解説 	Word実技テストの復習/ここまで学んだWord課題の復習と提出確認/Excel基本操作の予習	4時間
第10回	Excel1 ～Excelの基本操作と表作成～ <ul style="list-style-type: none"> ・データ入力の基礎と手順 ・シートとセルの操作、書式設定 ・表の作成と編集 	Excel課題①②（売上表・管理表作成）の復習	4時間
第11回	Excel2 ～絶対参照/相対参照と関数を理解する～ <ul style="list-style-type: none"> ・演算処理 ・絶対参照と相対参照の違い ・関数の使い方と活用 	Excel課題③④（絶対参照と相対参照/基本の関数）の復習	4時間
第12回	Excel3 ～グラフの作成とデザイン編集～ <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの用途と種類、基本構成について ・各種グラフを作成する ・色々なデザインにアレンジする 	Excel課題⑤⑥（現金出納帳/様々なグラフ作成）の復習	4時間
第13回	Excel4 ～実践テクニックと複雑な関数～ <ul style="list-style-type: none"> ・Excel実践テクニック（関数の応用/関数のネスト/ワークシート/リスト/条件付き書式など） 	Excel課題⑦（関数の活用課題）の復習	4時間
第14回	Excel5 ～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> ・Excel実技テスト ・実技テスト解説 	Excel実技テストの復習/ここまで学んだExcel課題の復習と提出確認	4時間
第15回	Word/Excel 総括 <ul style="list-style-type: none"> ・WordとExcelの複合活用 ・Word/Excelの実践総合問題 	WordとExcel複合活用の練習（Word課題⑤）/全課題の復習と提出	4時間